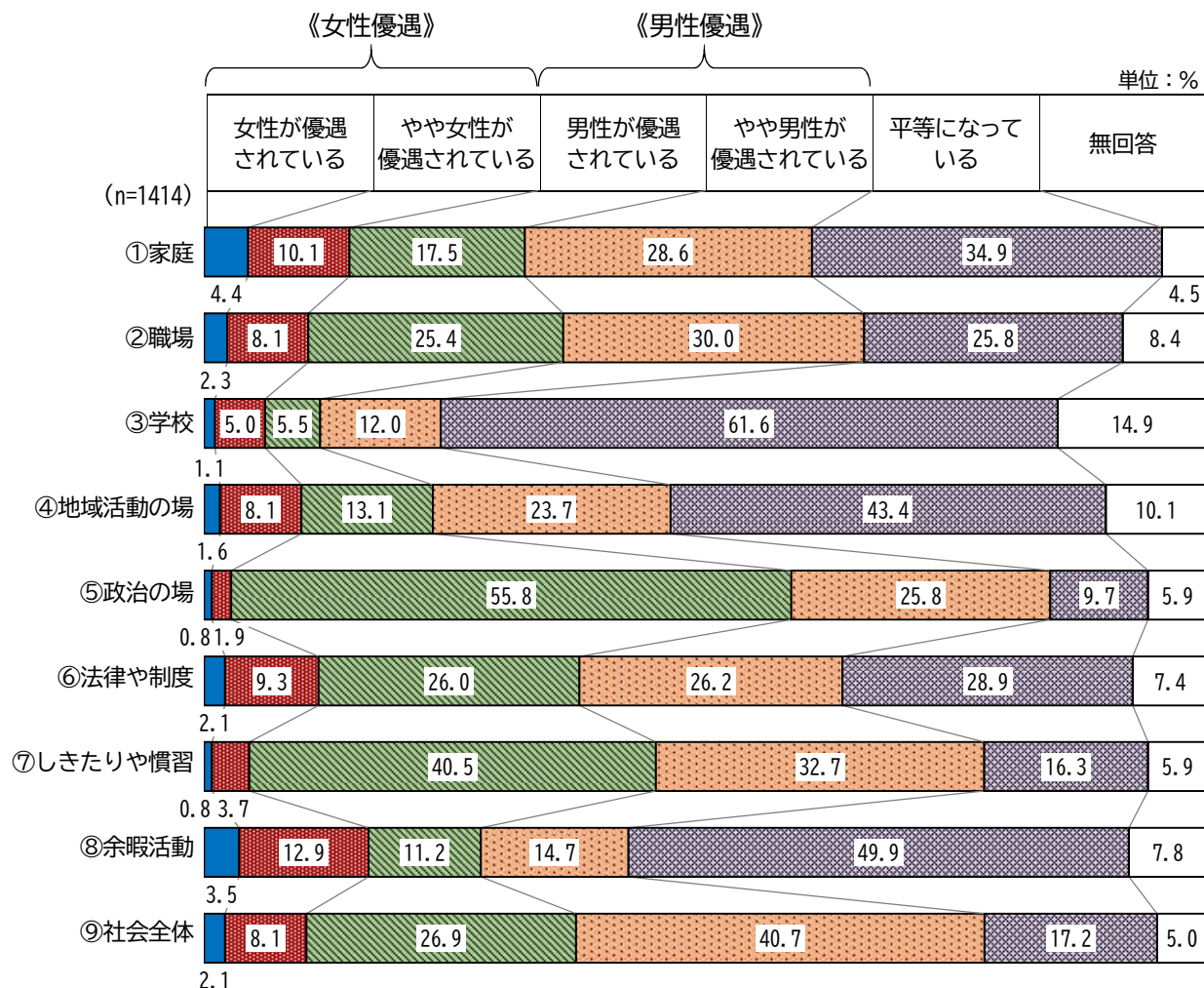


6. 男女共同参画

(1) 男女の地位

◇「平等になっている」は学校で6割強、余暇活動で5割弱、地域活動の場で4割半ば近く

問 17 次の分野で、男女の地位は平等だと思いますか。(○は1つだけ)



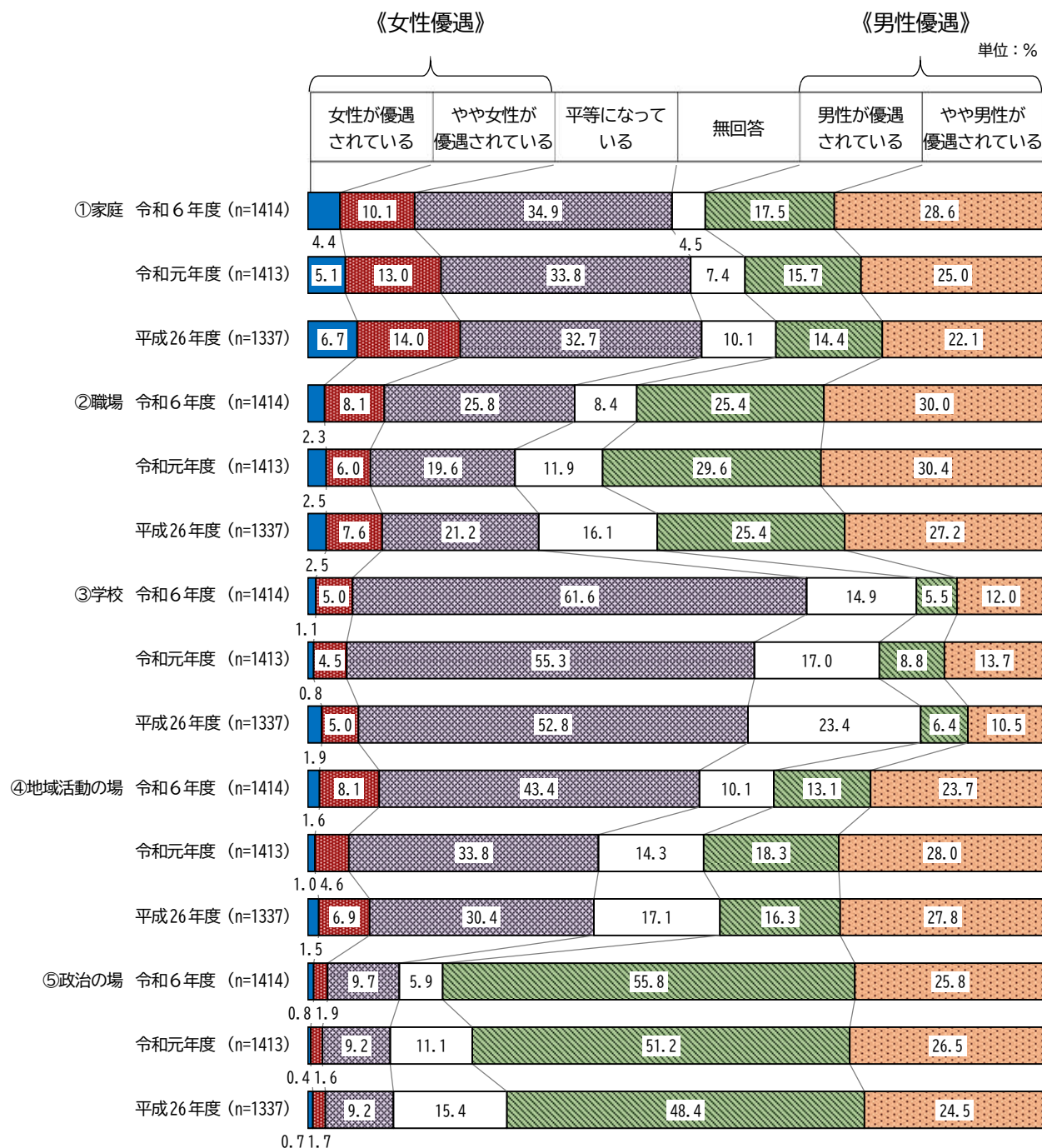
(注) 《女性優遇》 = 「女性が優遇されている」 + 「やや女性が優遇されている」

《男性優遇》 = 「男性が優遇されている」 + 「やや男性が優遇されている」

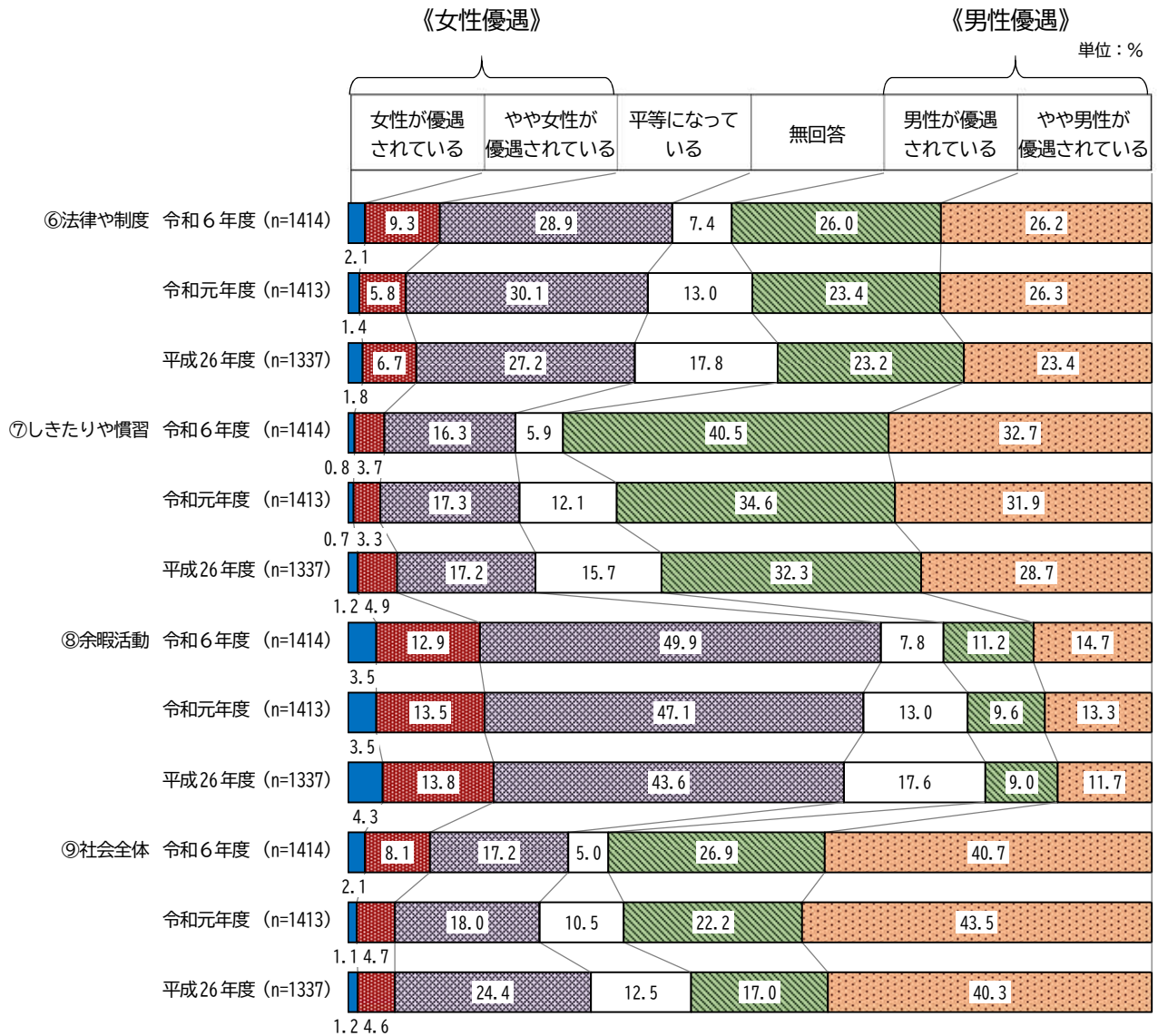
男女の地位について聞いたところ、「平等になっている」は「③学校」(61.6%)が6割強で最も高く、次いで、「⑧余暇活動」(49.9%)が5割弱、「④地域活動の場」(43.4%)が4割半ば近くとなっている。《男性優遇》は「⑤政治の場」(81.6%)が8割強と高く、以下、「⑦しきたりや慣習」(73.2%)、「⑨社会全体」(67.6%)の順となっている。一方、《女性優遇》は「⑧余暇活動」(16.4%)が1割半ばを超えて最も高く、以下、「①家庭」(14.5%)、「⑥法律や制度」(11.4%)の順となっている。

経年比較でみると、「平等になっている」は「①家庭」、「③学校」、「④地域活動の場」、「⑧余暇活動」で増加傾向にある。また、「②職場」は令和元年度より6.2ポイント増加している。《男性優遇》は「①家庭」、「⑤政治の場」、「⑥法律や制度」、「⑦しきたりや慣習」、「⑧余暇活動」、「⑨社会全体」で増加傾向にある。一方、《女性優遇》は「⑨社会全体」で令和元年度より4.4ポイント増加している。

男女の地位 経年比較



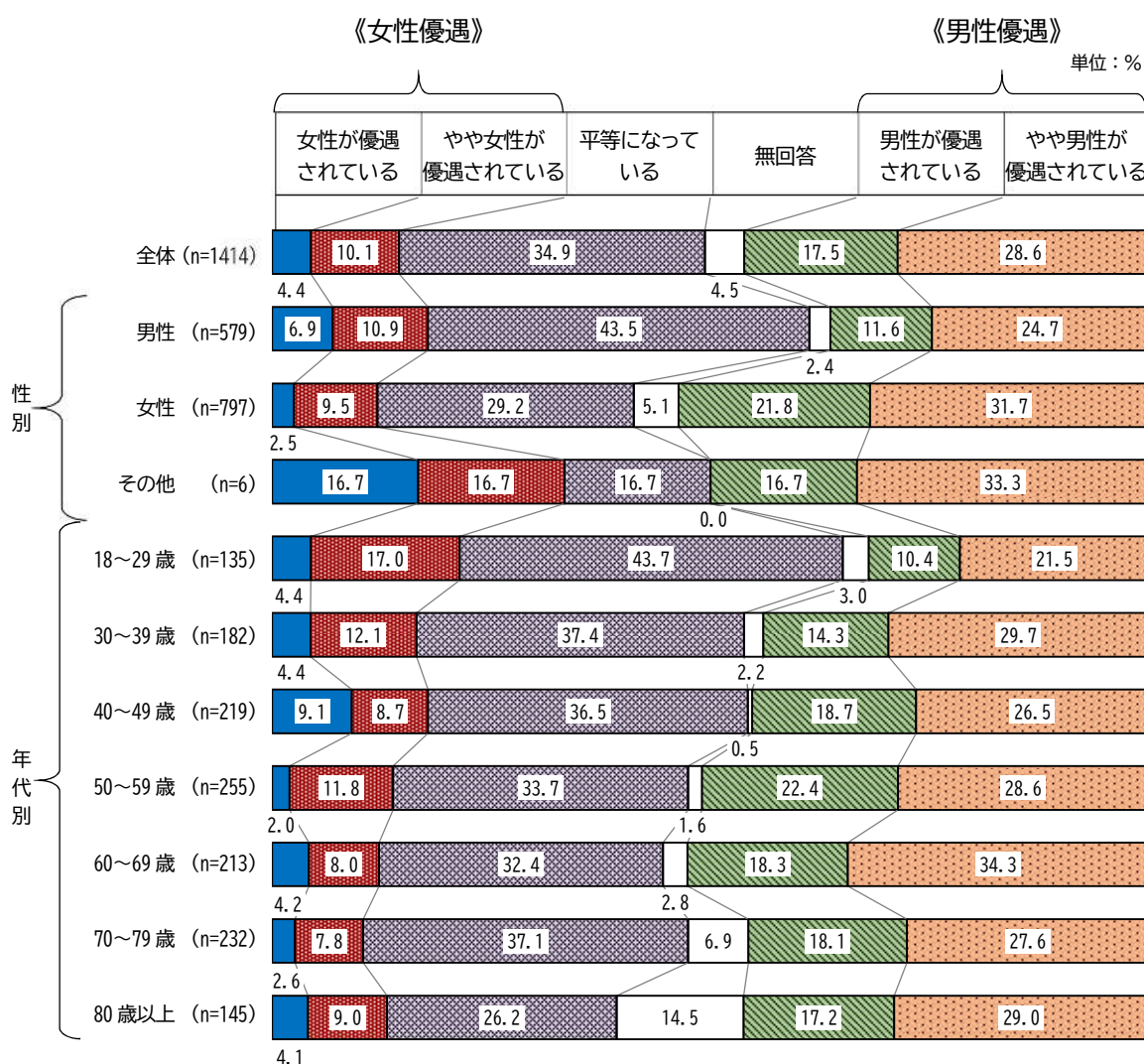
男女の地位 経年比較



男女の地位（家庭）を性別でみると、「平等になっている」は男性（43.5%）が女性（29.2%）より14.3ポイント高くなっている。《男性優遇》は女性（53.5%）が男性（36.3%）より17.2ポイント高く、《女性優遇》は男性（17.8%）が女性（12.0%）より5.8ポイント高くなっている。

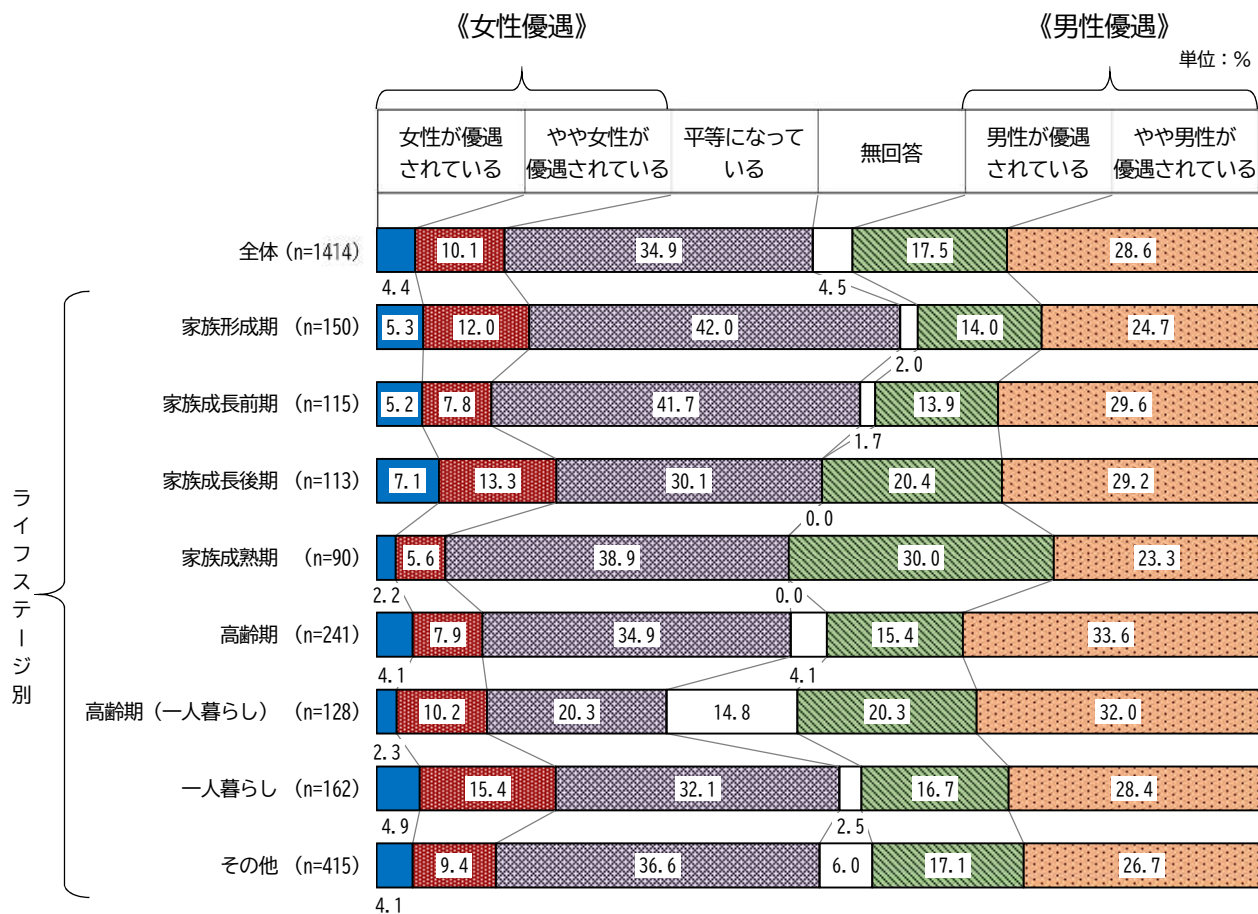
男女の地位（家庭）を年代別でみると、「平等になっている」は18～29歳（43.7%）が4割半ば近くと最も高くなっている。《男性優遇》は50～59歳（51.0%）と60～69歳（52.6%）が5割強と高く、《女性優遇》は18～29歳（21.4%）が2割強、30～39歳（16.5%）と40～49歳（17.8%）が1割半ばを超えている。

男女の地位（家庭） 性別／年代別



男女の地位（家庭）をライフステージ別でみると、「平等になっている」は家族形成期（42.0%）、家族成長前期（41.7%）が4割強と高くなっている。《男性優遇》は家族成熟期（53.3%）が5割半ば近く、高齢期（一人暮らし）（52.3%）が5割強と高く、《女性優遇》は家族成長後期（20.4%）と一人暮らし（20.3%）が2割と高くなっている。

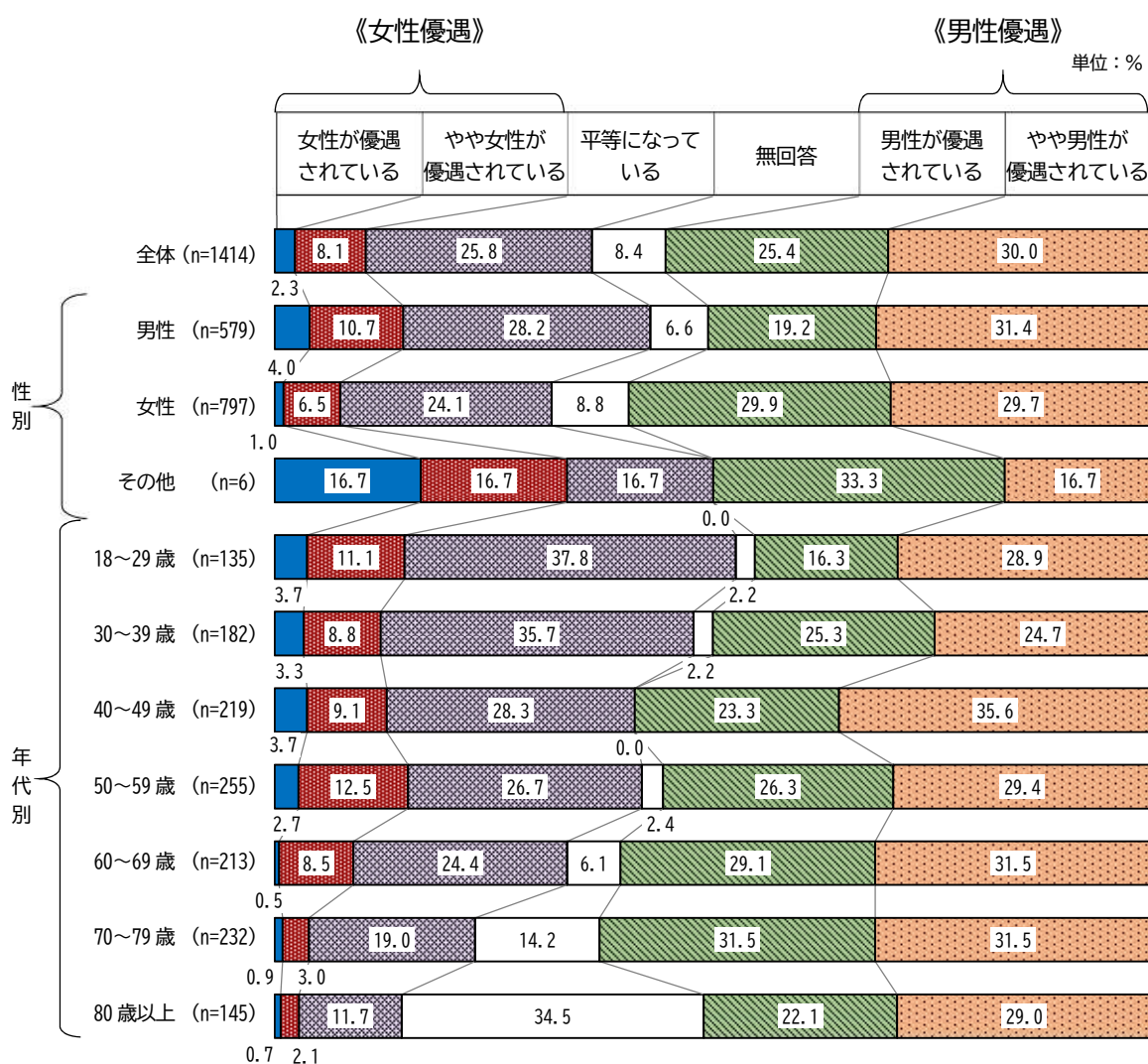
男女の地位（家庭） ライフステージ別



男女の地位（職場）を性別でみると、「平等になっている」は男性（28.2%）が女性（24.1%）より4.1ポイント高くなっている。《男性優遇》は女性（59.6%）が男性（50.6%）より9.0ポイント高く、《女性優遇》は男性（14.7%）が女性（7.5%）より7.2ポイント高くなっている。

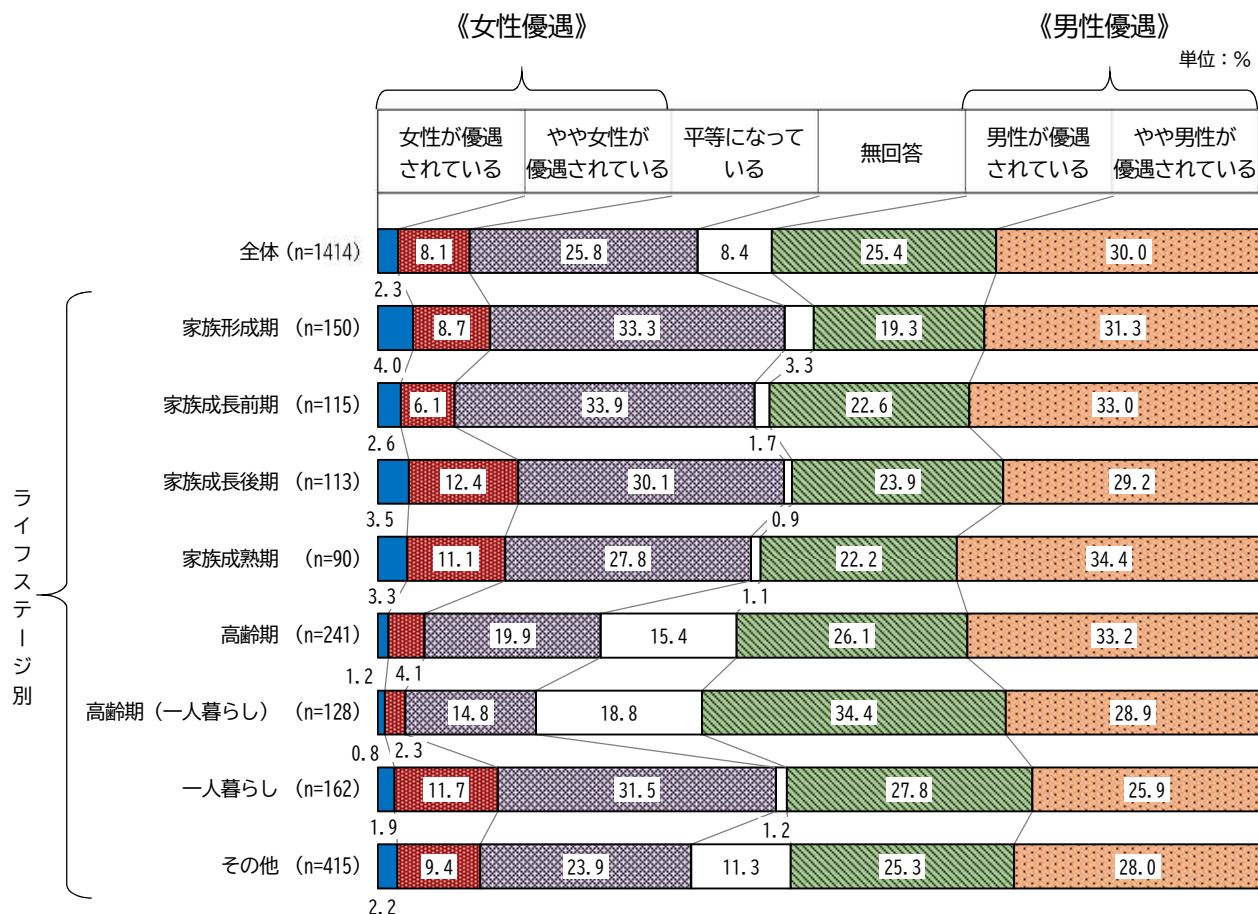
男女の地位（職場）を年代別でみると、「平等になっている」は18～29歳（37.8%）が3割半ばを超え、30～39歳（35.7%）が3割半ばと高くなっている。《男性優遇》は70～79歳（63.0%）が6割半ば近く、60～69歳（60.6%）が6割と高く、《女性優遇》は50～59歳（15.2%）が1割半ば、18～29歳（14.8%）が1割半ば近くとなっている。

男女の地位（職場） 性別／年代別



男女の地位（職場）をライフステージ別でみると、「平等になっている」は家族形成期（33.3%）、家族成長前期（33.9%）が3割半ば近くと高くなっている。《男性優遇》は高齢期（一人暮らし）（63.3%）が6割半ば近くと高く、《女性優遇》は家族成長後期（15.9%）が1割半ば、家族成熟期（14.4%）が1割半ば近くと高くなっている。

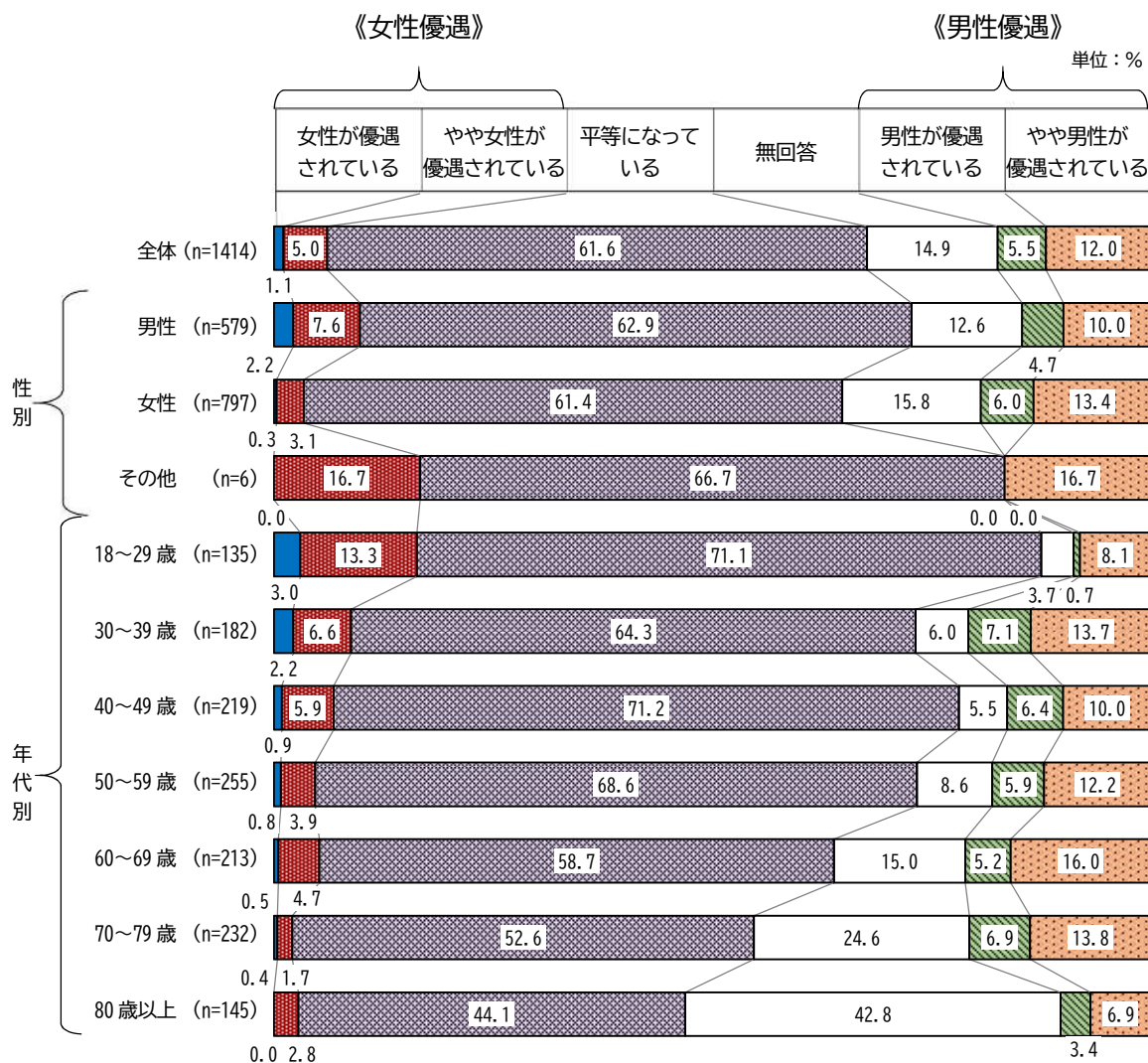
男女の地位（職場） ライフステージ別



男女の地位（学校）を性別でみると、「平等になっている」は男性（62.9%）と女性（61.4%）による差はみられない。《男性優遇》は女性（19.4%）が男性（14.7%）より4.7ポイント高く、《女性優遇》は男性（9.8%）が女性（3.4%）より6.4ポイント高くなっている。

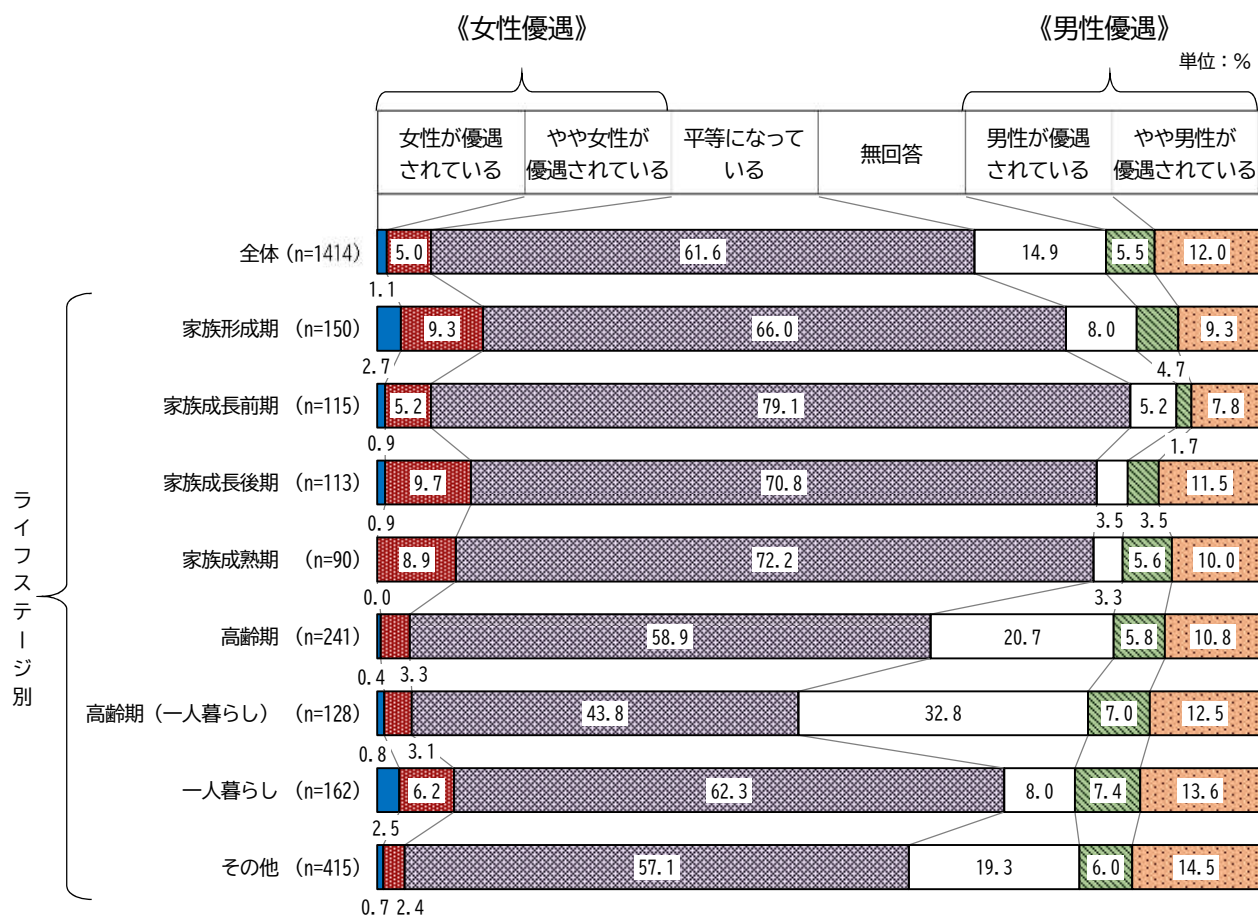
男女の地位（学校）を年代別でみると、「平等になっている」は18～59歳で6割～7割台と高くなっている。《男性優遇》は18～29歳（8.8%）が1割未満と最も低く、他の年代は1割～2割強となっている。《女性優遇》は18～29歳（16.3%）が1割半ばを超えて最も高くなっている。

男女の地位（学校） 性別／年代別



男女の地位（学校）をライフステージ別でみると、「平等になっている」は家族成長前期（79.1%）が8割弱で最も高くなっている。《男性優遇》は一人暮らし（21.0%）が2割強で最も高く、《女性優遇》は家族形成期（12.0%）が1割強で最も高くなっている。

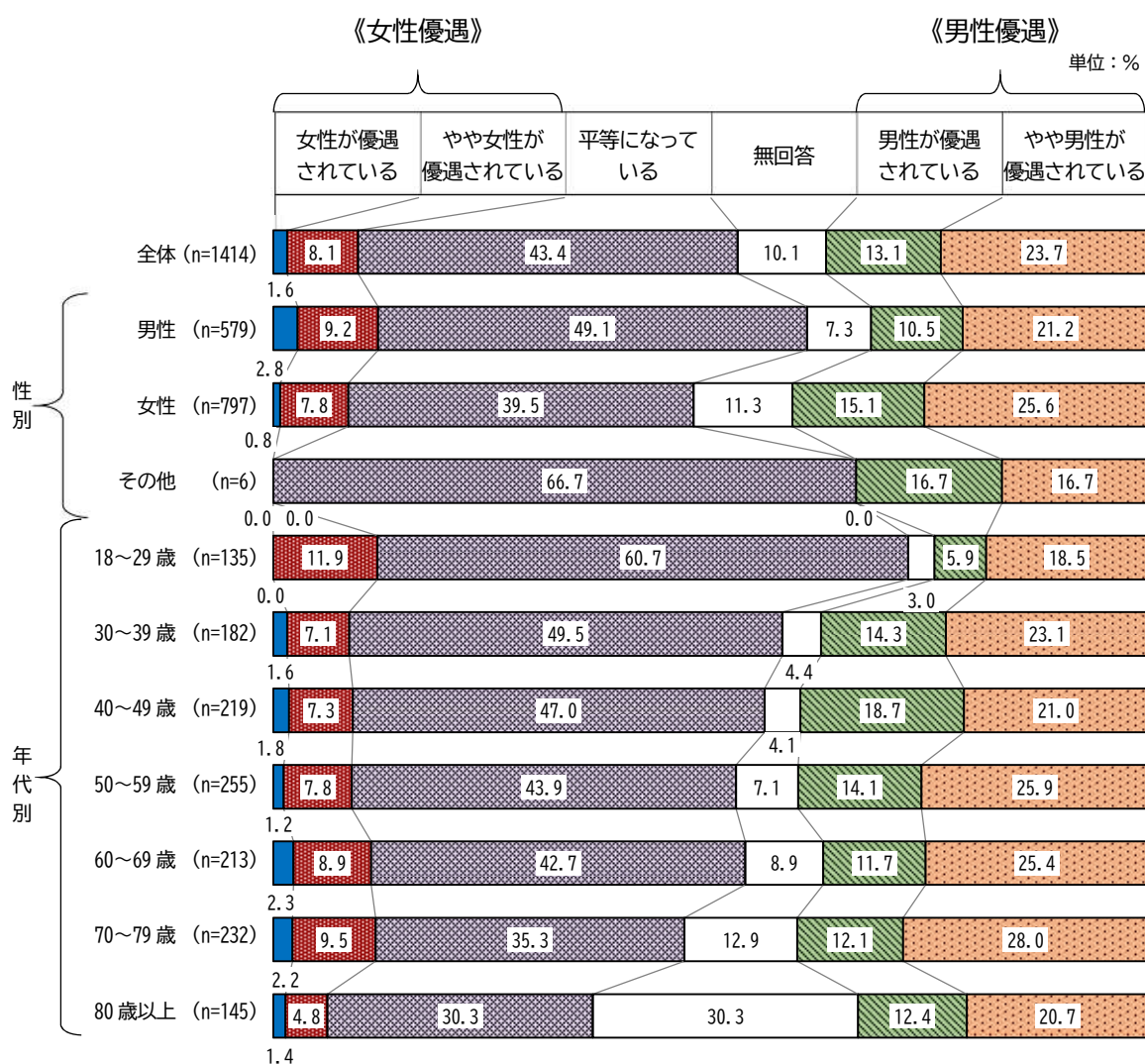
男女の地位（学校） ライフステージ別



男女の地位（地域活動の場）を性別で見ると、「平等になっている」は男性（49.1%）が女性（39.5%）より 9.6 ポイント高くなっている。《男性優遇》は女性（40.7%）が男性（31.7%）より 9.0 ポイント高く、《女性優遇》は男性（12.0%）と女性（8.6%）で大きな差はみられない。

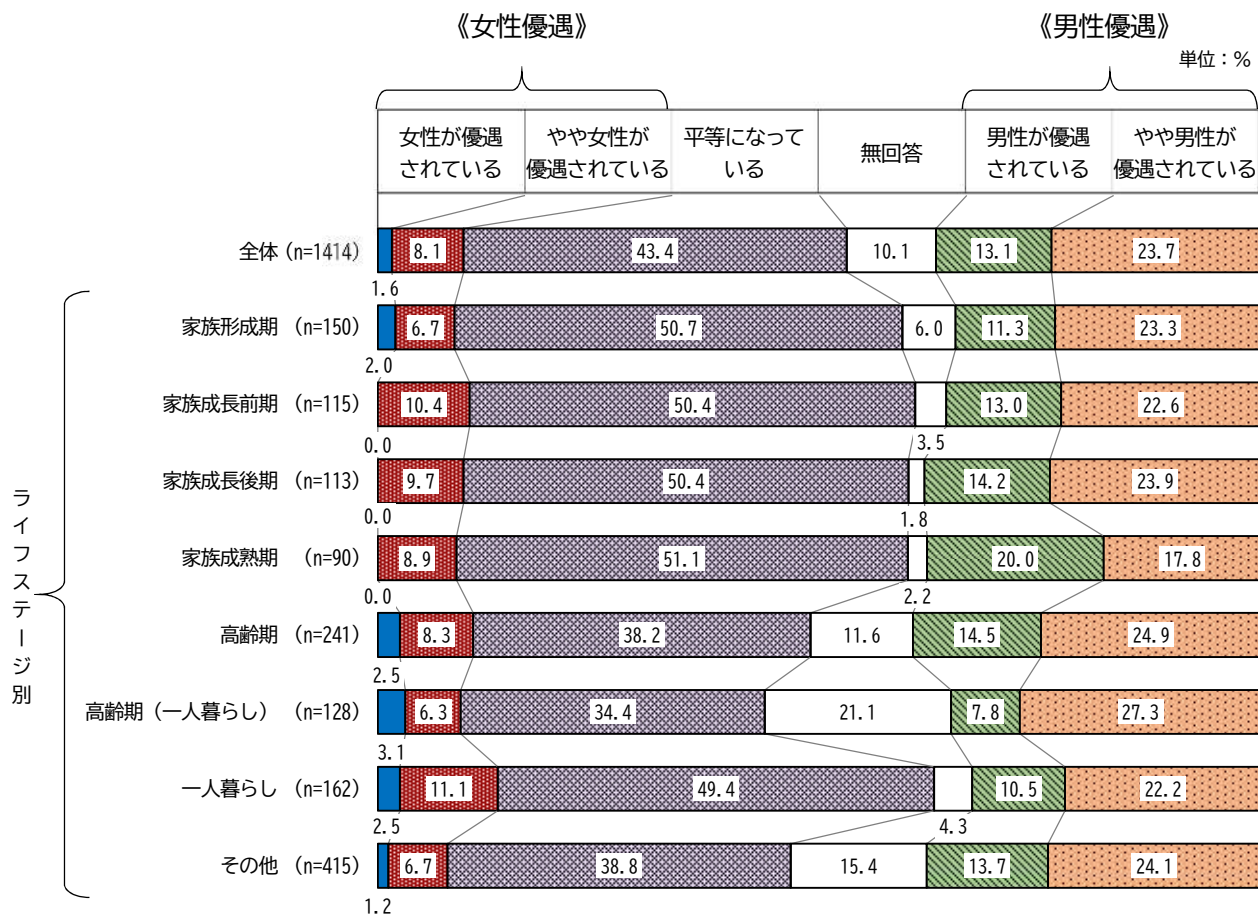
男女の地位（地域活動の場）を年代別で見ると、「平等になっている」は 18～29 歳（60.7%）が 6 割と最も高くなっている。《男性優遇》は 50～59 歳（40.0%）と 70～79 歳（40.1%）が 4 割、40～49 歳（39.7%）が 4 割弱と高く、《女性優遇》は 18～29 歳（11.9%）、60～69 歳（11.2%）と 70～79 歳（11.7%）が 1 割強となっている。

男女の地位（地域活動の場） 性別／年代別



男女の地位（地域活動の場）をライフステージ別でみると、「平等になっている」は家族成熟期（51.1%）、家族形成期（50.7%）、家族成長前期（50.4%）、家族成長後期（50.4%）が5割台となっている。《男性優遇》はすべてのライフステージで3割台、《女性優遇》は一人暮らし（13.6%）が1割半ば近くで最も高くなっている。

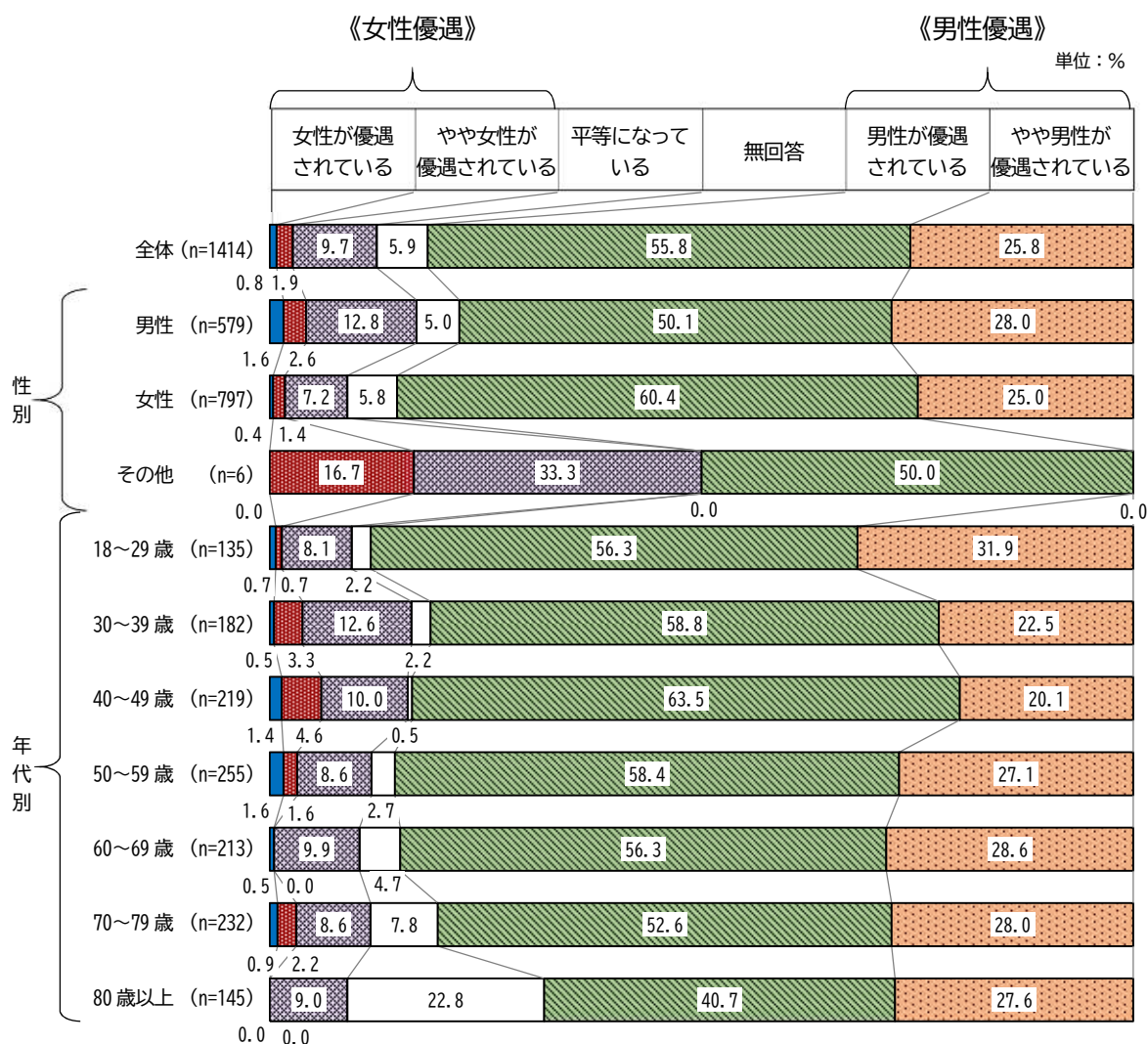
男女の地位（地域活動の場） ライフステージ別



男女の地位（政治の場）を性別でみると、「平等になっている」は男性（12.8%）が女性（7.2%）より 5.6 ポイント高くなっている。《男性優遇》は女性（85.4%）が男性（78.1%）より 7.3 ポイント高く、《女性優遇》は男女とも 1 割未満となっている。

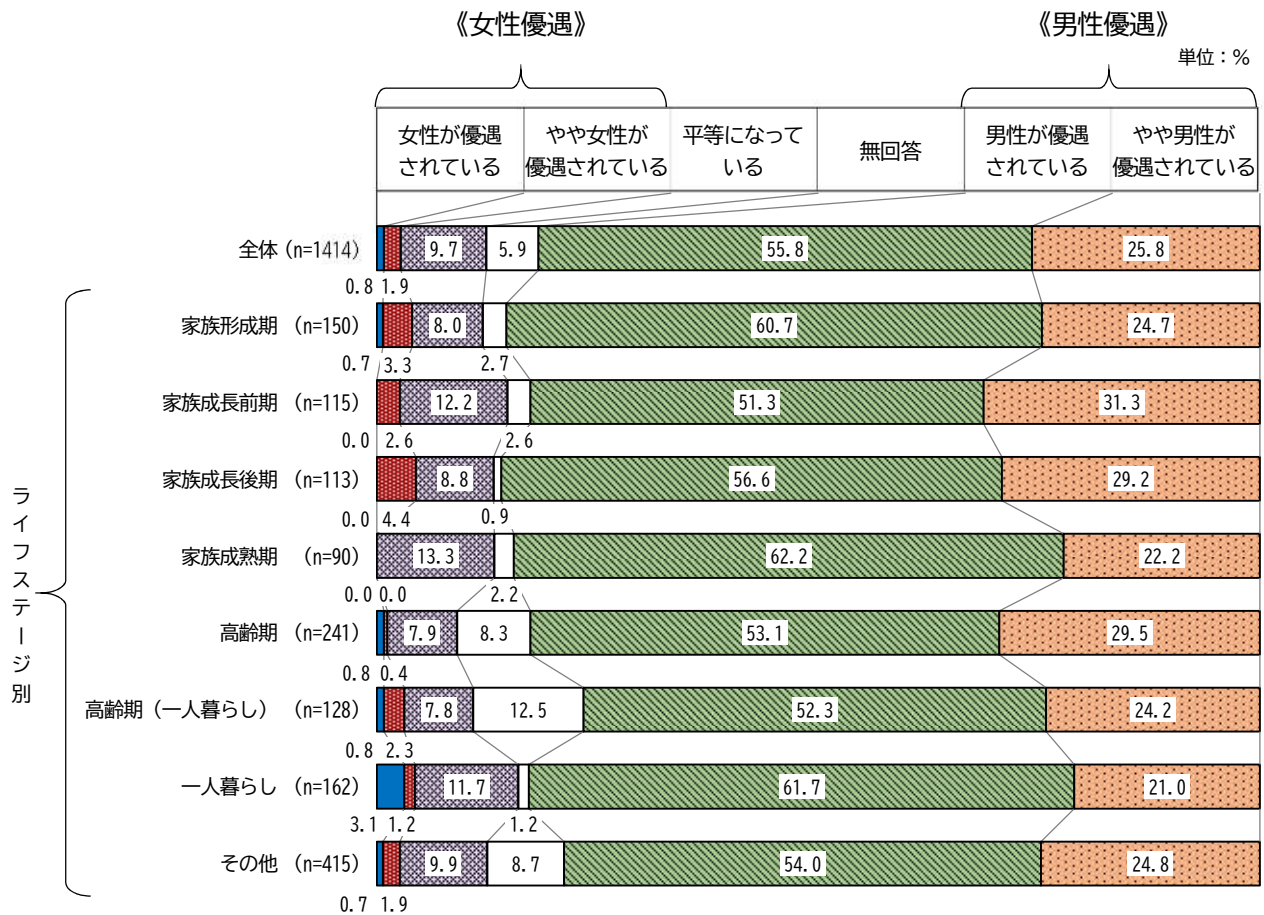
男女の地位（政治の場）を年代別でみると、「平等になっている」は 30～39 歳（12.6%）が 1 割強と最も高くなっている。《男性優遇》は 18～79 歳で 8 割台と高く、《女性優遇》はすべての年代で 1 割未満となっている。

男女の地位（政治の場） 性別／年代別



男女の地位（政治の場）をライフステージ別でみると、「平等になっている」は家族成長前期（12.2%）、家族成熟期（13.3%）、一人暮らし（11.7%）が1割台となっている。《男性優遇》は高齢期（一人暮らし）（76.5%）とその他（78.8%）を除くライフステージで8割台となっている。《女性優遇》はすべてのライフステージで1割未満となっている。

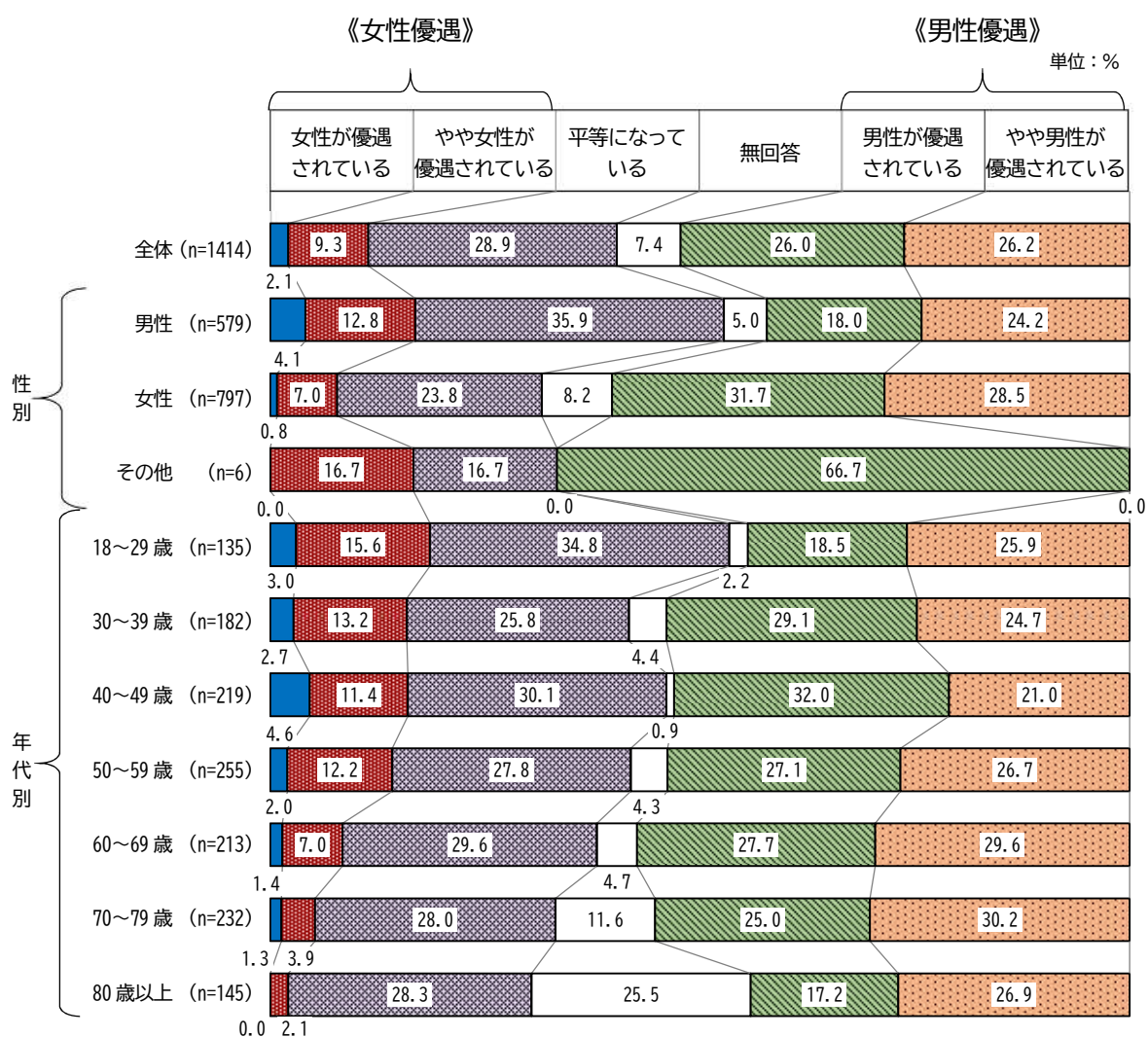
男女の地位（政治の場） ライフステージ別



男女の地位（法律や制度）を性別でみると、「平等になっている」は男性（35.9%）が女性（23.8%）より12.1ポイント高くなっている。《男性優遇》は女性（60.2%）が男性（42.2%）より18.0ポイント高く、《女性優遇》は男性（16.9%）が女性（7.8%）より9.1ポイント高くなっている。

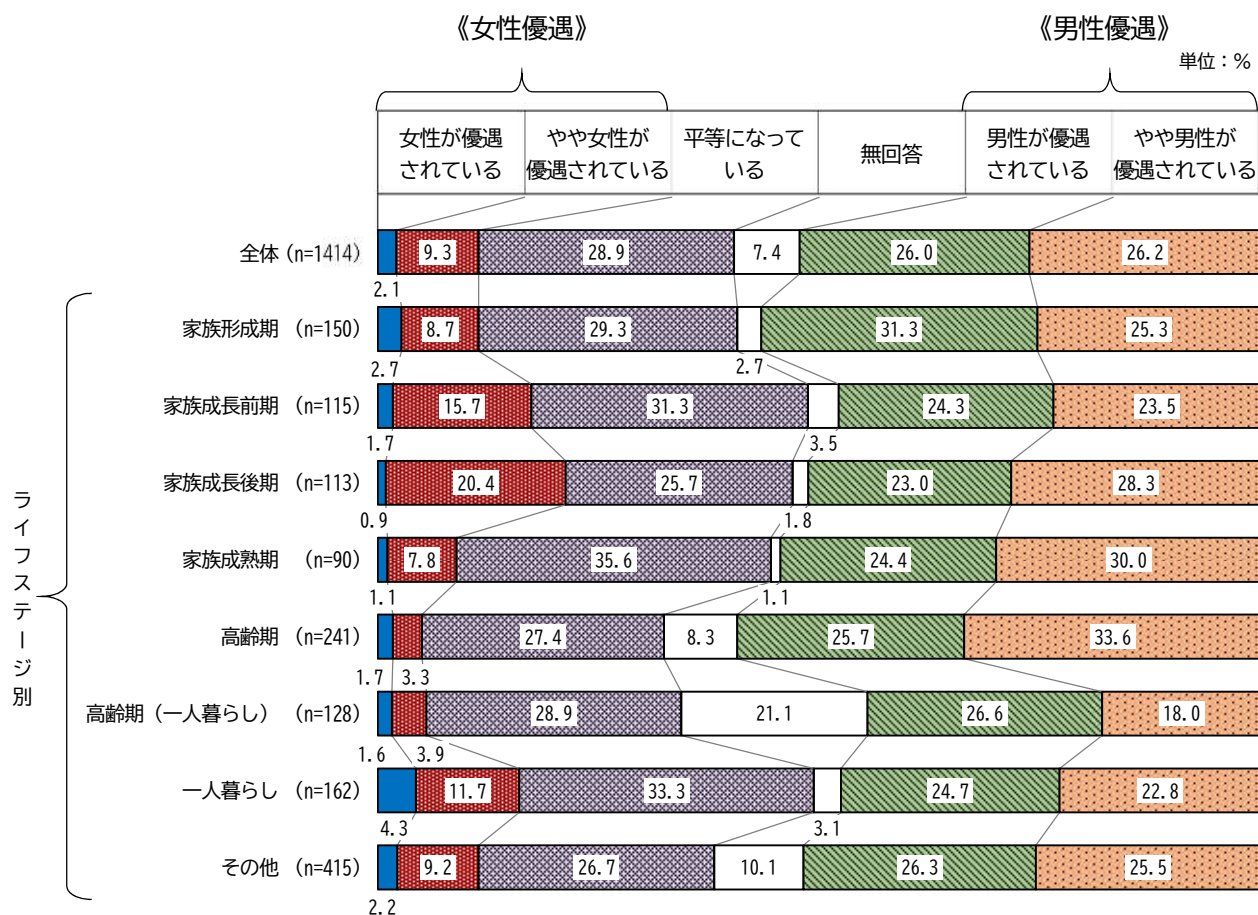
男女の地位（法律や制度）を年代別でみると、「平等になっている」は18～29歳（34.8%）が3割半ば近くと最も高くなっている。《男性優遇》は60～69歳（57.3%）が5割半ばを超えて最も高く、《女性優遇》は18～29歳（18.6%）が2割近くと最も高くなっている。

男女の地位（法律や制度） 性別／年代別



男女の地位（法律や制度）をライフステージ別でみると、「平等になっている」は家族成熟期（35.6%）が3割半ばと高くなっている。《男性優遇》は高齢期（59.3%）が6割弱と最も高く、《女性優遇》は家族成長後期（21.3%）が2割強と最も高くなっている。

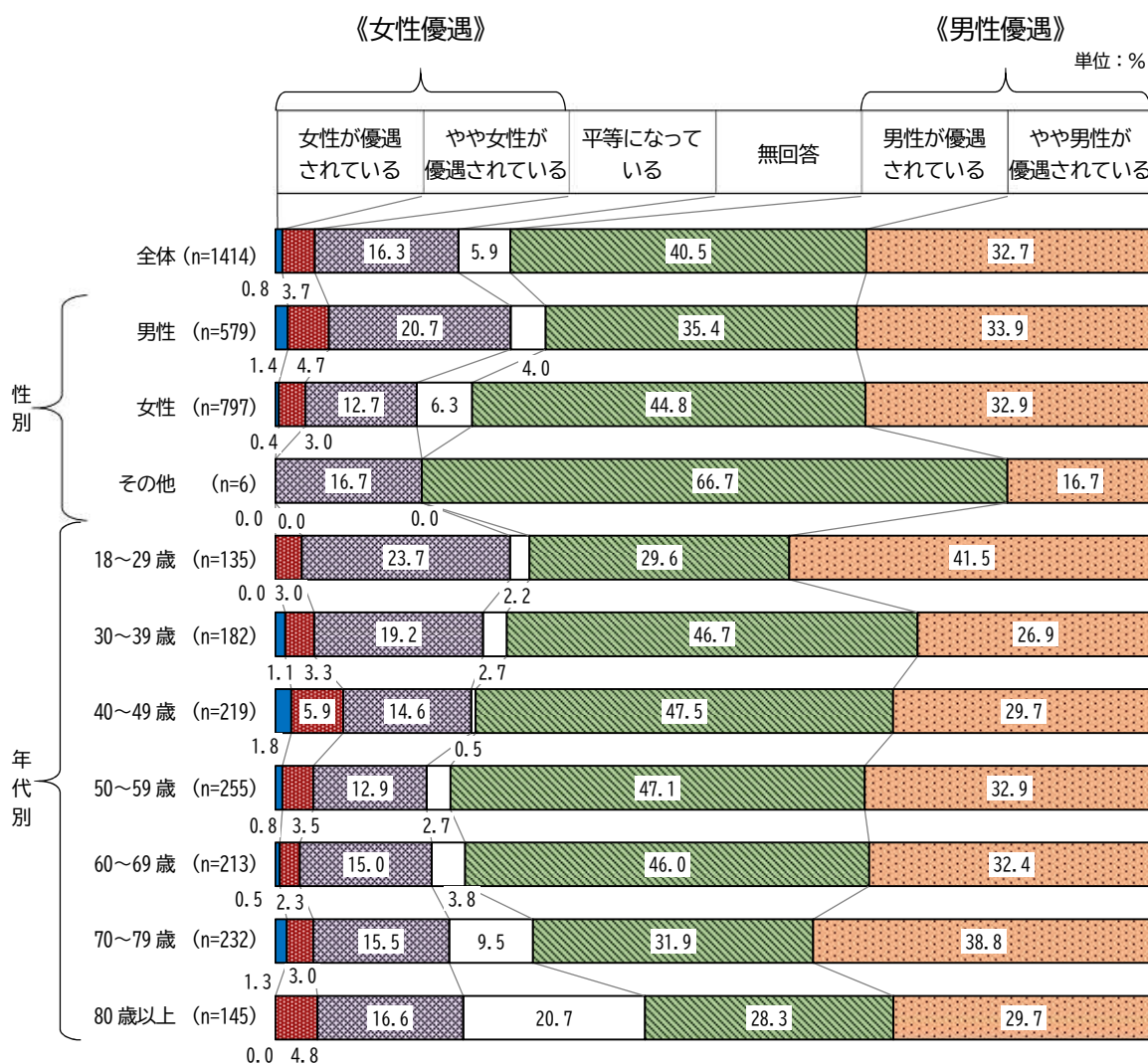
男女の地位（法律や制度） ライフステージ別



男女の地位（しきたりや慣習）を性別で見ると、「平等になっている」は男性（20.7%）が女性（12.7%）より 8.0 ポイント高くなっている。《男性優遇》は女性（77.7%）が男性（69.3%）より 8.4 ポイント高く、《女性優遇》は男女とも 1 割未満となっている。

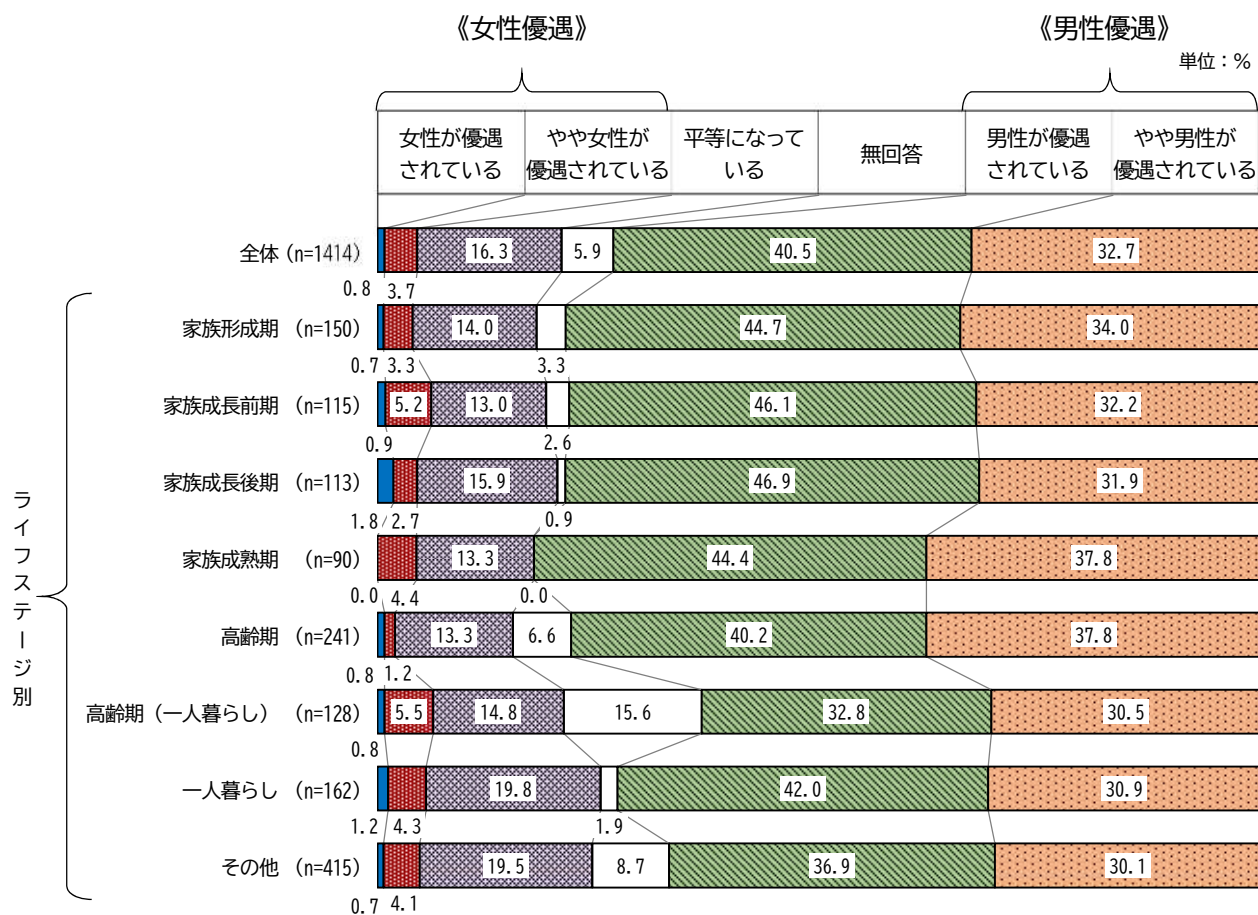
男女の地位（しきたりや慣習）を年代別で見ると、「平等になっている」は 18～29 歳（23.7%）を除くすべての年代で 1 割台となっている。《男性優遇》は 50～59 歳（80.0%）が 8 割、60～69 歳（78.4%）が 8 割近く、40～49 歳（77.2%）が 7 割半ばを超えて高く、《女性優遇》はすべての年代で 1 割未満となっている。

男女の地位（しきたりや習慣） 性別／年代別



男女の地位（しきたりや慣習）をライフステージ別でみると、「平等になっている」はすべてのライフステージで1割台となっている。《男性優遇》は家族成熟期（82.2%）が8割強と最も高く、《女性優遇》はすべてのライフステージで1割未満となっている。

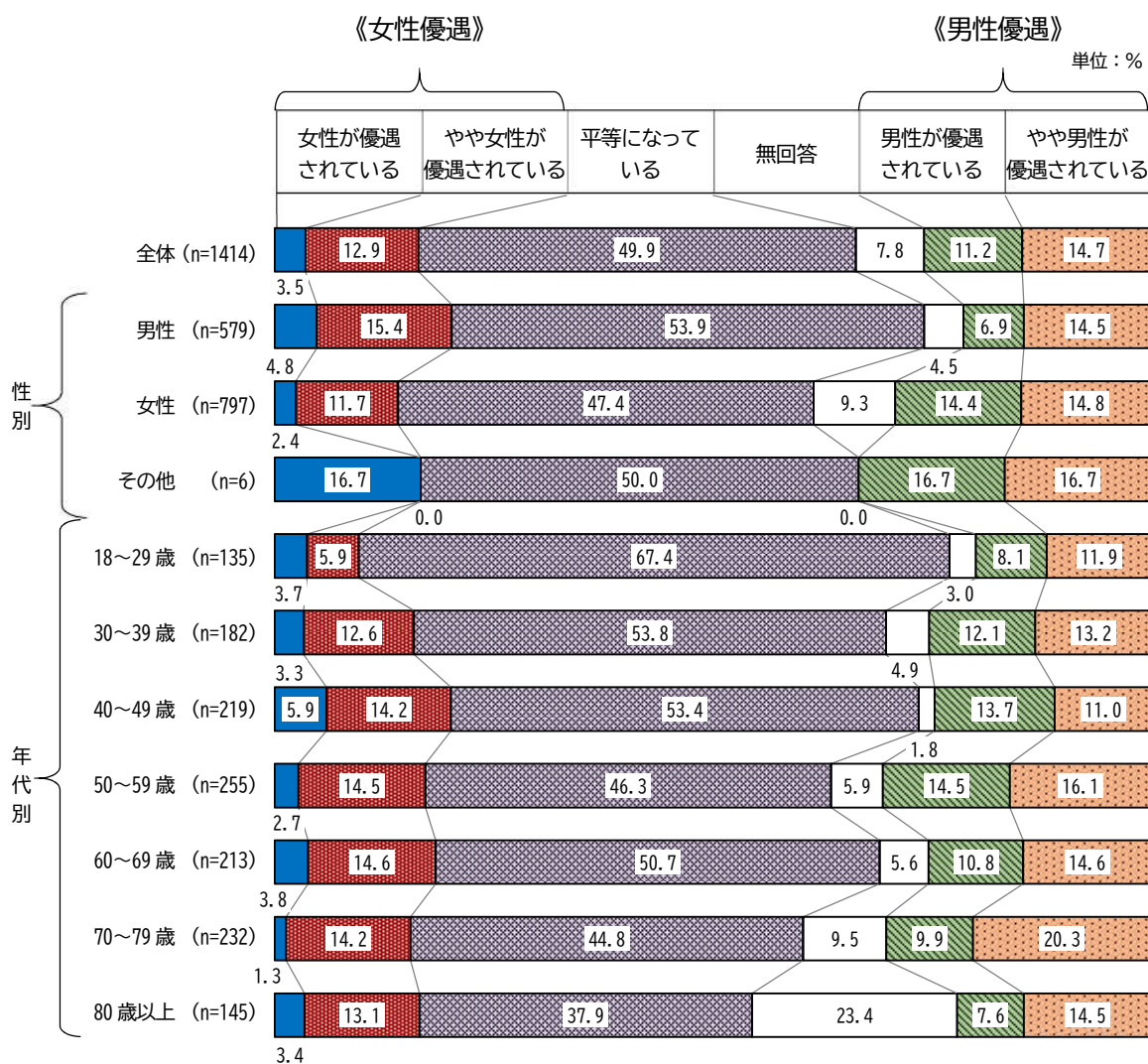
男女の地位（しきたりや慣習） ライフステージ別



男女の地位（余暇活動）を性別でみると、「平等になっている」は男性（53.9%）が女性（47.4%）より 6.5 ポイント高くなっている。《男性優遇》は女性（29.2%）が男性（21.4%）より 7.8 ポイント高く、《女性優遇》は男性（20.2%）が女性（14.1%）より 6.1 ポイント高くなっている。

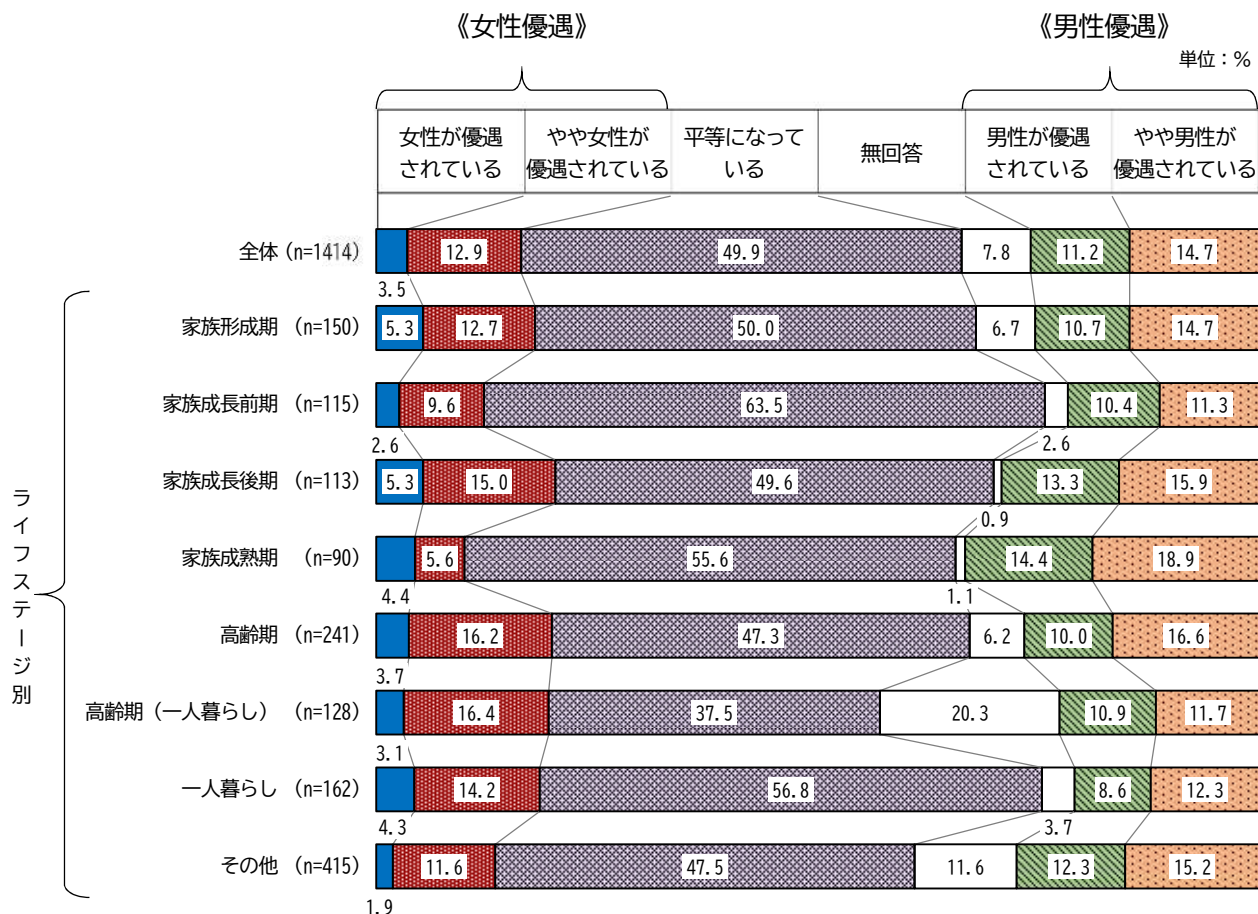
男女の地位（余暇活動）を年代別でみると、「平等になっている」は 18～29 歳（67.4%）が 6 割半ばを超えて最も高くなっている。《男性優遇》は 50～59 歳（30.6%）と 70～79 歳（30.2%）が 3 割と高く、《女性優遇》は 40～49 歳（20.1%）が 2 割と最も高くなっている。

男女の地位（余暇活動） 性別／年代別



男女の地位（余暇活動）をライフステージ別でみると、「平等になっている」は家族成長前期（63.5%）が6割半ば近くと最も高くなっている。《男性優遇》は家族成熟期（33.3%）が3割半ば近くと高く、《女性優遇》は家族成長後期（20.3%）が2割、高齢期（19.9%）と高齢期（一人暮らし）（19.5%）が2割弱と高くなっている。

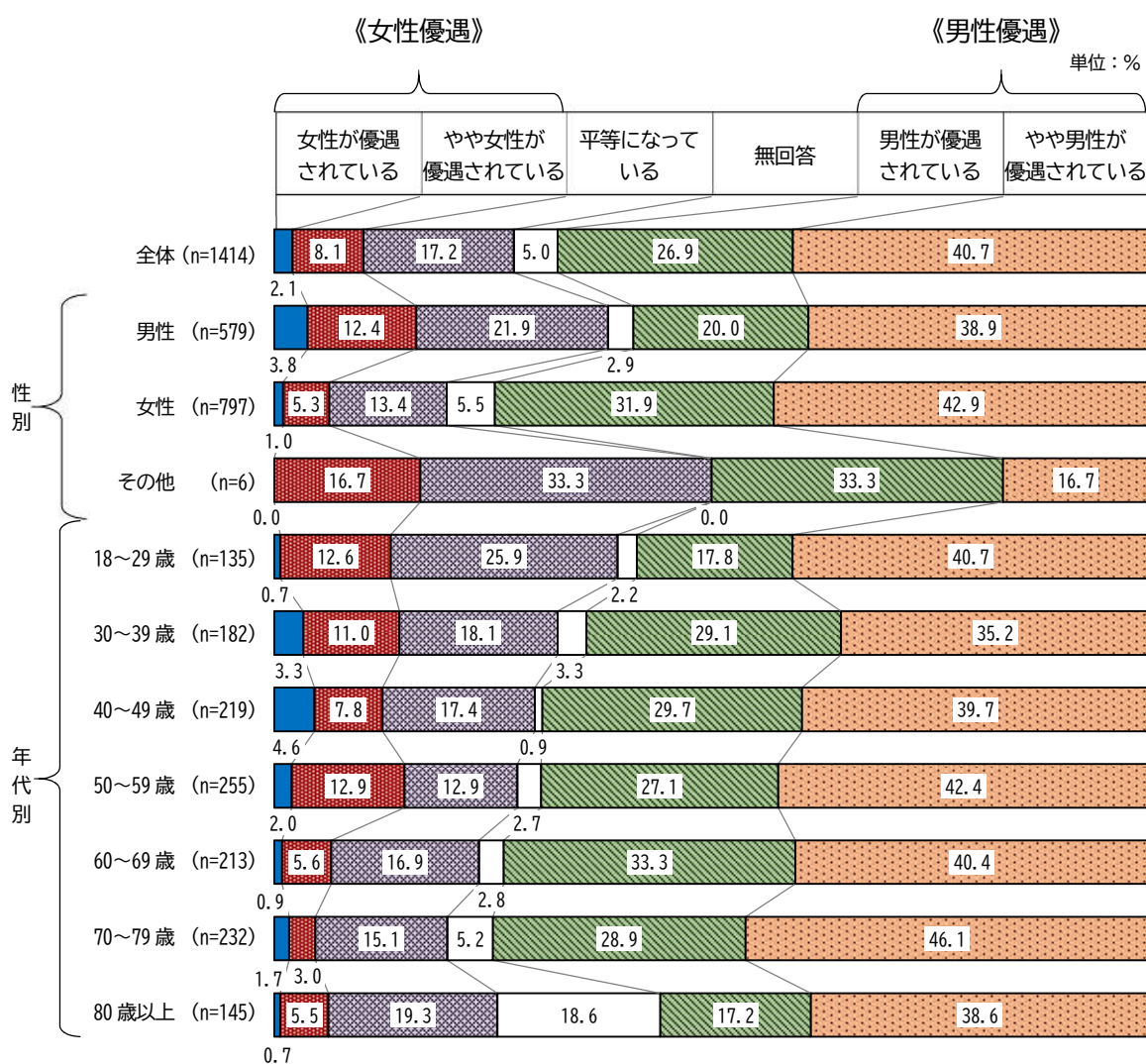
男女の地位（余暇活動） ライフステージ別



男女の地位（社会全体）を性別で見ると、「平等になっている」は男性（21.9%）が女性（13.4%）より 8.5 ポイント高くなっている。《男性優遇》は女性（74.8%）が男性（58.9%）より 15.9 ポイント高く、《女性優遇》は男性（16.2%）が女性（6.3%）より 9.9 ポイント高くなっている。

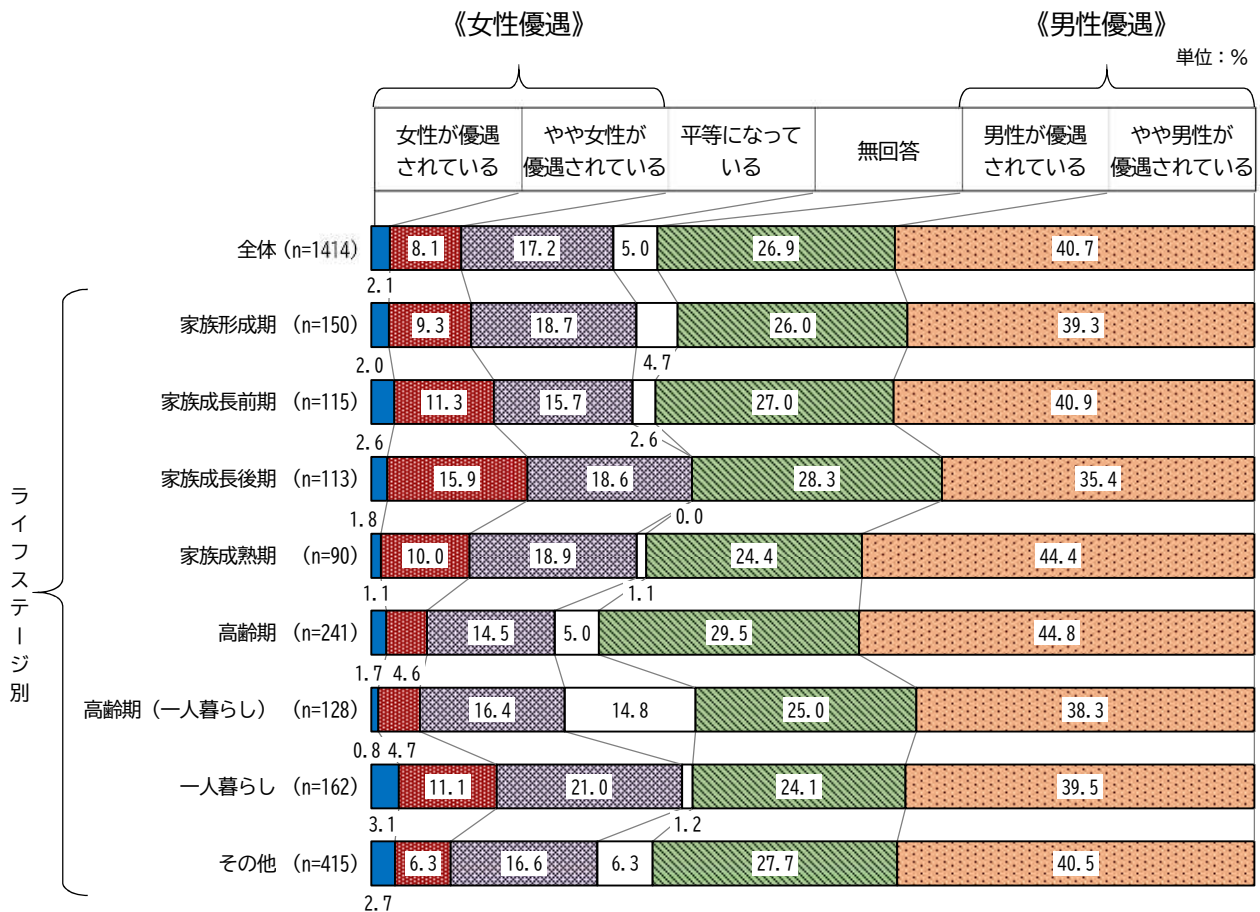
男女の地位（社会全体）を年代別で見ると、「平等になっている」は 18～29 歳（25.9%）が 2 割半と最も高くなっている。《男性優遇》は 60～79 歳が 7 割台、30～59 歳が 6 割台と高く、《女性優遇》は 18～59 歳が 1 割台となっている。

男女の地位（社会全体） 性別／年代別



男女の地位（社会全体）をライフステージ別でみると、「平等になっている」は一人暮らし（21.0%）が2割強と最も高くなっている。《男性優遇》は高齢期（74.3%）が7割半ば近く、他のライフステージはすべて6割台となっている。《女性優遇》は家族成長後期（17.7%）が1割半ばを超えて最も高くなっている。

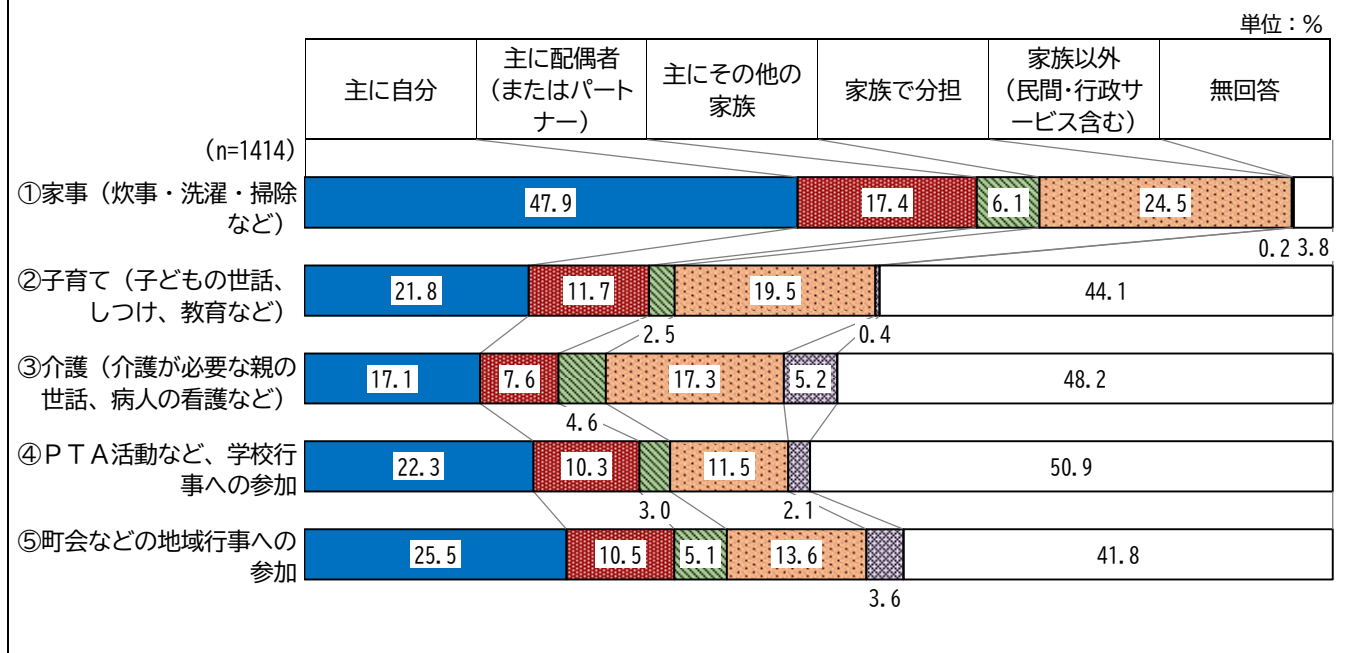
男女の地位（社会全体） ライフステージ別



(2) 家庭内における役割分担意識

◇家事は「主に自分」が4割半ばを超える

問 18 家庭内で主に担当しているのは誰ですか。(○は1つだけ)

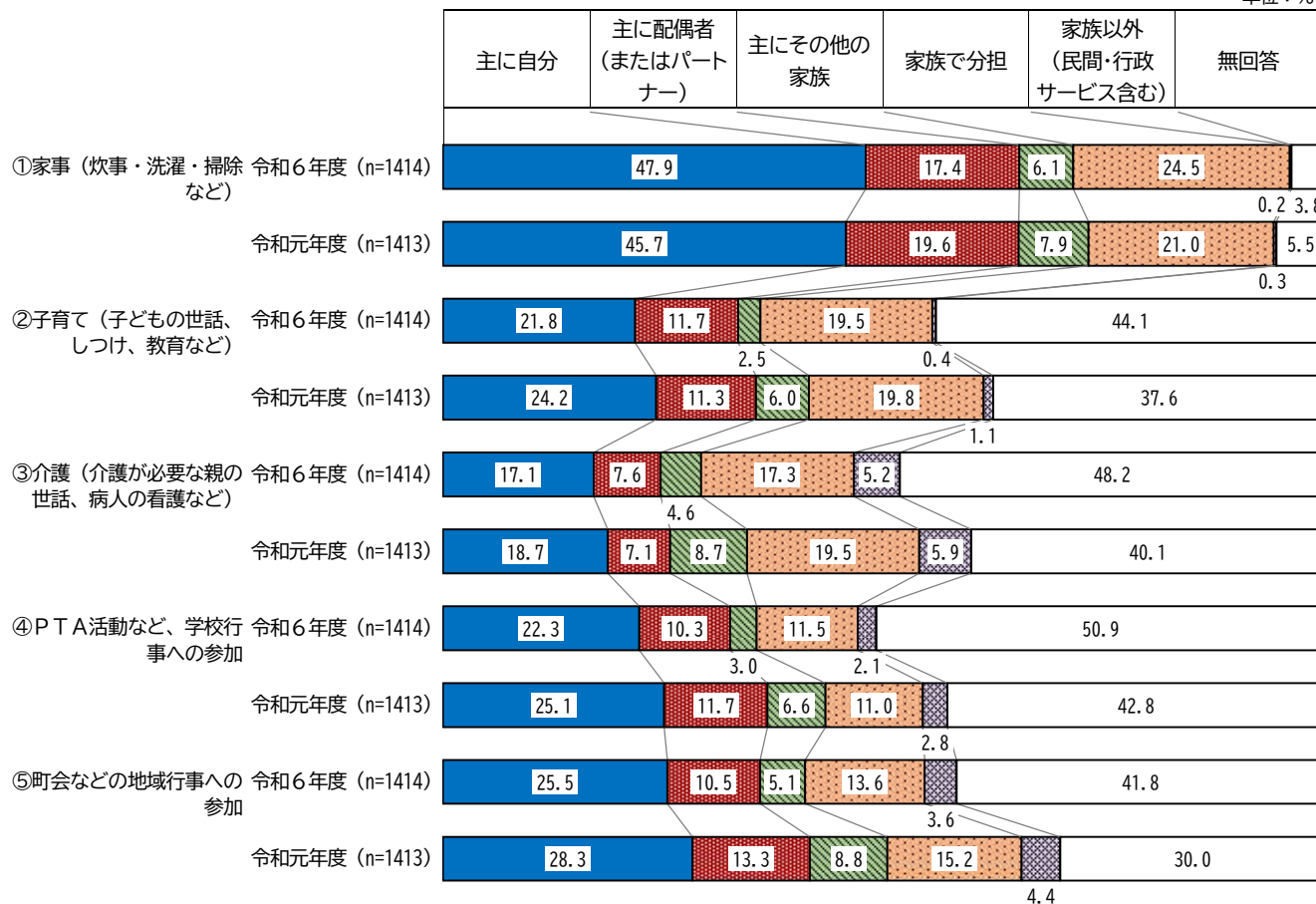


家庭内における役割分担について聞いたところ、「主に自分」は「①家事（炊事・洗濯・掃除など）」（47.9％）が4割半ばを超えて最も高く、以下、「⑤町会などの地域行事への参加」（25.5％）、「④PTA活動など、学校行事への参加」（22.3％）、「②子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）」（21.8％）、「③介護（介護が必要な親の世話、病人の看護など）」（17.1％）と続く。

令和元年度の結果と比較すると、「主にその他の家族」はいずれの役割も令和元年度よりやや減少しているものの、全体的な傾向に大きな差はみられない。

家庭内における役割分担意識 経年比較

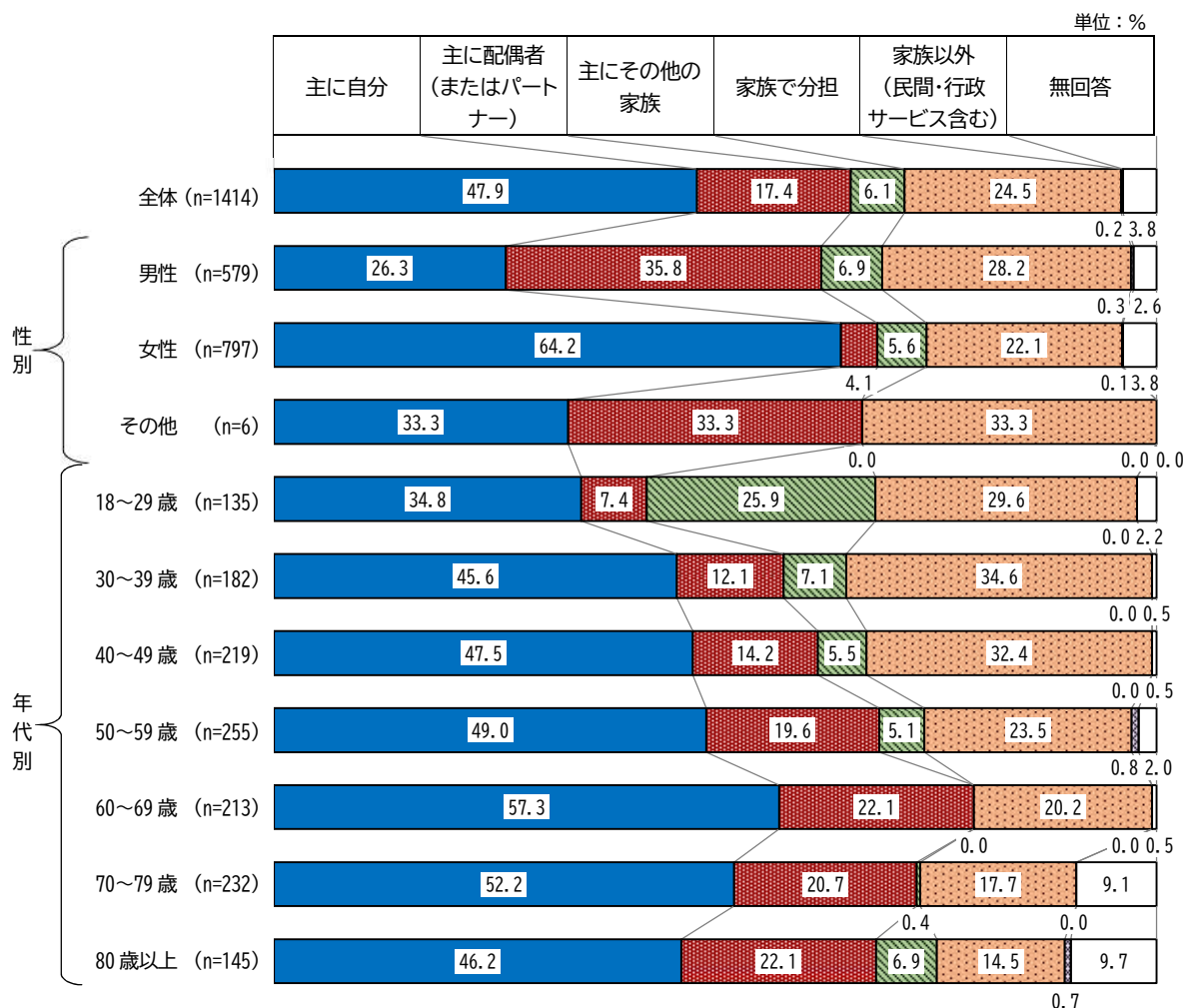
単位：％



家庭内における役割分担意識（家事）を性別でみると、「主に自分」は女性（64.2%）が男性（26.3%）より 37.9 ポイント高く、「主に配偶者（またはパートナー）」は男性（35.8%）が女性（4.1%）より 31.7 ポイント高くなっている。

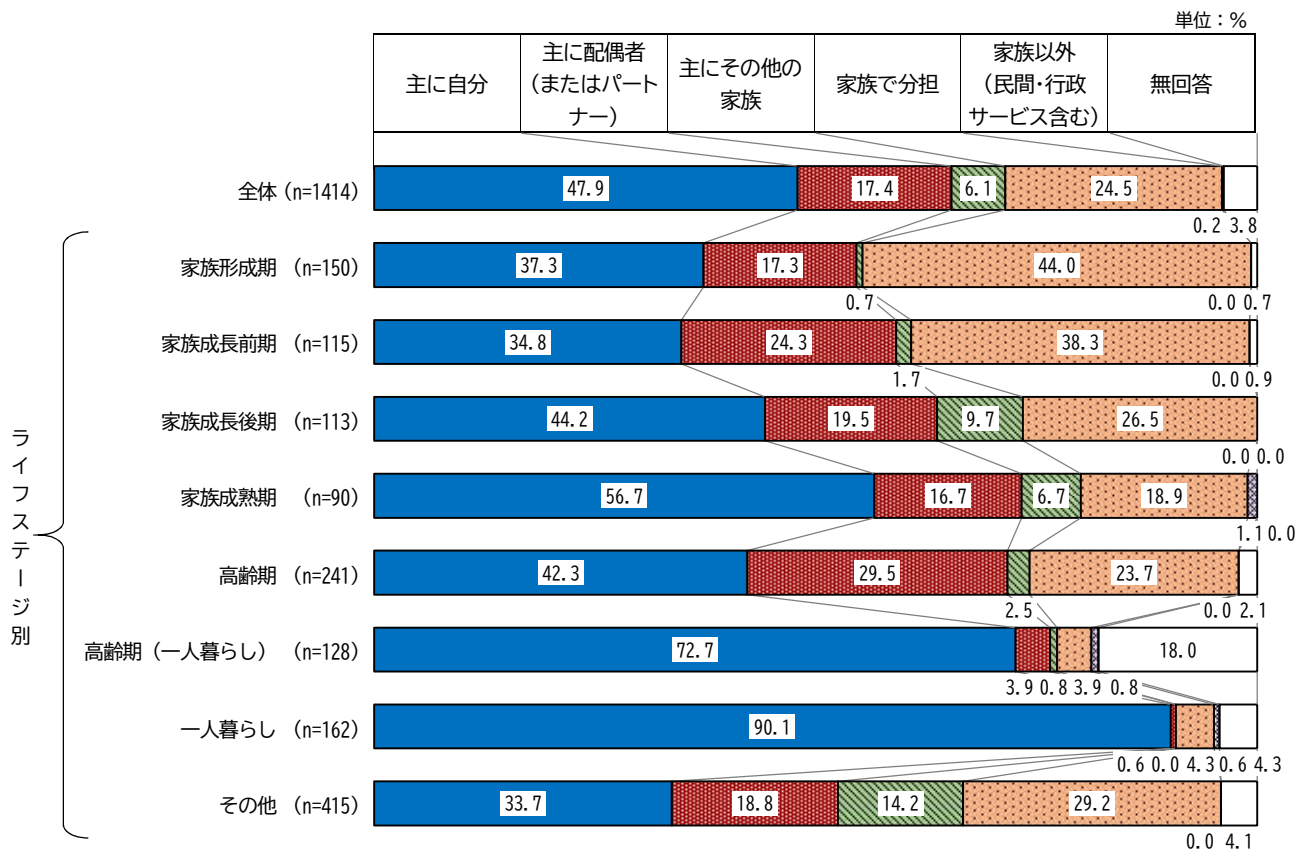
家庭内における役割分担意識（家事）を年代別でみると、「主に自分」は 60～79 歳が 5 割台と高くなっている。「主に配偶者（またはパートナー）」は 60 歳以上が 2 割台と高く、「主にその他の家族」は 18～29 歳（25.9%）が 2 割半ば、「家族で分担」は 30～49 歳が 3 割台と高くなっている。

家庭内における役割分担意識（家事） 性別／年代別



家庭内における役割分担意識（家事）をライフステージ別でみると、「主に自分」は高齢期（一人暮らし）と一人暮らしを除くと家族成熟期（56.7%）が5割半ばを超えて最も高くなっている。「主に配偶者（またはパートナー）」は高齢期（29.5%）と家族成長前期（24.3%）が2割台と高く、「家族で分担」は家族形成期（44.0%）が4割半ば近くで最も高く、次いで家族成長前期（38.3%）が4割近くとなっている。

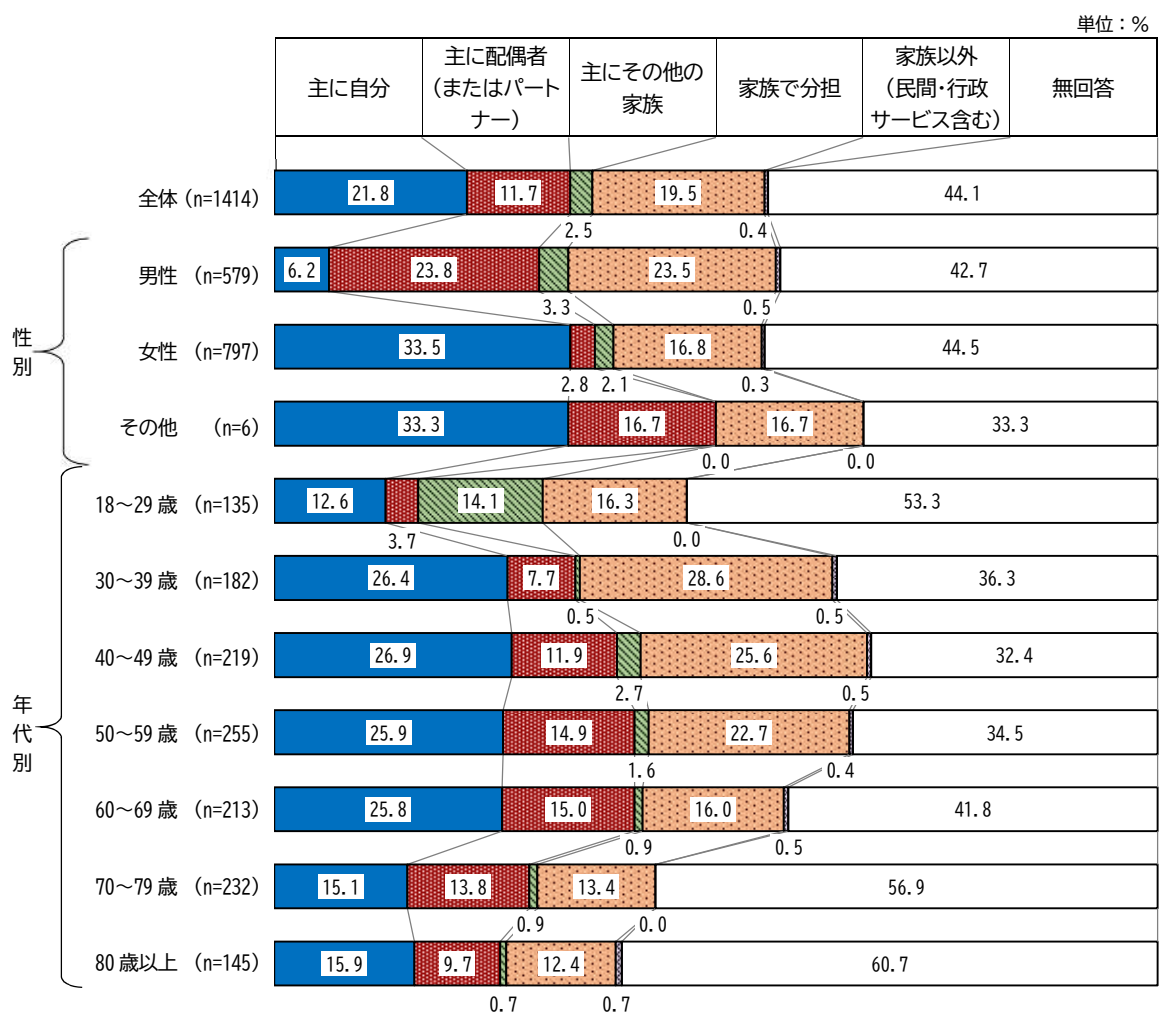
家庭内における役割分担意識（家事） ライフステージ別



家庭内における役割分担意識（子育て）を性別でみると、「主に自分」は女性（33.5%）が男性（6.2%）より 27.3 ポイント高く、「主に配偶者（またはパートナー）」は男性（23.8%）が女性（2.8%）より 21.0 ポイント高くなっている。

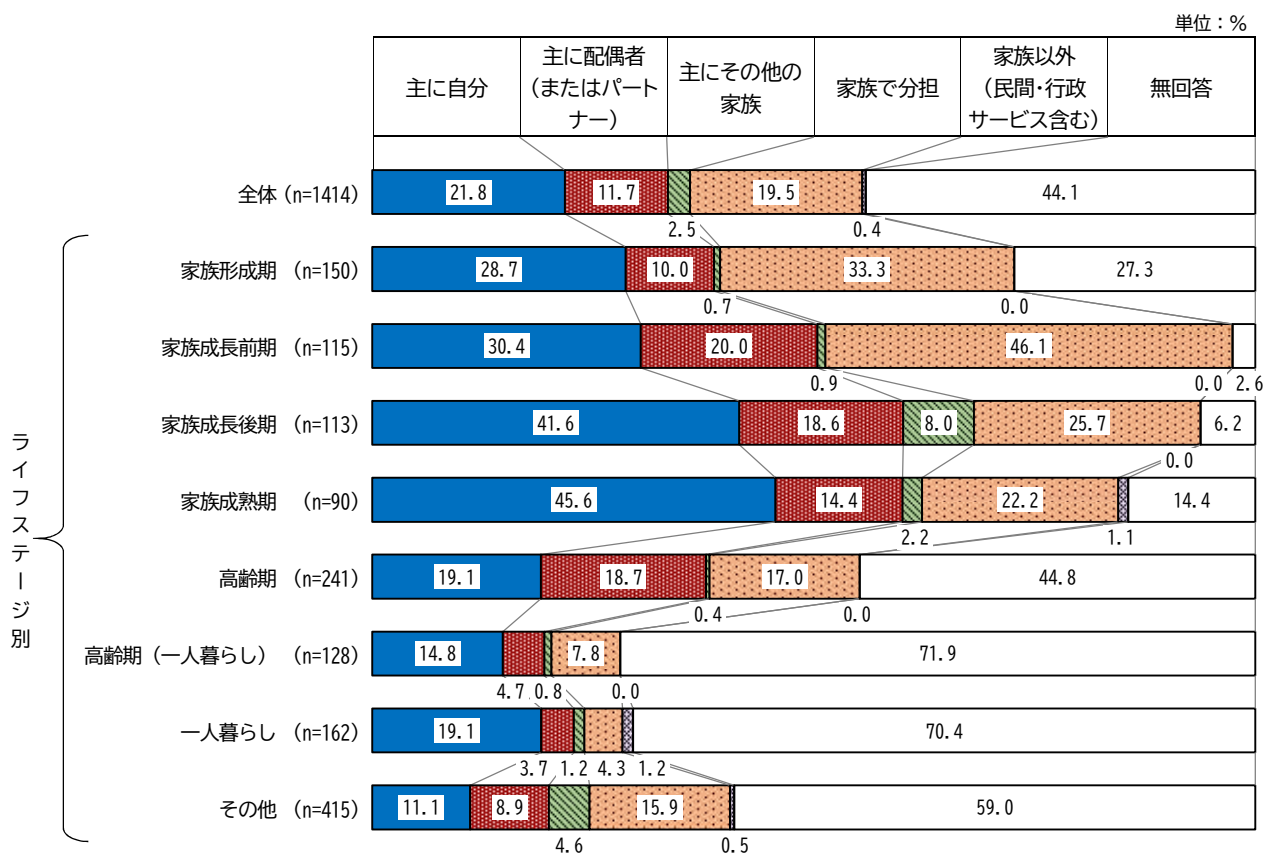
家庭内における役割分担意識（子育て）を年代別でみると、「主に自分」は 30～69 歳が 2 割台と高くなっている。「家族で分担」は 30～59 歳が 2 割台と高くなっている。

家庭内における役割分担意識（子育て） 性別／年代別



家庭内における役割分担意識（子育て）をライフステージ別でみると、「主に自分」は家族成長後期（41.6%）と家族成熟期（45.6%）が4割台と高くなっている。「家族で分担」は家族成長前期（46.1%）が4割半ばを超えて最も高く、次いで家族形成期（33.3%）が3割半ば近くとなっている。

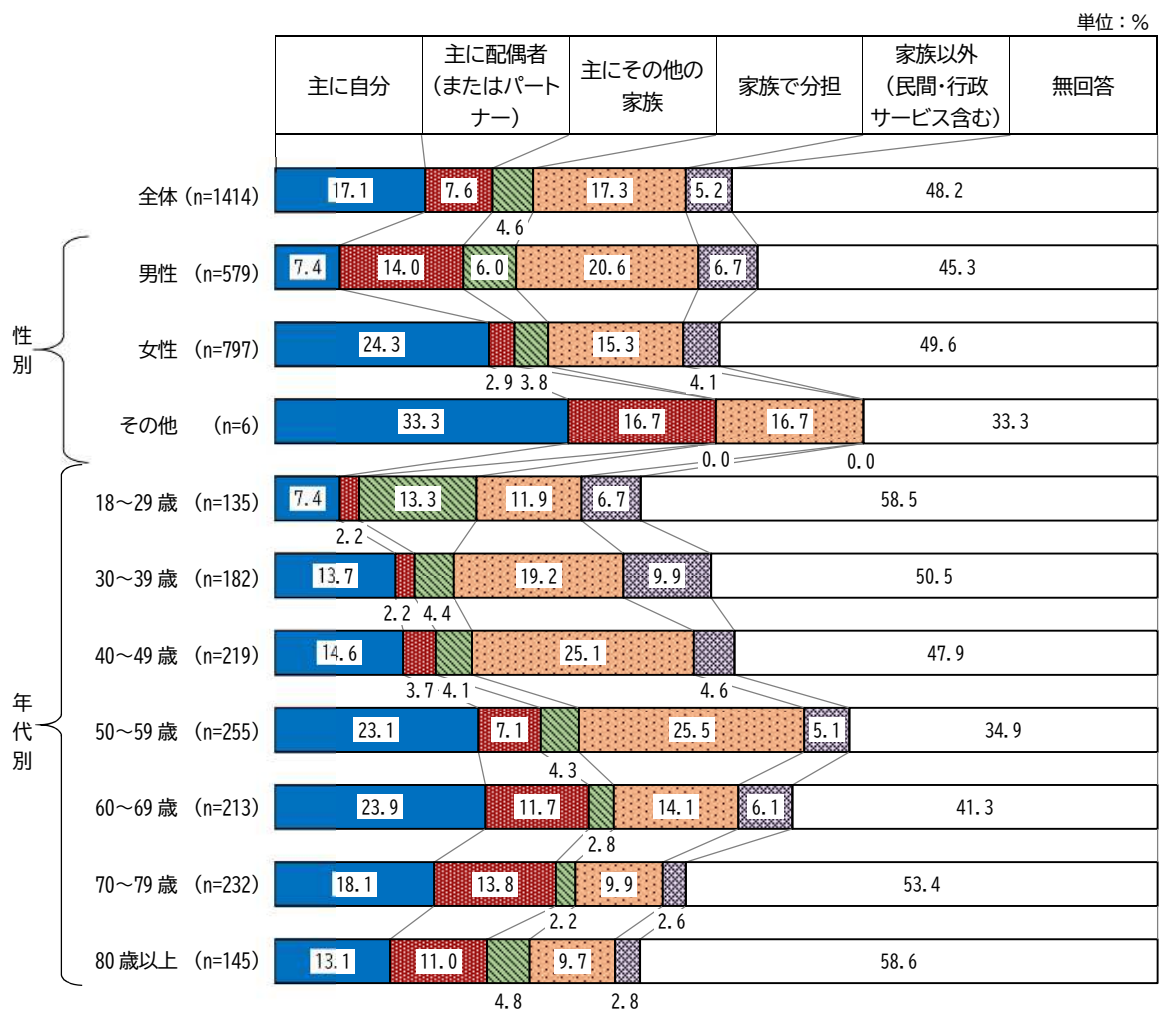
家庭内における役割分担意識（子育て） ライフステージ別



家庭内における役割分担意識（介護）を性別でみると、「主に自分」は女性（24.3%）が男性（7.4%）より 16.9 ポイント高く、「主に配偶者（またはパートナー）」は男性（14.0%）が女性（2.9%）より 11.1 ポイント高くなっている。

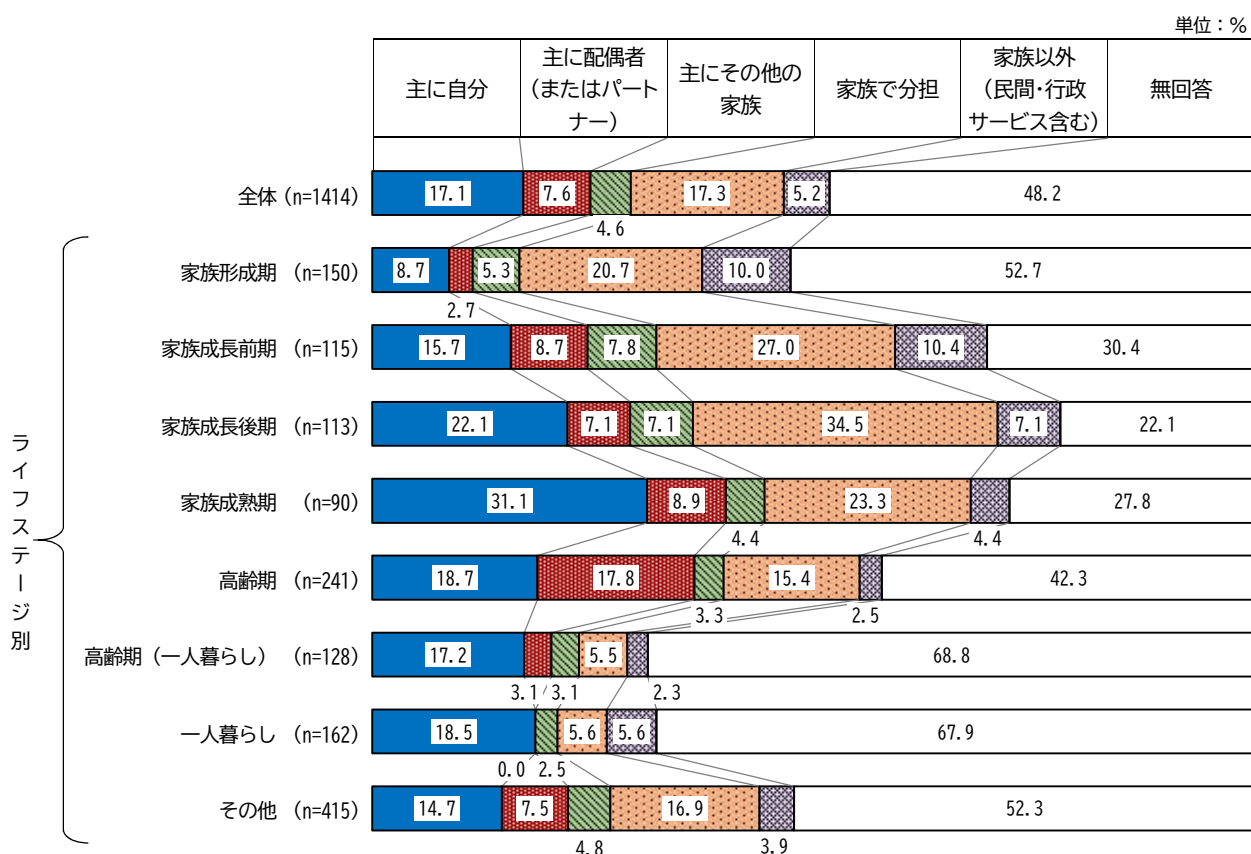
家庭内における役割分担意識（介護）を年代別でみると、「主に自分」は 50～69 歳が 2 割半ば近く、「家族で分担」は 40～59 歳が 2 割半ばと高くなっている。

家庭内における役割分担意識（介護） 性別／年代別



家庭内における役割分担意識（介護）をライフステージ別でみると、「主に自分」は家族成熟期（31.1%）が3割強と最も高くなっている。高齢期は「主に配偶者（またはパートナー）」（17.8%）と「主に自分」（18.7%）がほぼ同じ割合となっている。「家族で分担」は家族成長後期（34.5%）が3割半ば近くで最も高く、次いで家族成長前期（27.0%）が2割半ばを超えている。「家族以外（民間・行政サービス含む）」は家族形成期（10.0%）と家族成長前期（10.4%）が1割となっている。

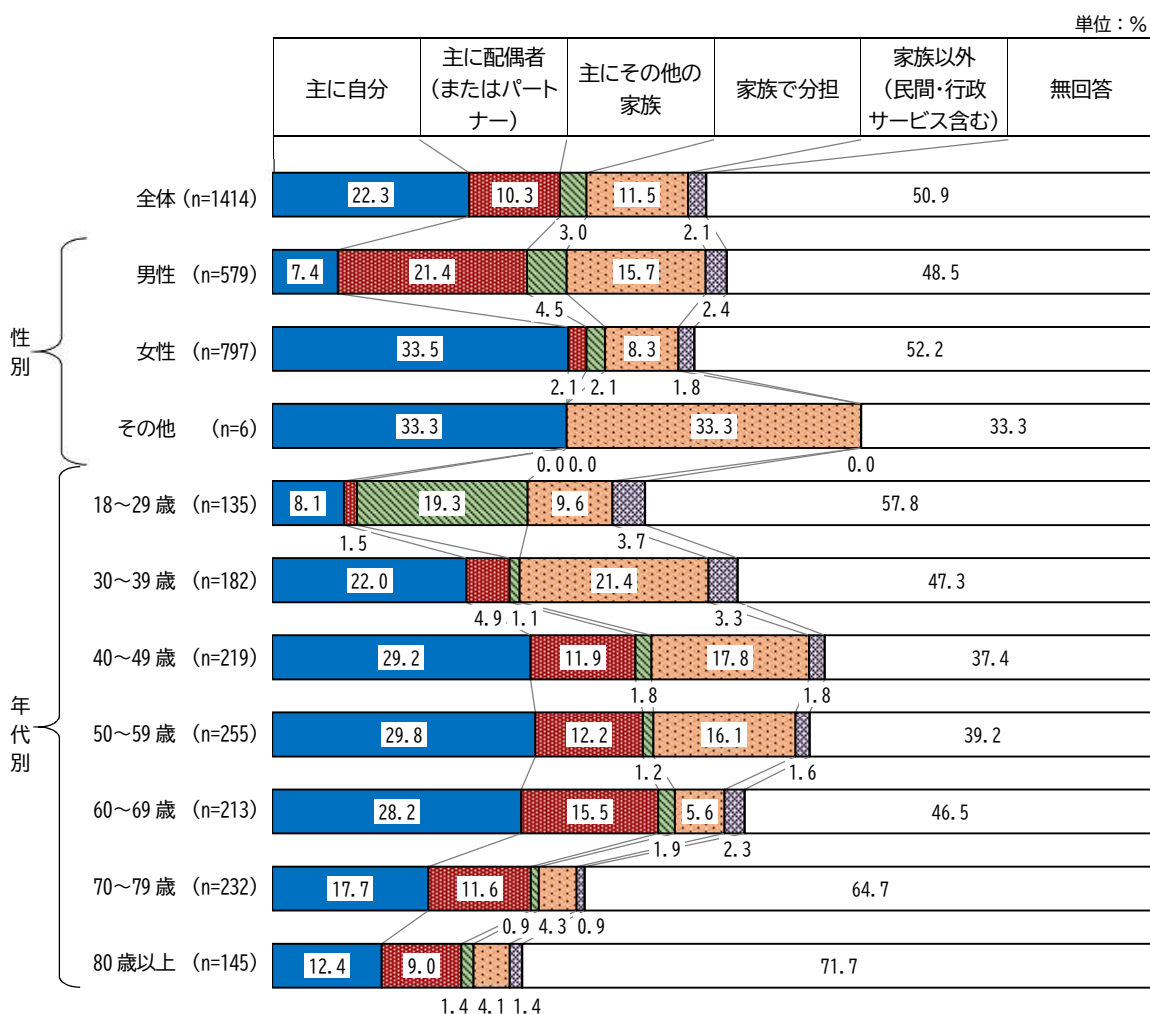
家庭内における役割分担意識（介護） ライフステージ別



家庭内における役割分担意識（P T A活動など、学校行事への参加）を性別でみると、「主に自分」は女性（33.5%）が男性（7.4%）より 26.1 ポイント高く、「主に配偶者（またはパートナー）」は男性（21.4%）が女性（2.1%）より 19.3 ポイント高くなっている。

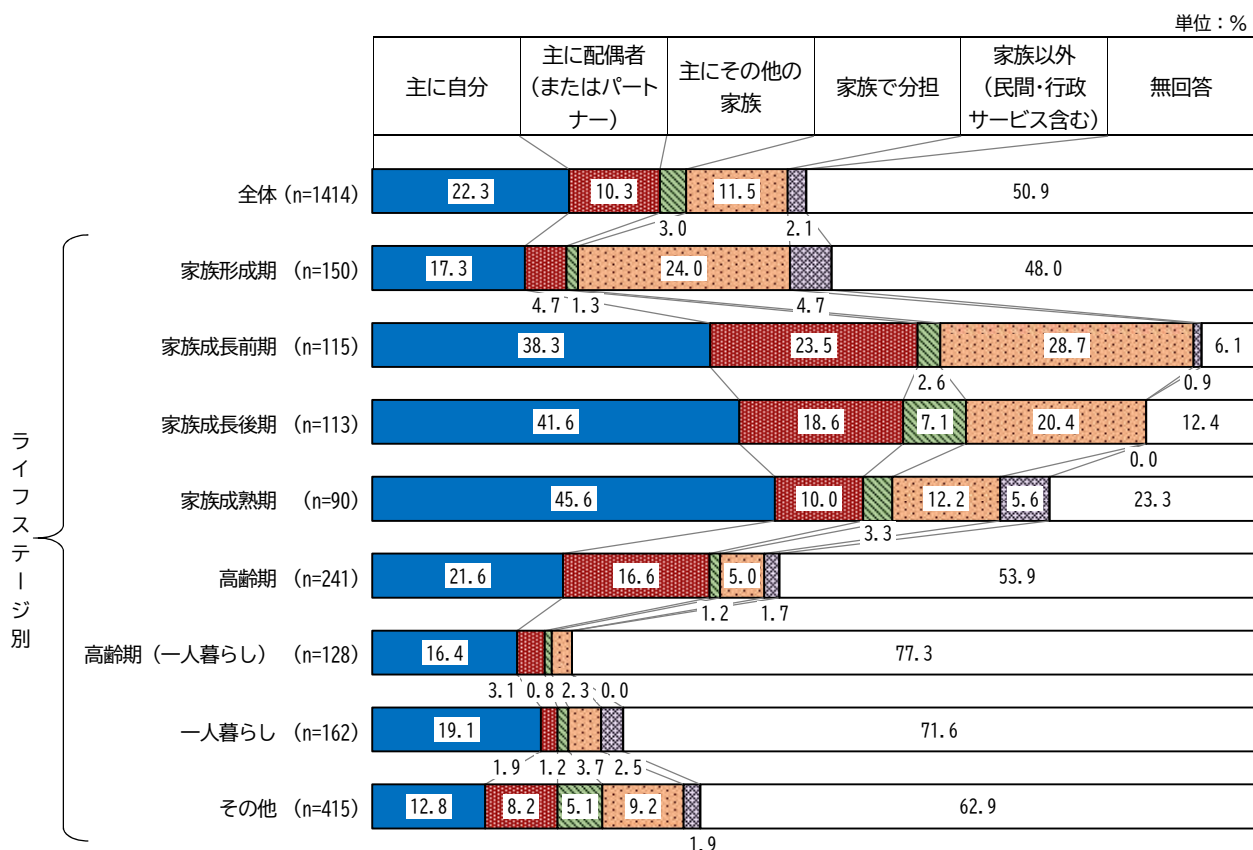
家庭内における役割分担意識（P T A活動など、学校行事への参加）を年代別でみると、「主に自分」は 40～59 歳が 3 割弱、60～69 歳が 3 割近くと高くなっている。「主にその他の家族」は 18～29 歳が 2 割弱と高く、「家族で分担」は 30～39 歳が 2 割強、40～59 歳が 1 割半ばを超えて高くなっている。

家庭内における役割分担意識（P T A活動など、学校行事への参加） 性別／年代別



家庭内における役割分担意識（ＰＴＡ活動など、学校行事への参加）をライフステージ別でみると、「主に自分」は家族成熟期（45.6％）が４割半ば、家族成長後期（41.6％）が４割強、家族成長前期（38.3％）が４割近くと高くなっている。「主に配偶者（またはパートナー）」は家族成長前期（23.5％）が２割半ば近くと高く、「家族で分担」は家族形成期（24.0％）、家族成長前期（28.7％）、家族成長後期（20.4％）が２割台と高くなっている。

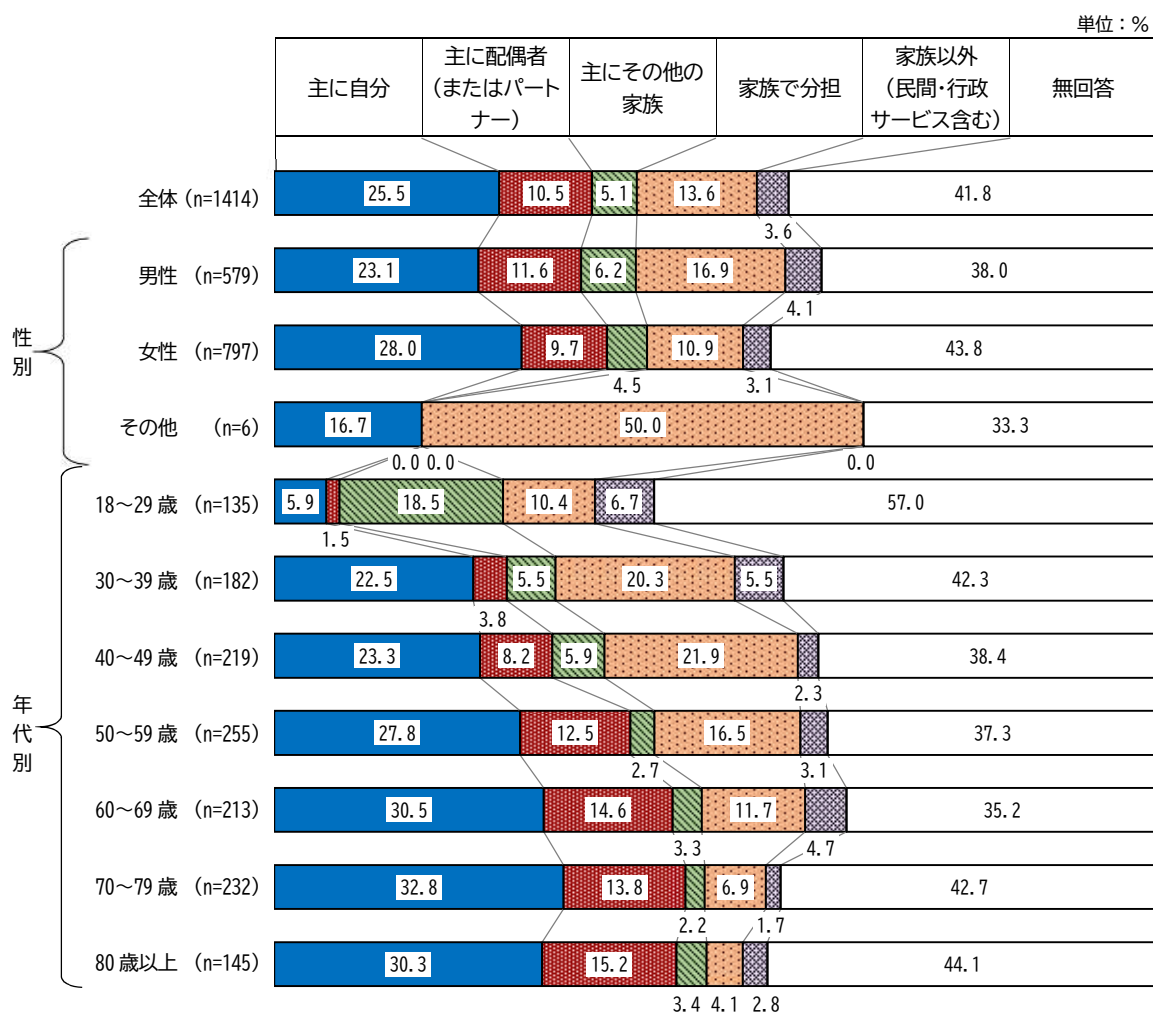
家庭内における役割分担意識（ＰＴＡ活動など、学校行事への参加） ライフステージ別



家庭内における役割分担意識（町会などの地域行事への参加）を性別で見ると、「主に自分」は女性（28.0%）が男性（23.1%）より 4.9 ポイント高いものの、他の役割に比べ男女差は小さい。

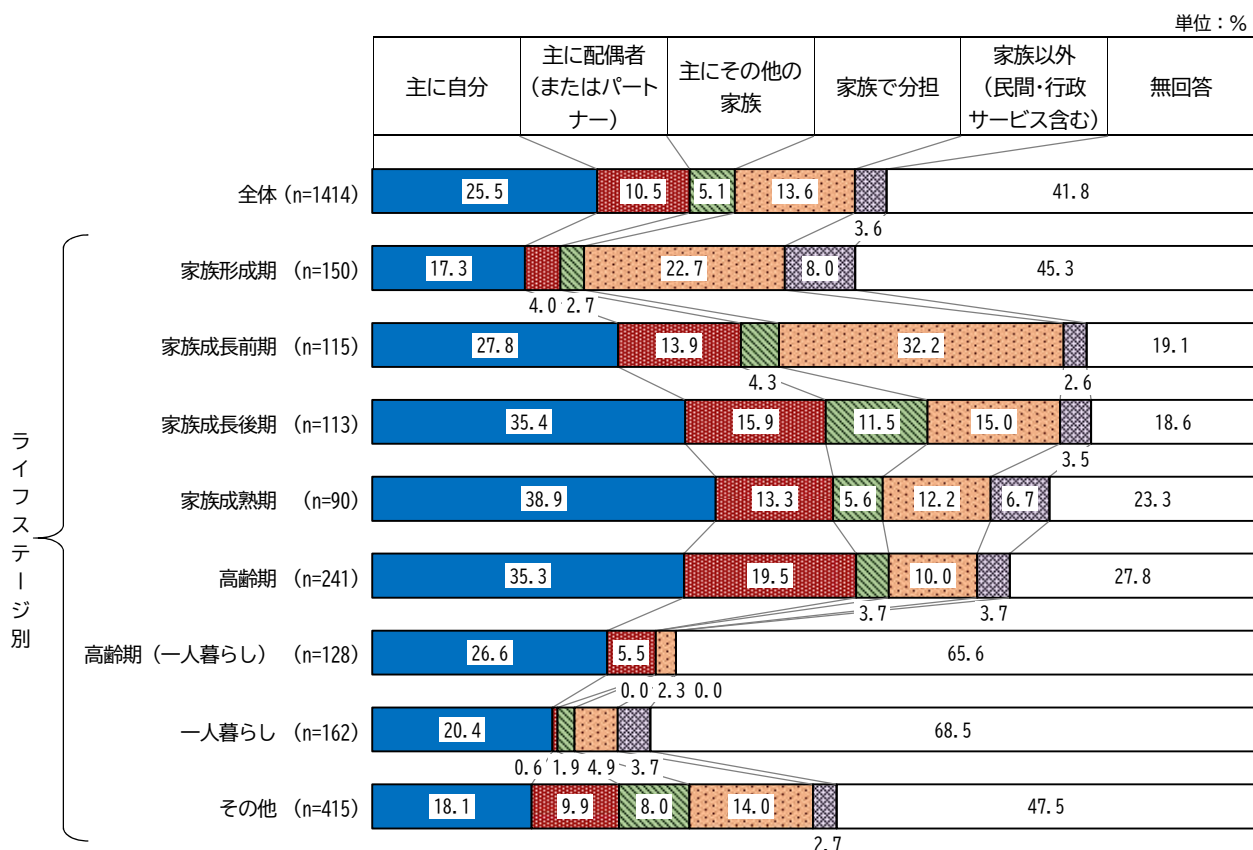
家庭内における役割分担意識（町会などの地域行事への参加）を年代別で見ると、「主に自分」は 60 歳以上が 3 割台と高くなっている。「主にその他の家族」は 18～29 歳が 2 割近くと高く、「家族で分担」は 30～49 歳が 2 割台と高くなっている。

家庭内における役割分担意識（町会などの地域行事への参加） 性別／年代別



家庭内における役割分担意識（町会などの地域行事への参加）をライフステージ別でみると、「主に自分」は家族成熟期（38.9%）が4割近く、家族成長後期（35.4%）と高齢期（35.3%）が3割半ばと高くなっている。「主に配偶者（またはパートナー）」は高齢期（19.5%）が2割弱と高く、「家族で分担」は家族成長前期（32.2%）が3割強で最も高く、次いで家族形成期（22.7%）が2割強となっている。

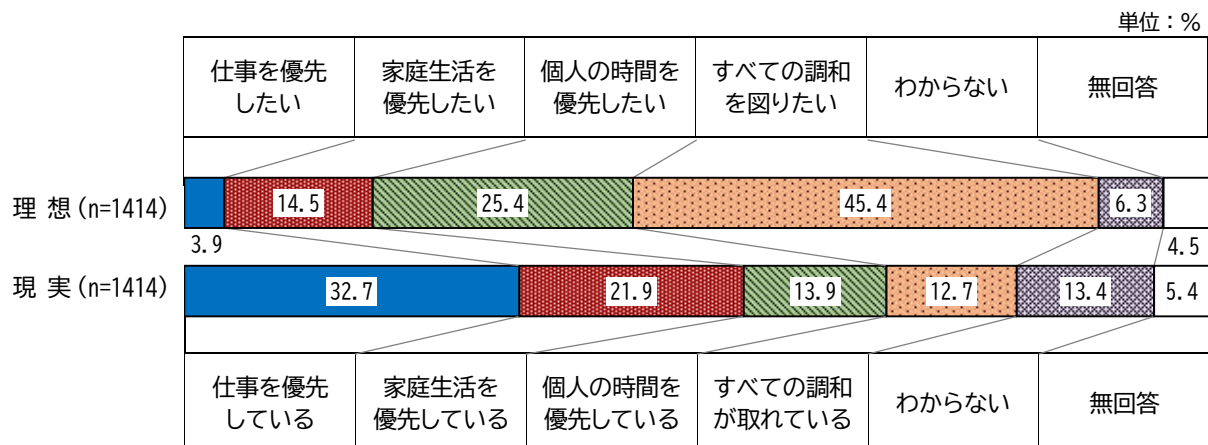
家庭内における役割分担意識（町会などの地域行事への参加） ライフステージ別



(3) 仕事、家庭生活、個人の時間の理想と現実

◇理想は「すべての調和を図りたい」が4割半ば、現実には「仕事を優先している」が3割強

問 19 あなたにとって、仕事、家庭生活（家事、育児、介護など）、個人の時間（趣味、地域活動など）の理想と現実はどのようになっていますか。（○は1つだけ）

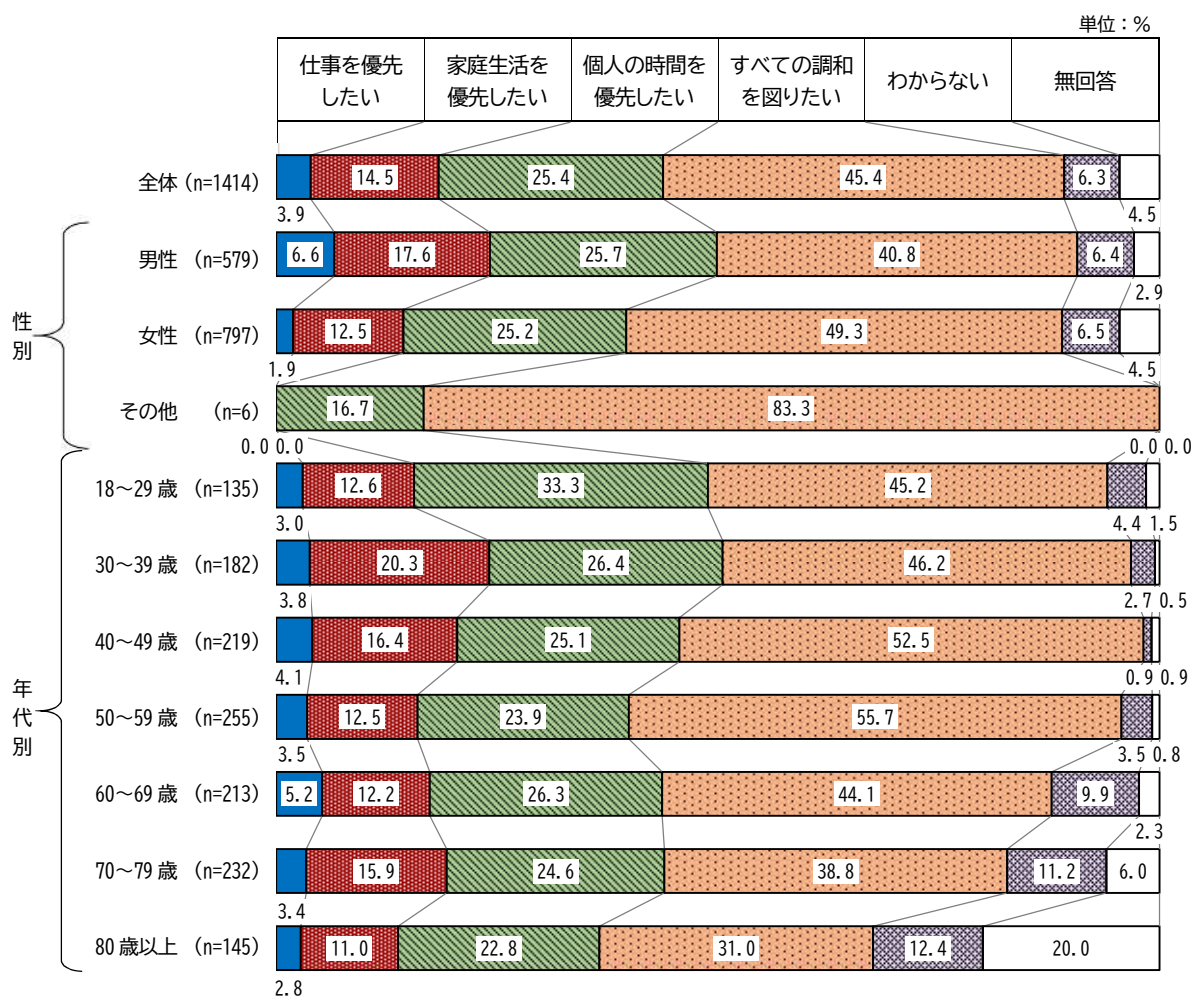


仕事、家庭生活、個人の時間について聞いたところ、理想は「すべての調和を図りたい」（45.4％）が4割半ばと最も高く、以下、「個人の時間を優先したい」（25.4％）、「家庭生活を優先したい」（14.5％）と続く。一方、現実には「仕事を優先している」（32.7％）が3割強と最も高く、「すべての調和が取れている」（12.7％）は1割強にとどまっている。

仕事、家庭生活、個人の時間の理想を性別でみると、「すべての調和を図りたい」は女性（49.3%）が男性（40.8%）より 8.5 ポイント高くなっている。

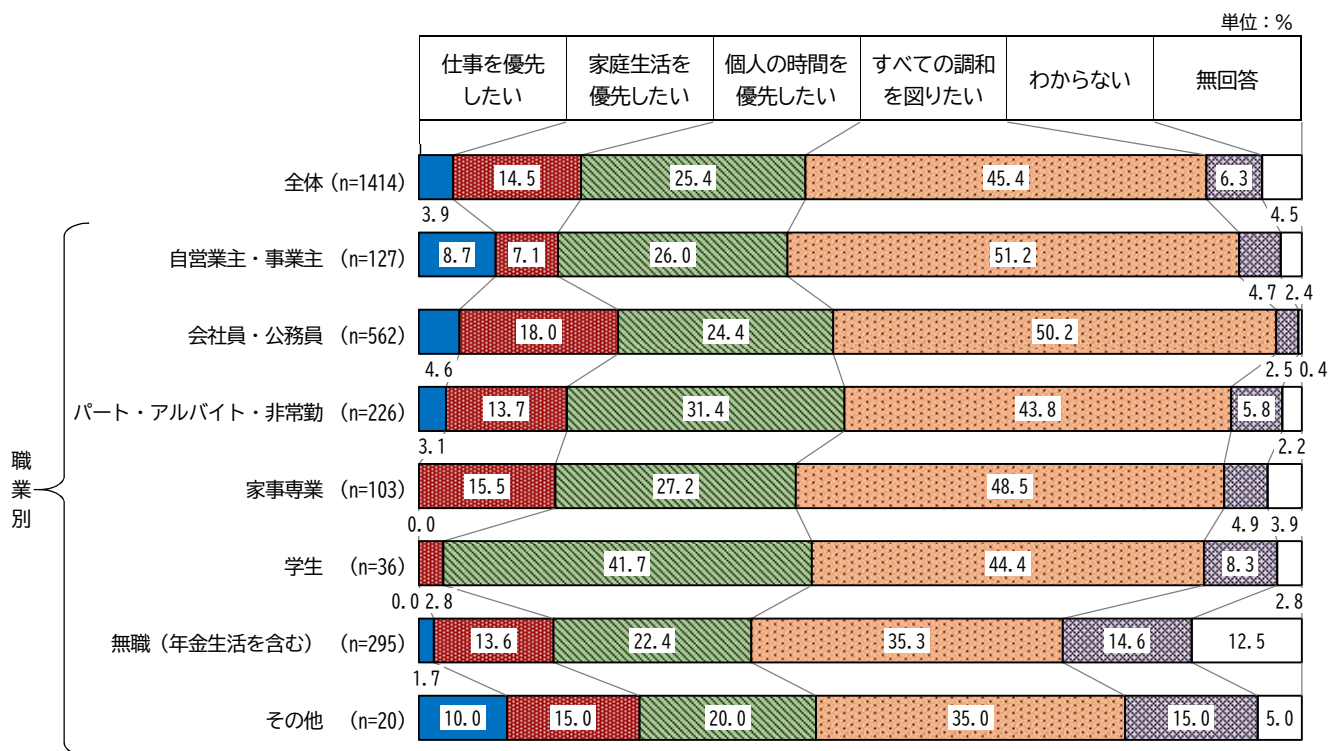
仕事、家庭生活、個人の時間の理想を年代別でみると、「すべての調和を図りたい」は 40～59 歳で 5 割台と高くなっている。「個人の時間を優先したい」は 18～29 歳（33.3%）が 3 割半ば近くと最も高く、「家庭生活を優先したい」は 30～39 歳（20.3%）が 2 割と高くなっている。

仕事、家庭生活、個人の時間の理想と現実（理想） 性別／年代別



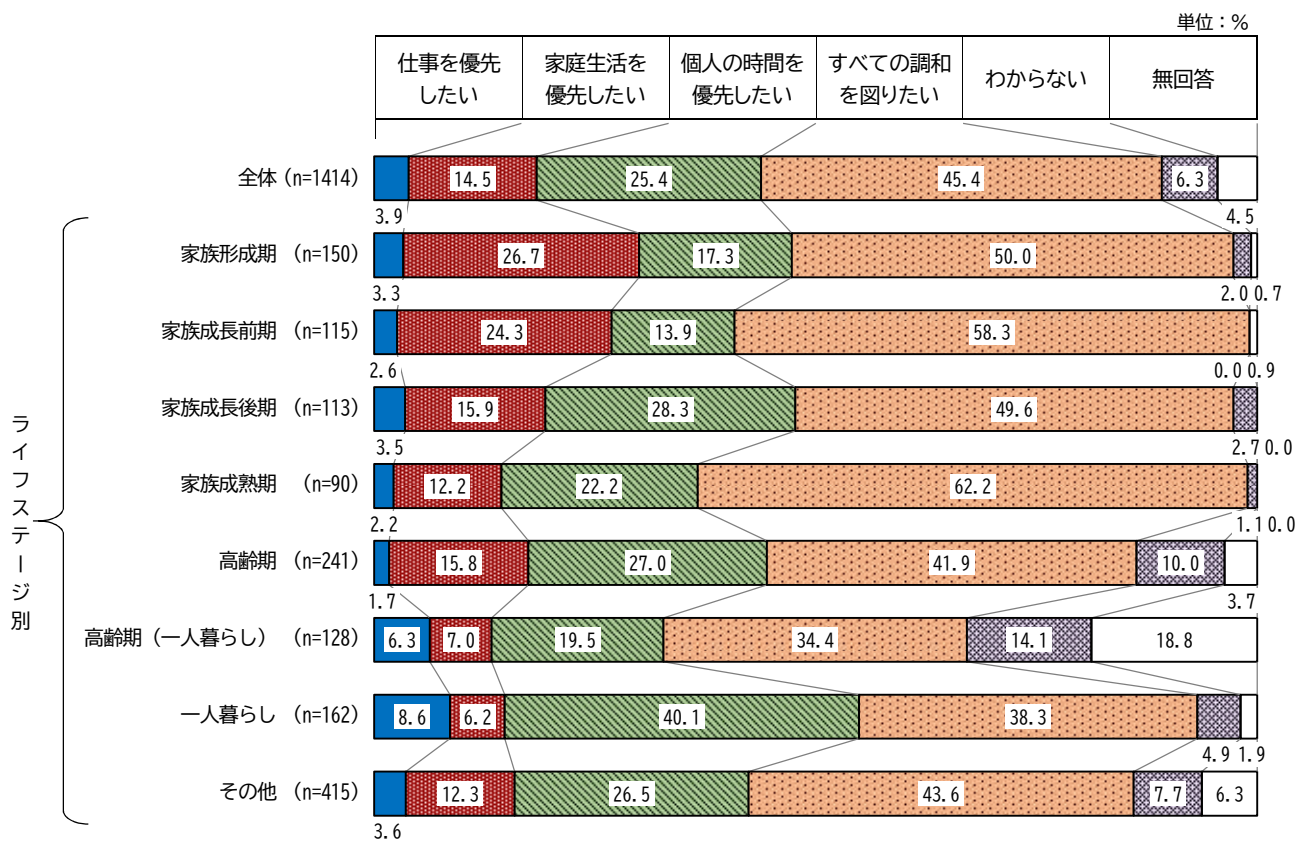
仕事、家庭生活、個人の時間の理想を職業別でみると、「すべての調和を図りたい」は自営業主・事業主（51.2%）と会社員・公務員（50.2%）が5割台と高く、「個人の時間を優先したい」は学生（41.7%）が4割強と最も高くなっている。

仕事、家庭生活、個人の時間の理想と現実（理想） 職業別



仕事、家庭生活、個人の時間の理想をライフステージ別でみると、「すべての調和を図りたい」は家族成熟期（62.2%）が6割強と最も高く、次いで家族成長前期（58.3%）が6割近くとなっている。「個人の時間を優先したい」は一人暮らし（40.1%）が4割と最も高く、「家庭生活を優先したい」は家族形成期（26.7%）と家族成長前期（24.3%）が2割台と高くなっている。

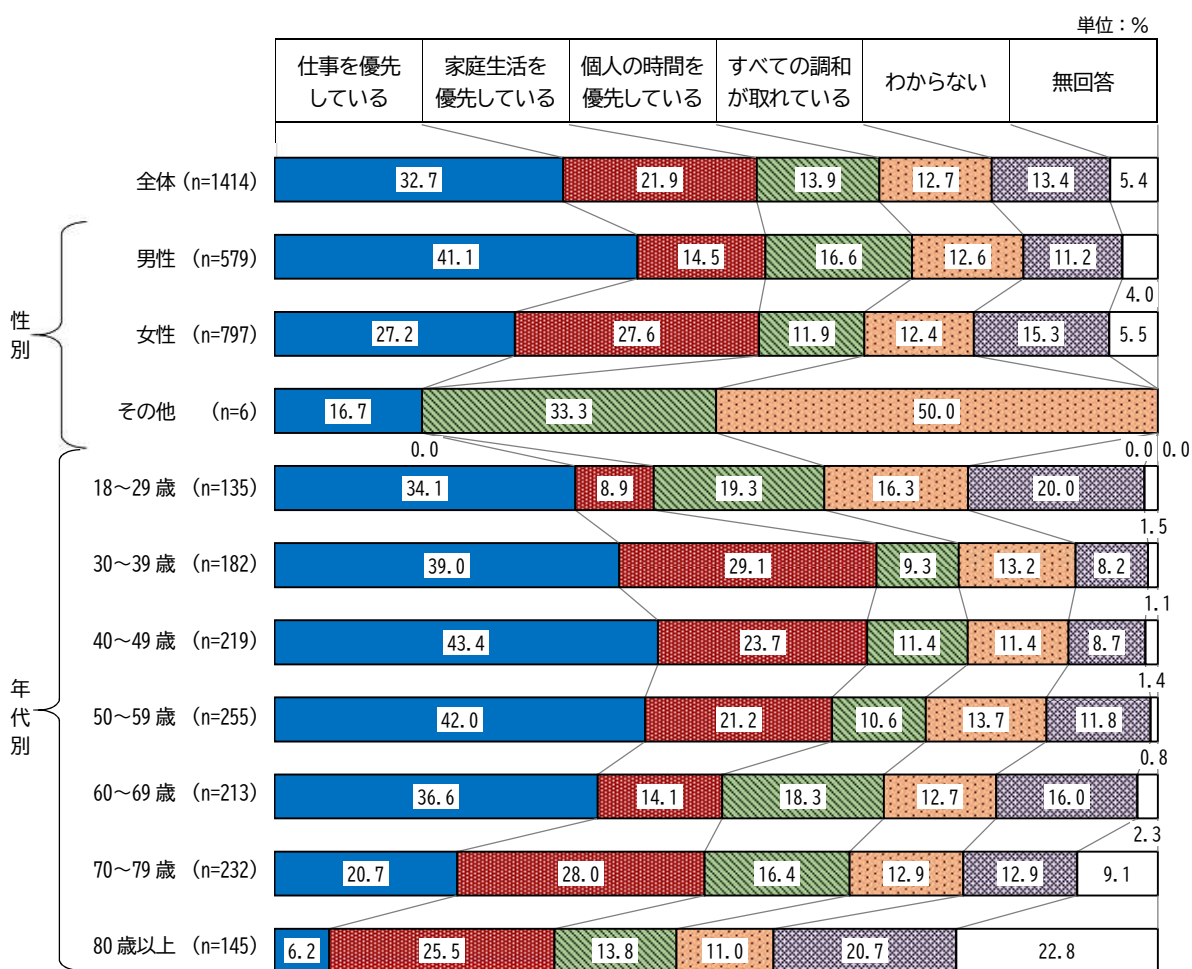
仕事、家庭生活、個人の時間の理想と現実（理想） ライフステージ別



仕事、家庭生活、個人の時間の現実を性別でみると、「すべての調和が取れている」は男女とも1割強にとどまり、男性は「仕事を優先している」(41.1%)が4割強と最も高く、女性は「仕事を優先している」(27.2%)と「家庭生活を優先している」(27.6%)がそれぞれ2割半ばを超えて高くなっている。

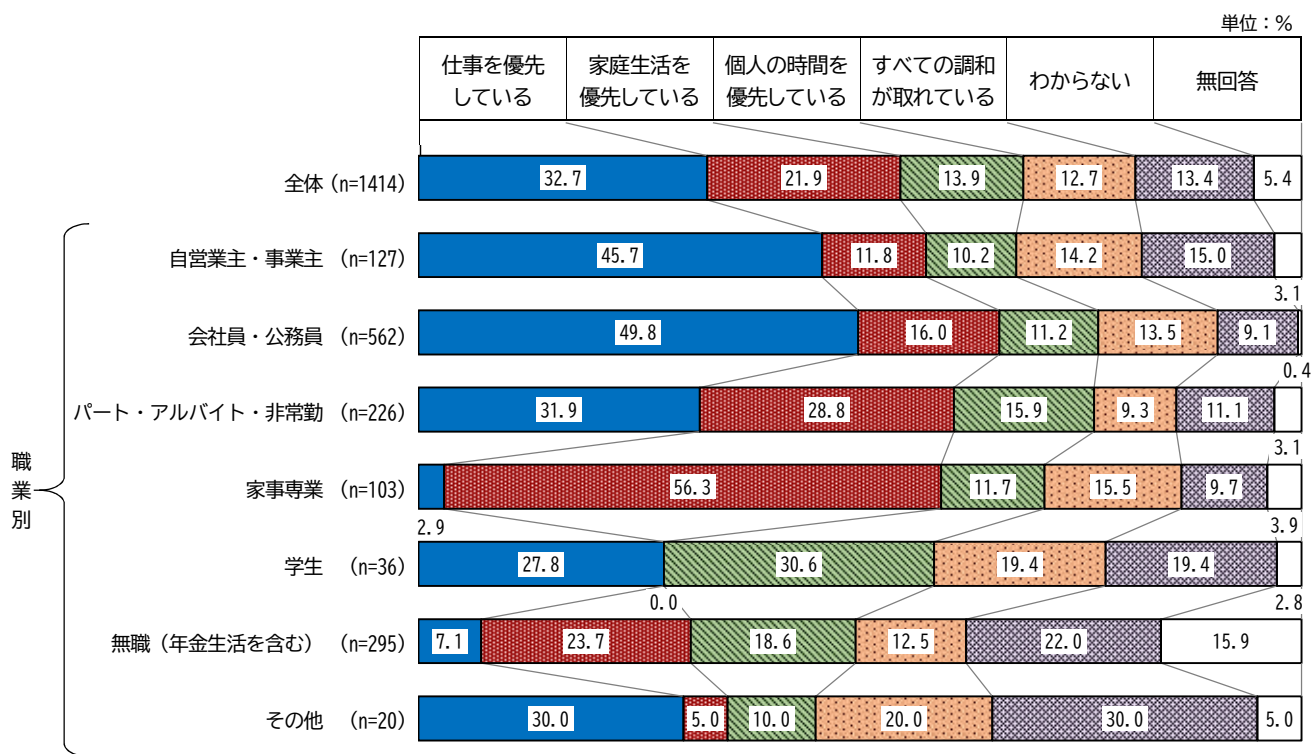
仕事、家庭生活、個人の時間の現実を年代別でみると、「すべての調和が取れている」はすべての年代で1割台となっている。18～69歳は「仕事を優先している」が最も高く、3割～4割台となっており、30～59歳は「家庭生活を優先している」も2割台と高くなっている。70～79歳は「仕事を優先している」と「家庭生活を優先している」が共に2割台、80歳以上は「家庭生活を優先している」が2割半ばとなっている。

仕事、家庭生活、個人の時間の理想と現実（現実） 性別／年代別



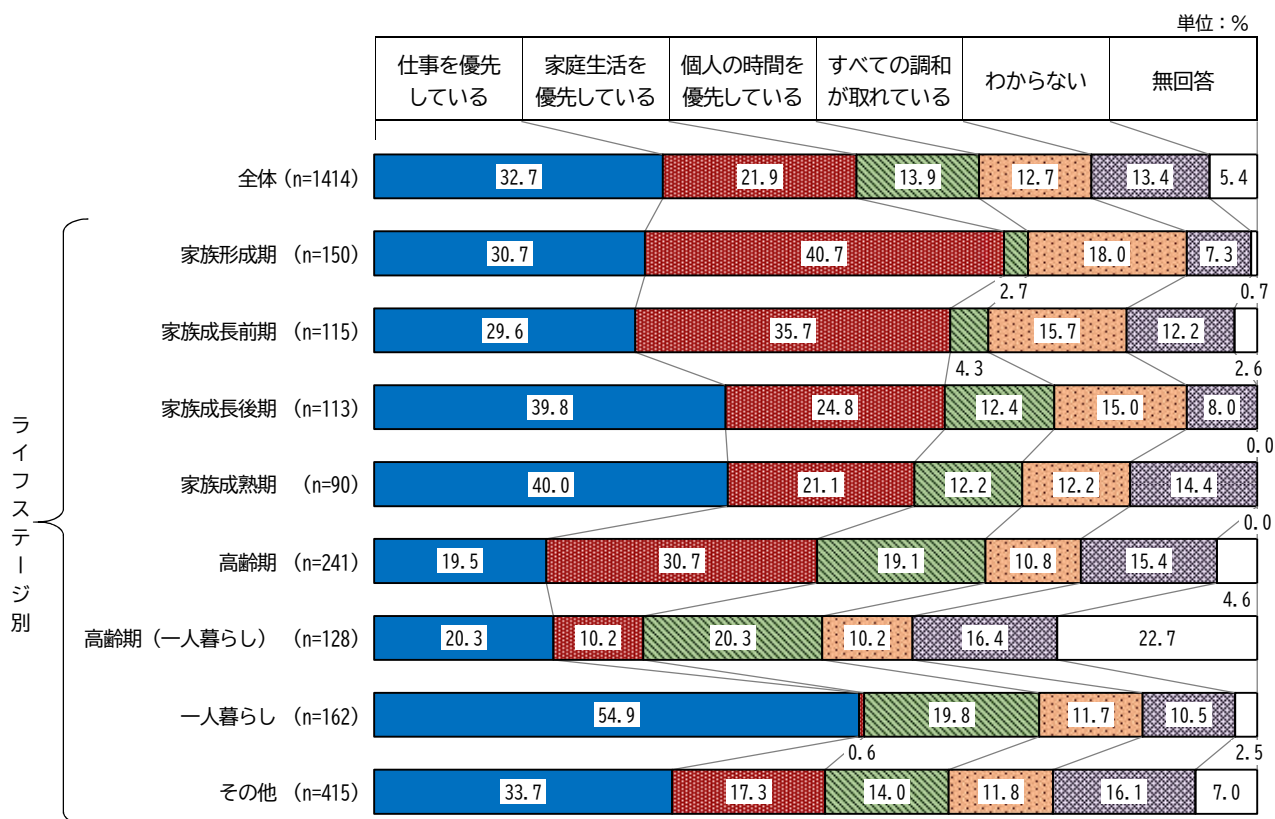
仕事、家庭生活、個人の時間の現実を職業別でみると、「仕事を優先している」は自営業主・事業主（45.7%）と会社員・公務員（49.8%）が4割台と高くなっている。「家庭生活を優先している」は家事専業（56.3%）が5割半ばを超え、「個人の時間を優先している」は学生（30.6%）が3割と最も高くなっている。学生は「すべての調和が取れている」（19.4%）も2割弱と他の職業より高くなっている。パート・アルバイト・非常勤は「仕事を優先している」（31.9%）が3割強、「家庭生活を優先している」（28.8%）が3割近くとなっている。

仕事、家庭生活、個人の時間の理想と現実（現実） 職業別



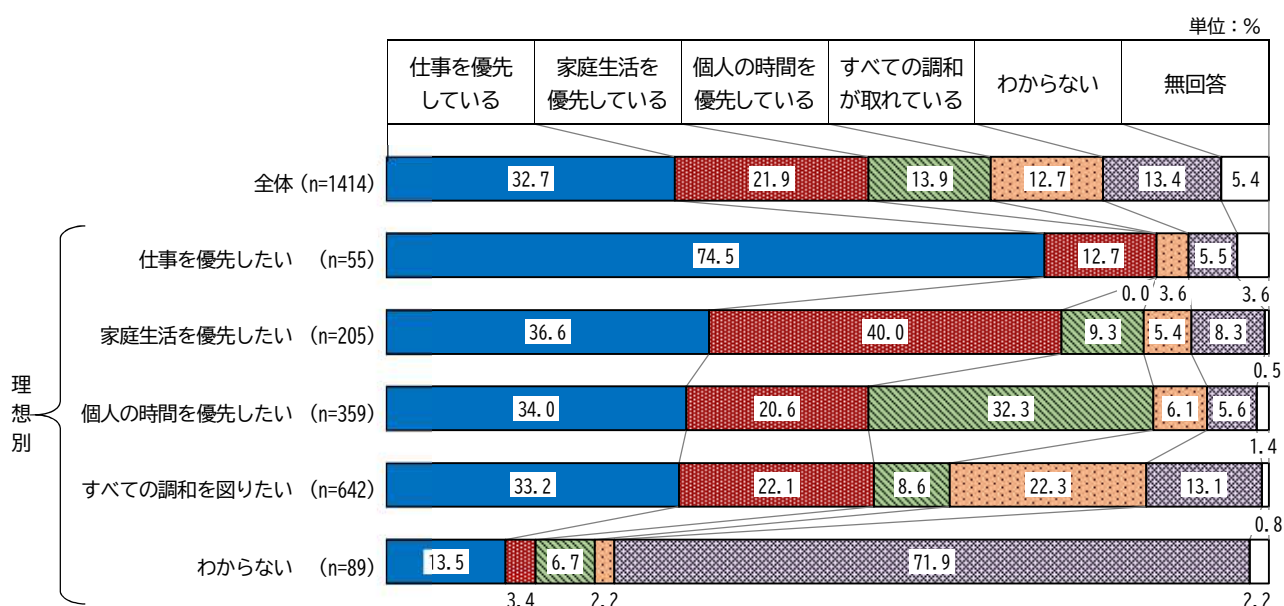
仕事、家庭生活、個人の時間の現実をライフステージ別でみると、「仕事を優先している」は一人暮らし（54.9%）が5割半ば近く、家族成熟期（40.0%）が4割、家族成長後期（39.8%）が4割弱と高くなっている。「家庭生活を優先している」は家族形成期（40.7%）が4割、家族成長前期（35.7%）が3割半ば、高齢期（30.7%）が3割と高くなっている。「個人の時間を優先している」は高齢期（一人暮らし）（20.3%）が2割、高齢期（19.1%）と一人暮らし（19.8%）が2割弱となっている。

仕事、家庭生活、個人の時間の理想と現実（現実） ライフステージ別



仕事、家庭生活、個人の時間の現実を理想と比較してみると、仕事を優先したい人は「仕事を優先している」が74.5%で7割半ば近くが理想と現実が一致している。家庭生活を優先したい人は「家庭生活を優先している」(40.0%)が最も割合が高いものの、4割にとどまっており、「仕事を優先している」(36.6%)が3割半ばを超える。個人の時間を優先したい人は「仕事を優先している」(34.0%)が3割半ば近くで最も高く、次いで「個人の時間を優先している」(32.3%)が3割強となっている。すべての調和を図りたい人は「仕事を優先している」(33.2%)が3割半ば近くで最も高く、「家庭生活を優先している」(22.1%)と「すべての調和が取れている」(22.3%)が2割強となっている。

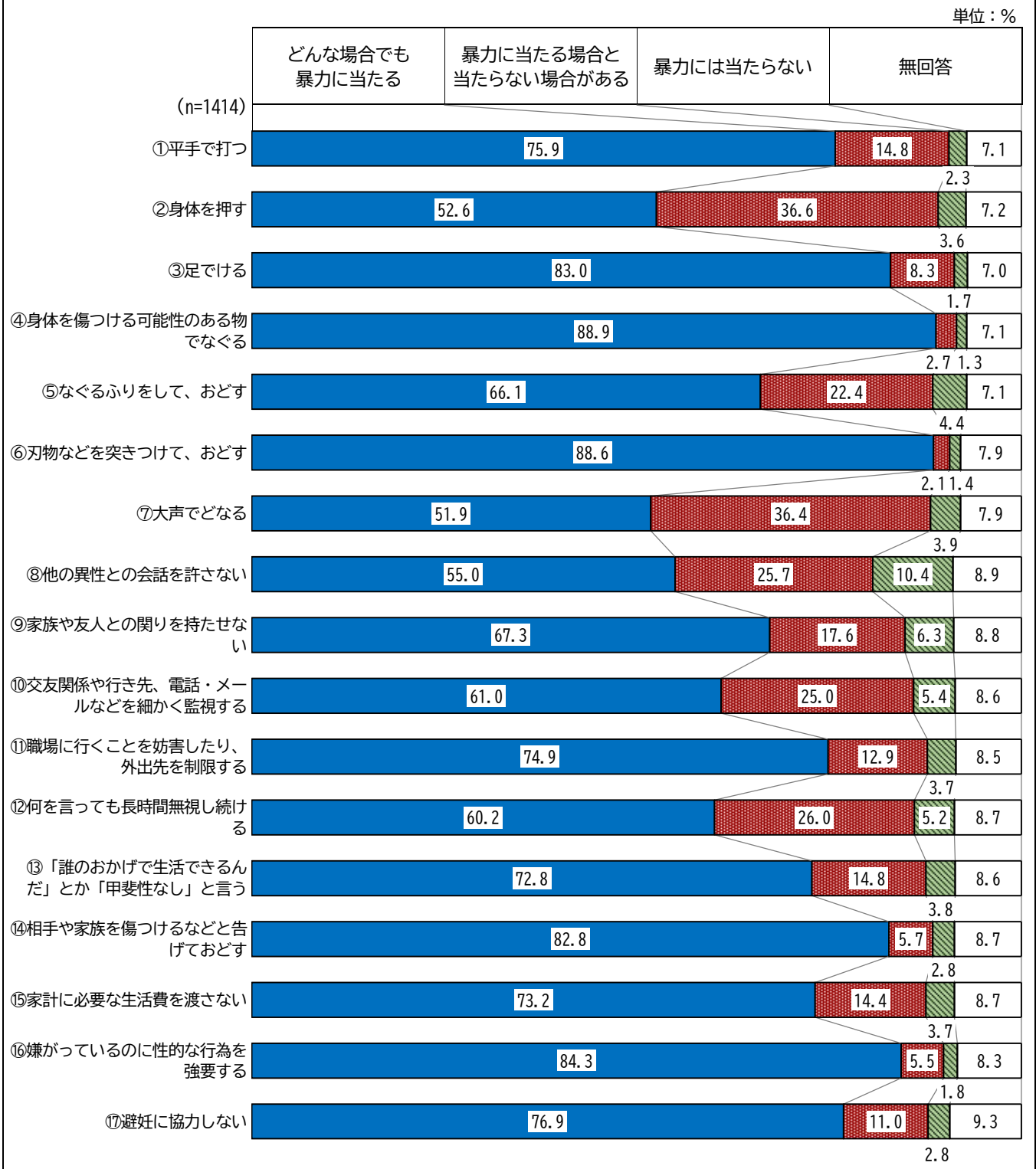
仕事、家庭生活、個人の時間の理想と現実（現実） 理想と現実の比較



(4) 配偶者や交際相手等の間の行為

◇「どんな場合でも暴力に当たる」は「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」と「刃物などを突きつけて、おどす」が9割近く

問 20 配偶者や交際相手等の間で次のような行為があった場合、あなたの考えに近い番号をお選びください。(○は1つだけ)



配偶者や交際相手等の間の行為について聞いたところ、「どんな場合でも暴力に当たる」は「④身体を傷つける可能性のある物でなぐる」(88.9%)と「⑥刃物などを突きつけて、おどす」(88.6%)が9割近く、「⑯嫌がっているのに性的な行為を強要する」(84.3%)、「③足でける」(83.0%)、「⑭相手や家族を傷つけるなどと告げておどす」(82.8%)も8割台となっている。

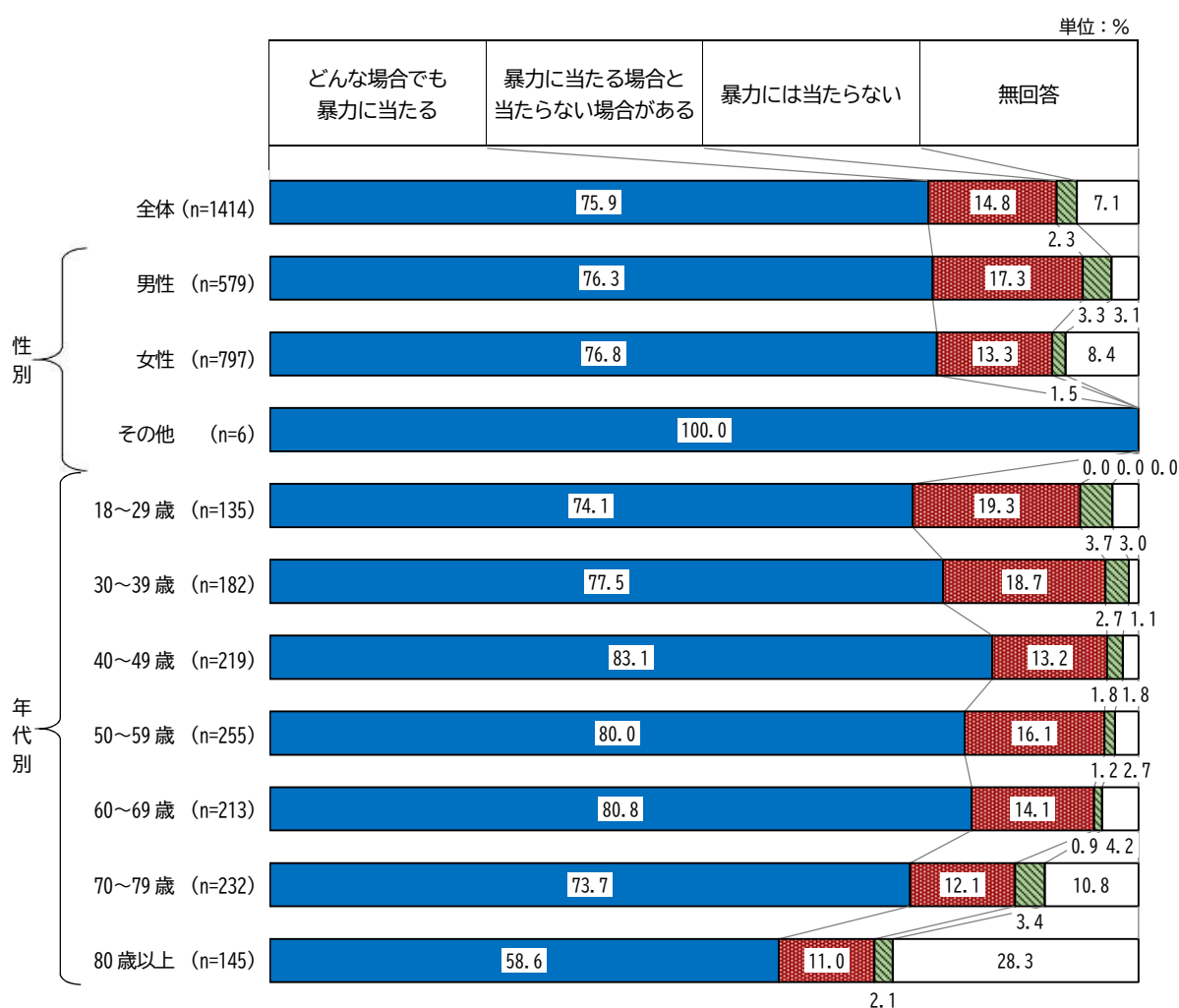
「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は「②身体を押す」(36.6%)、「⑦大声でどなる」(36.4%)が3割半ばを超え、「⑫何を言っても長時間無視し続ける」(26.0%)、「⑧他の異性との会話を許さない」(25.7%)、「⑩交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」(25.0%)、「⑤なぐるふりをして、おどす」(22.4%)が2割台となっている。

「暴力には当たらない」は「⑧他の異性との会話を許さない」(10.4%)が1割、それ以外の行為は1割未満となっている。

【平手で打つ】を性別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は男女ともに7割半ばを超えている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は男性（17.3%）が女性（13.3%）より4.0ポイント高くなっている。

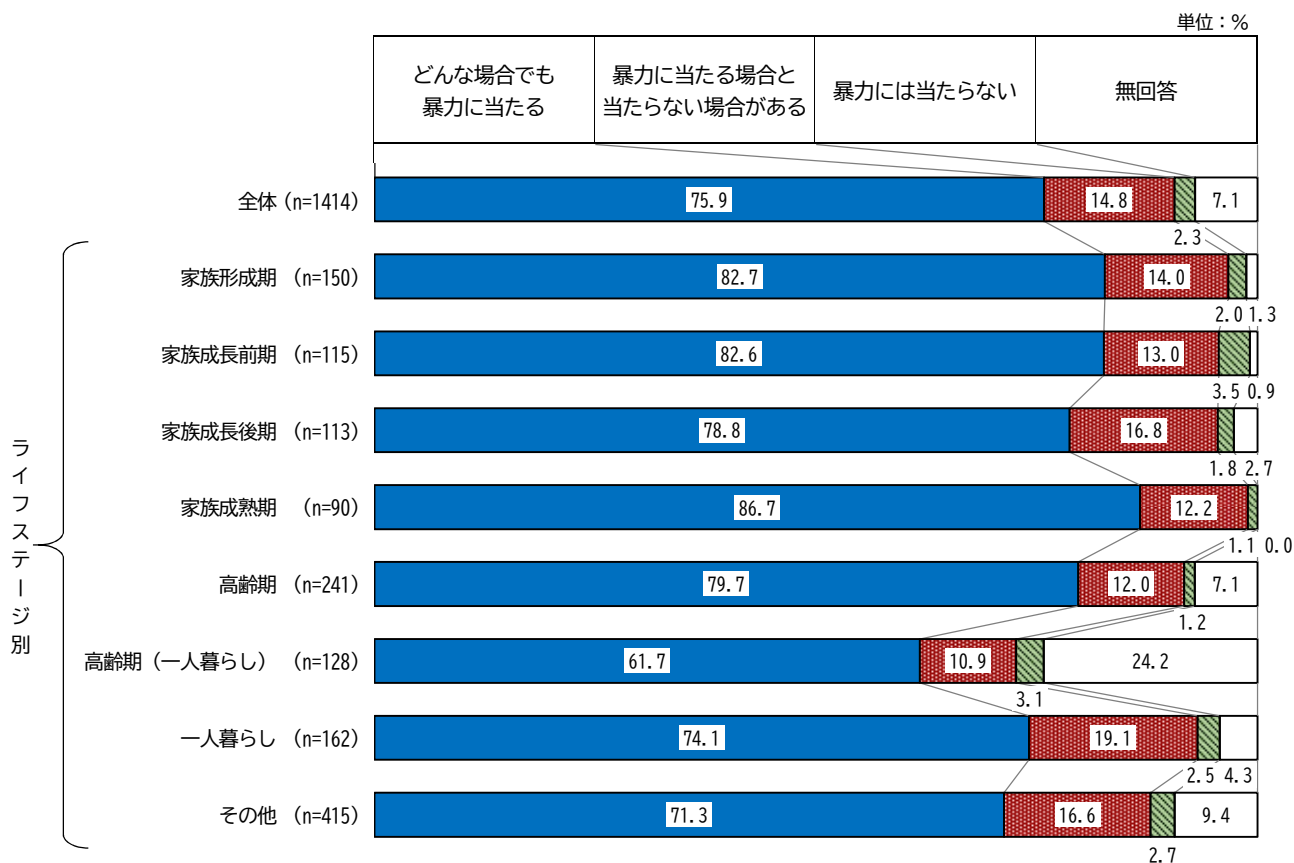
【平手で打つ】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は40～49歳（83.1%）が8割半ば近くで最も高く、50～59歳（80.0%）と60～69歳（80.8%）も8割と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は18～29歳（19.3%）が2割弱、30～39歳（18.7%）が2割近くとなっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【平手で打つ】 性別／年代別



【平手で打つ】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（86.7%）が8割半ばを超えて最も高く、次いで家族形成期（82.7%）と家族成長前期（82.6%）が8割強と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は一人暮らし（19.1%）が2割弱で最も高くなっている。

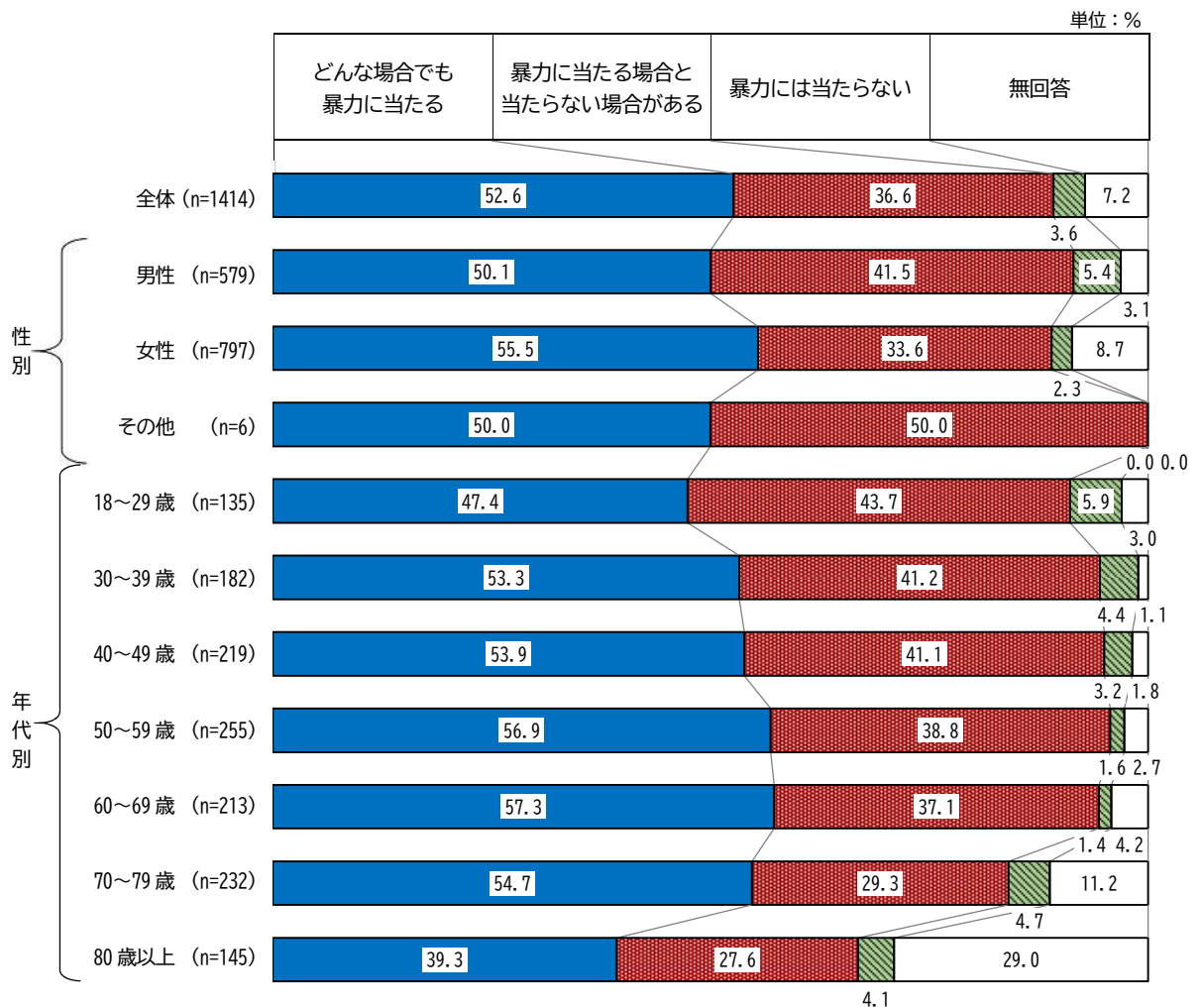
配偶者や交際相手等の間の行為【平手で打つ】 ライフステージ別



【身体を押す】を性別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は女性（55.5%）が男性（50.1%）より 5.4 ポイント高く、「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は男性（41.5%）が女性（33.6%）より 7.9 ポイント高くなっている。

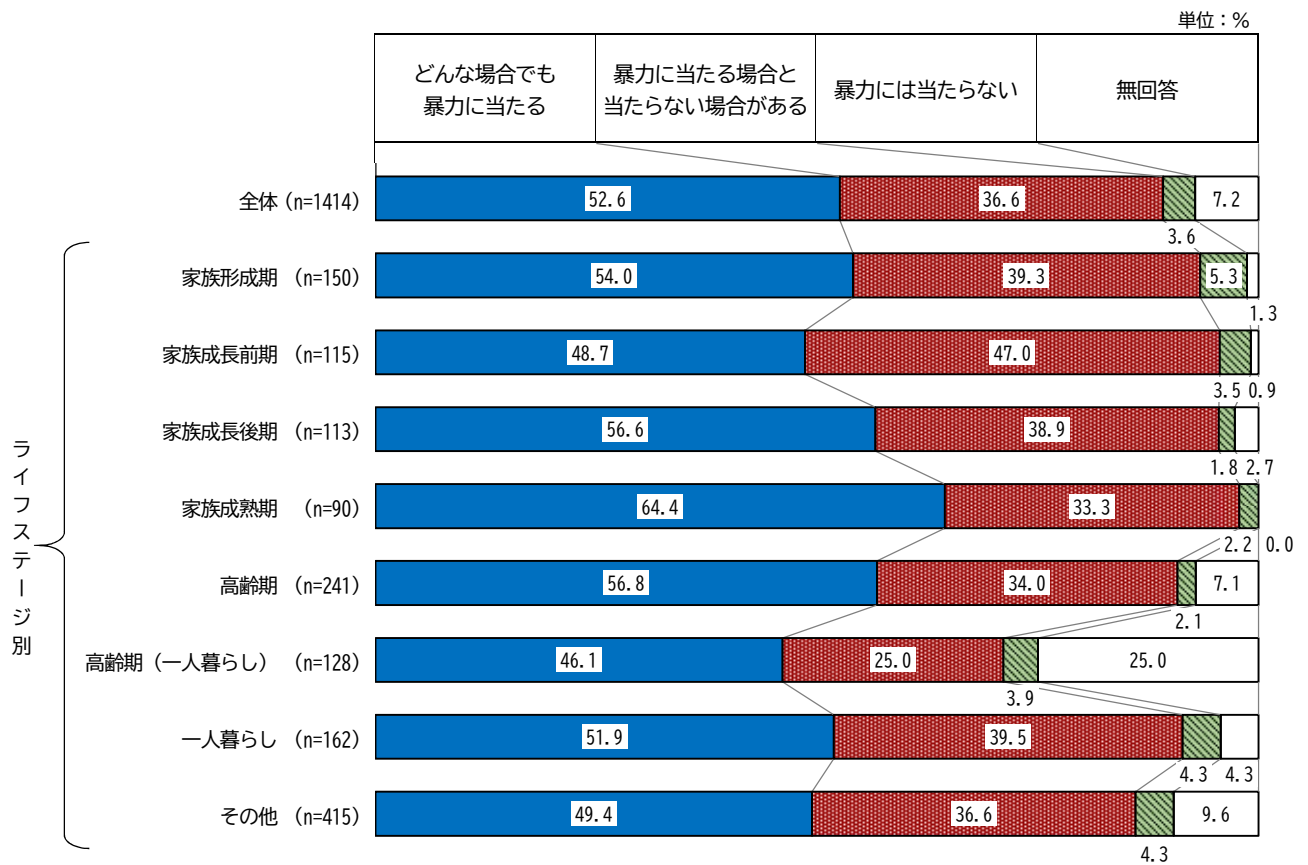
【身体を押す】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は 30～79 歳で 5 割台となっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は 18～49 歳で 4 割台となっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【身体を押す】 性別／年代別



【身体を押す】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（64.4%）が6割半ば近くと最も高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は家族成長前期（47.0%）が4割半ばを超えて最も高くなっている。

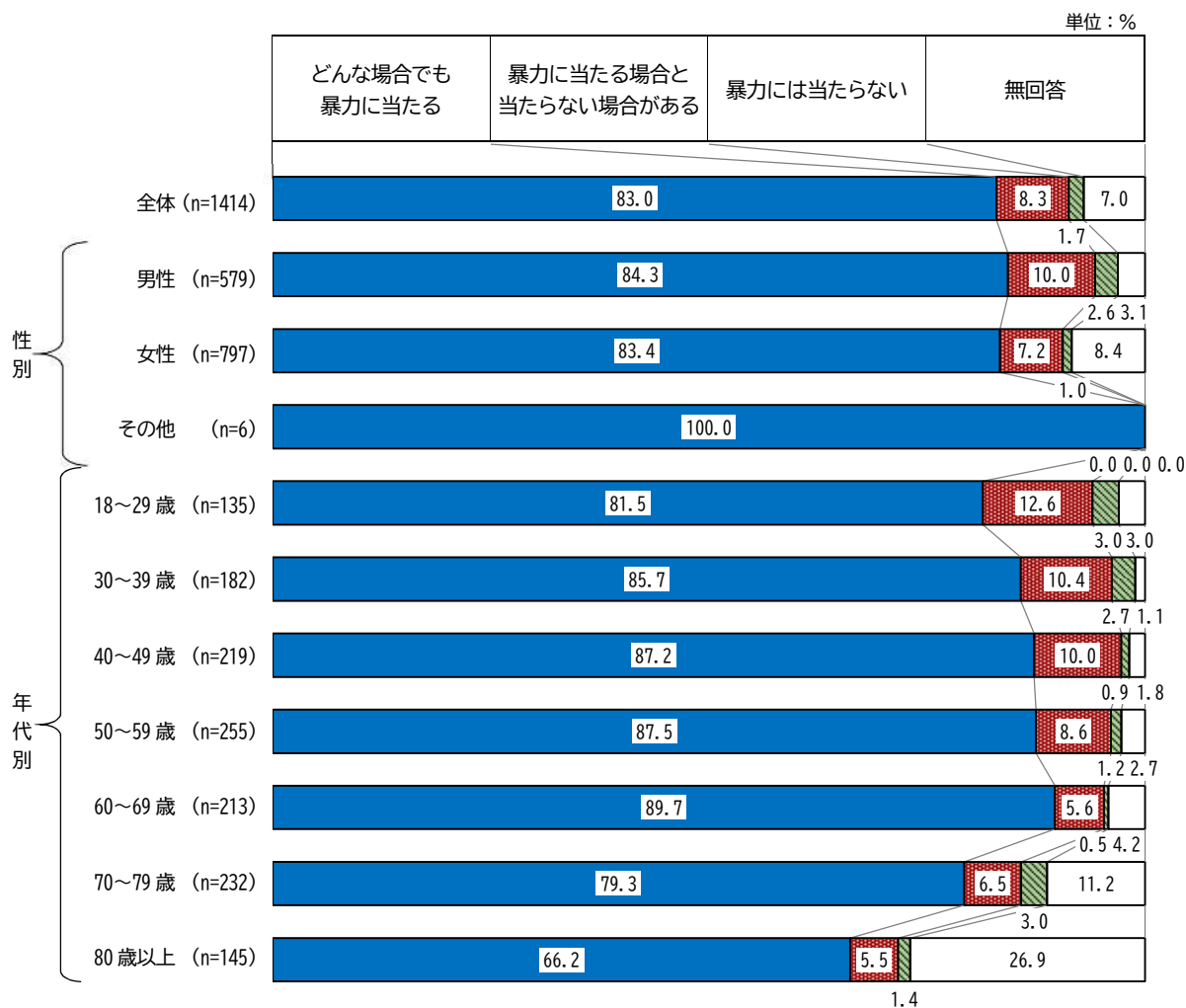
配偶者や交際相手等の間の行為【身体を押す】 ライフステージ別



【足でける】を性別でみると、男女による差はみられない。

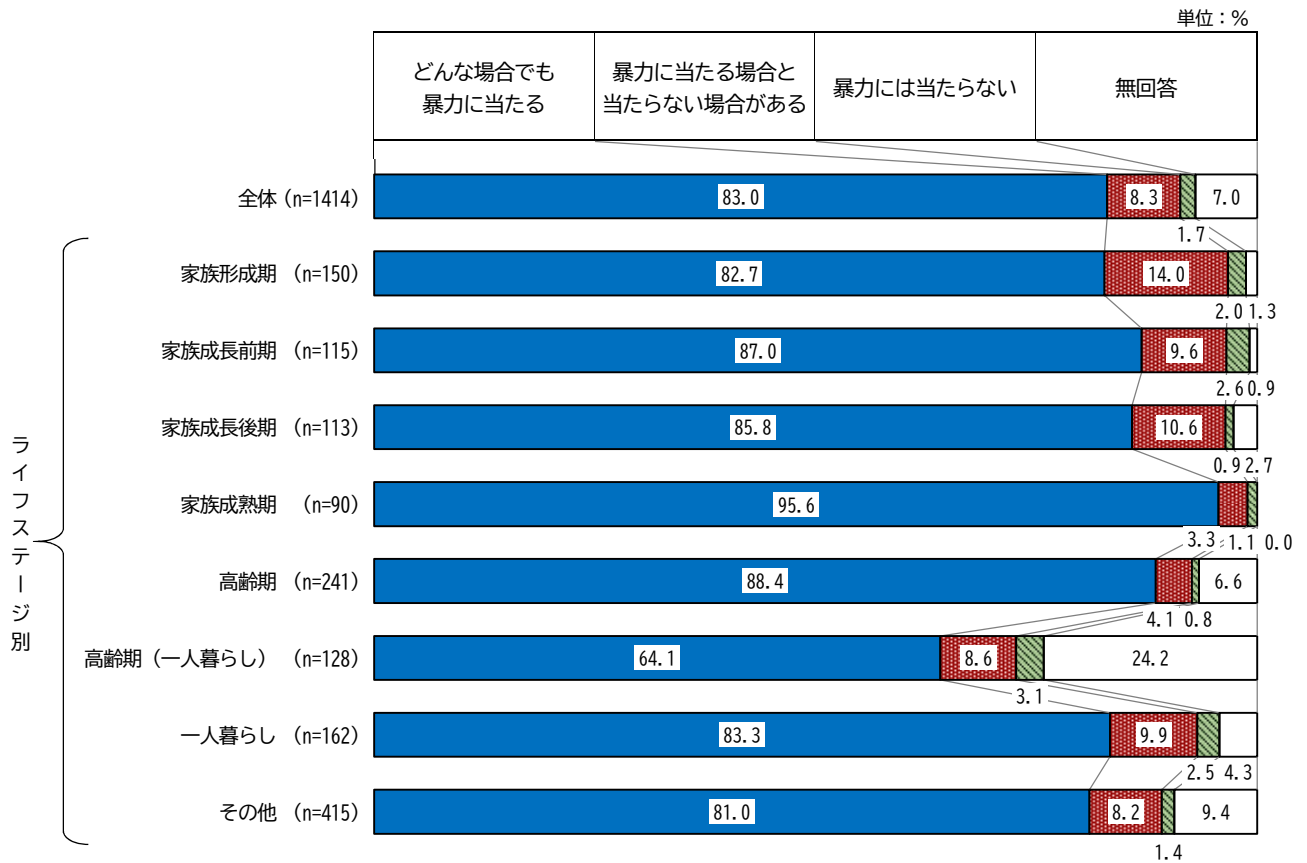
【足でける】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は60～69歳（89.7%）が9割弱と最も高く、18～59歳も8割台と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は18～29歳（12.6%）が1割強となっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【足でける】 性別／年代別



【足でける】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（95.6%）が9割半ばと最も高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は家族形成期（14.0%）が1割半ば近くとなっている。

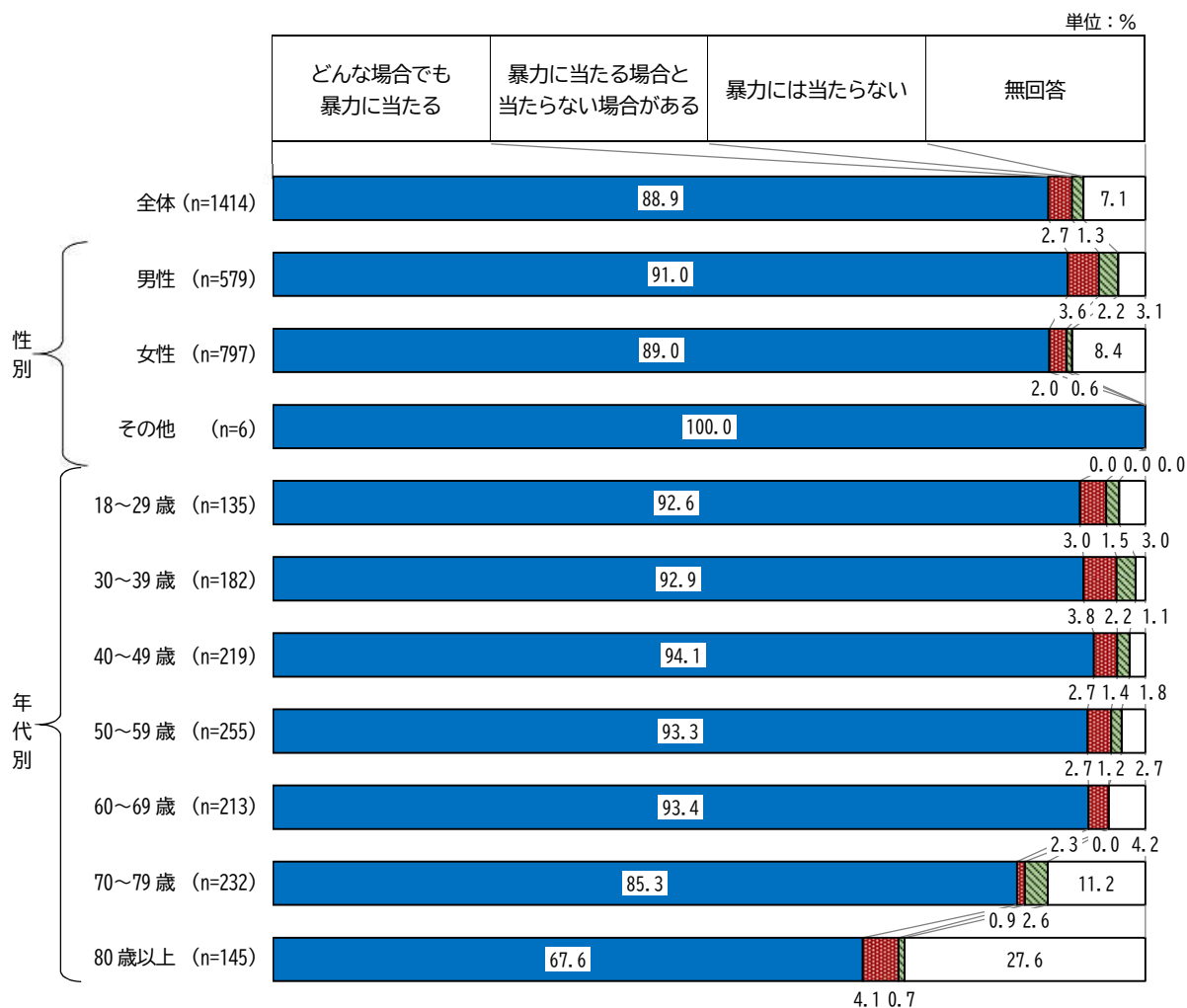
配偶者や交際相手等の間の行為【足でける】 ライフステージ別



【身体を傷つける可能性のある物でなくる】を性別でみると、男女による差はみられない。

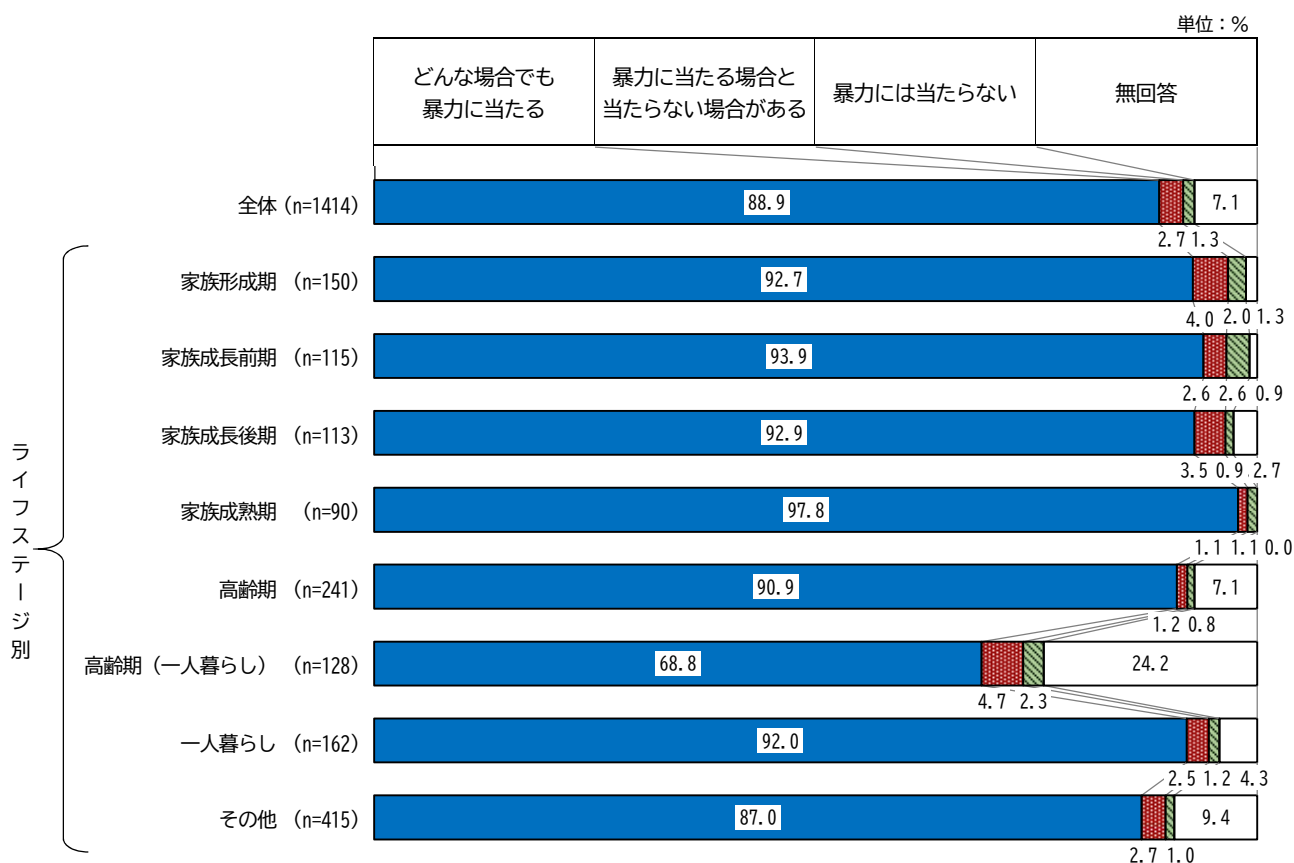
【身体を傷つける可能性のある物でなくる】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は18～69歳で9割台と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」はすべての年代で1割未満となっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【身体を傷つける可能性のある物でなくる】 性別／年代別



【身体を傷つける可能性のある物でなぐる】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は高齢期（一人暮らし）（68.8%）とその他（87.0%）を除くすべてのライフステージで9割台となっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」はすべてのライフステージで1割未満となっている。

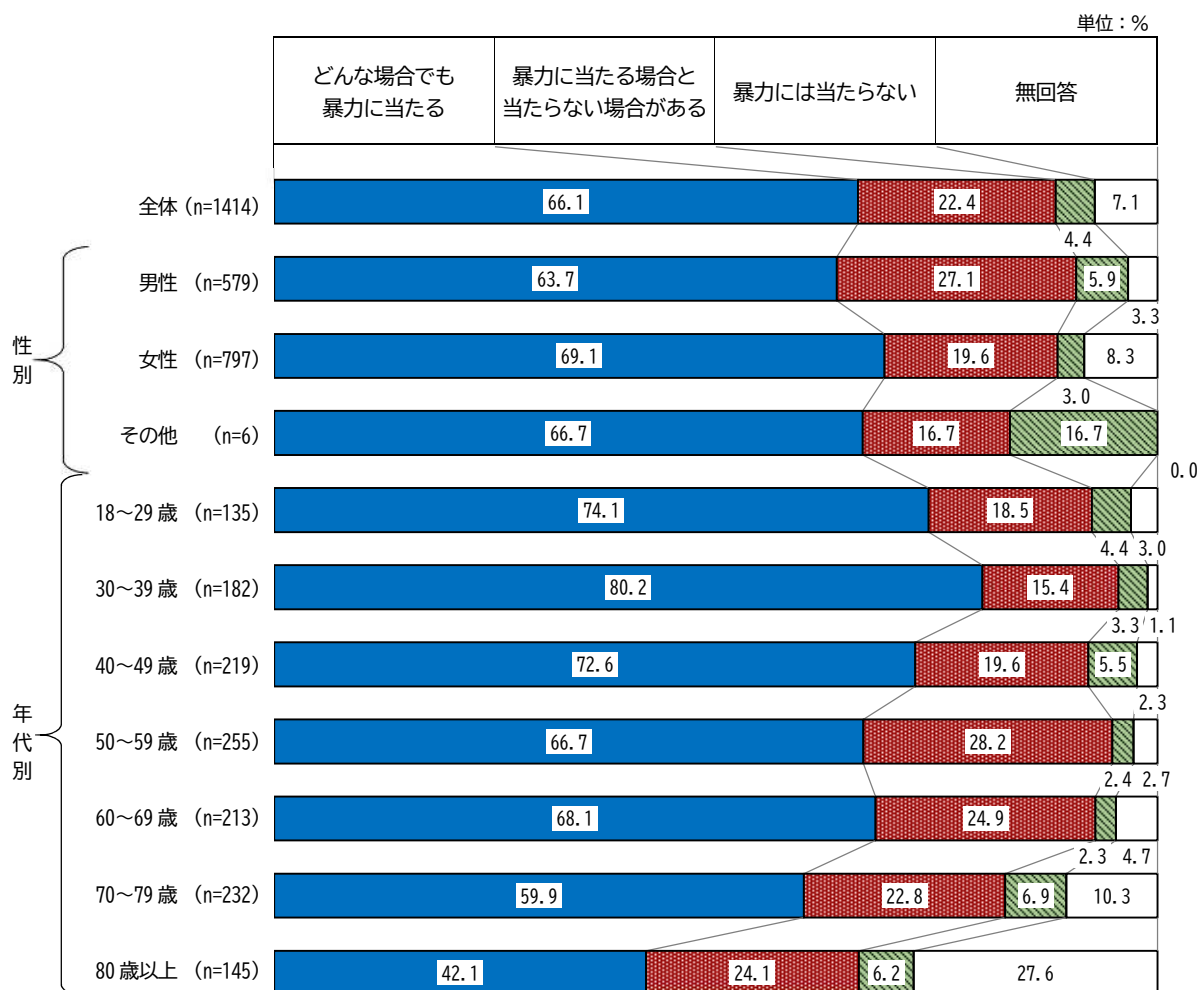
配偶者や交際相手等の間の行為【身体を傷つける可能性のある物でなぐる】 ライフステージ別



【なぐるふりをして、おどす】を性別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は女性（69.1%）が男性（63.7%）より 5.4 ポイント高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は男性（27.1%）が女性（19.6%）より 7.5 ポイント高くなっている。

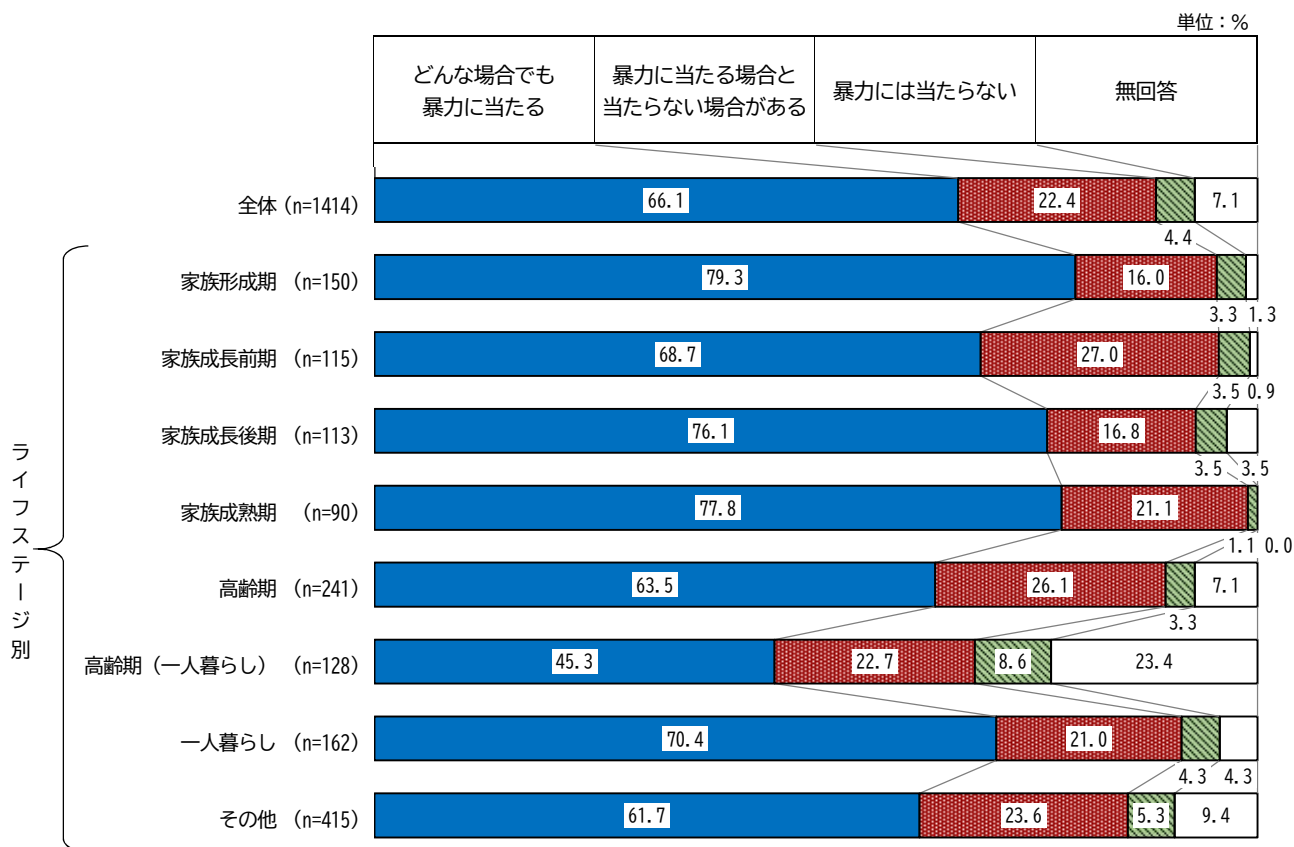
【なぐるふりをして、おどす】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は 18～49 歳が 7 割～8 割台で、50 歳以上に比べ高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は 50～59 歳が 3 割近く、60 歳以上も 2 割台と高くなっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【なぐるふりをして、おどす】 性別／年代別



【なぐるふりをして、おどす】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族形成期（79.3%）が8割弱と最も高く、家族成長後期（76.1%）と家族成熟期（77.8%）が7割半ばを超えて高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は家族成長前期（27.0%）と高齢期（26.1%）が2割半ばを超えている。

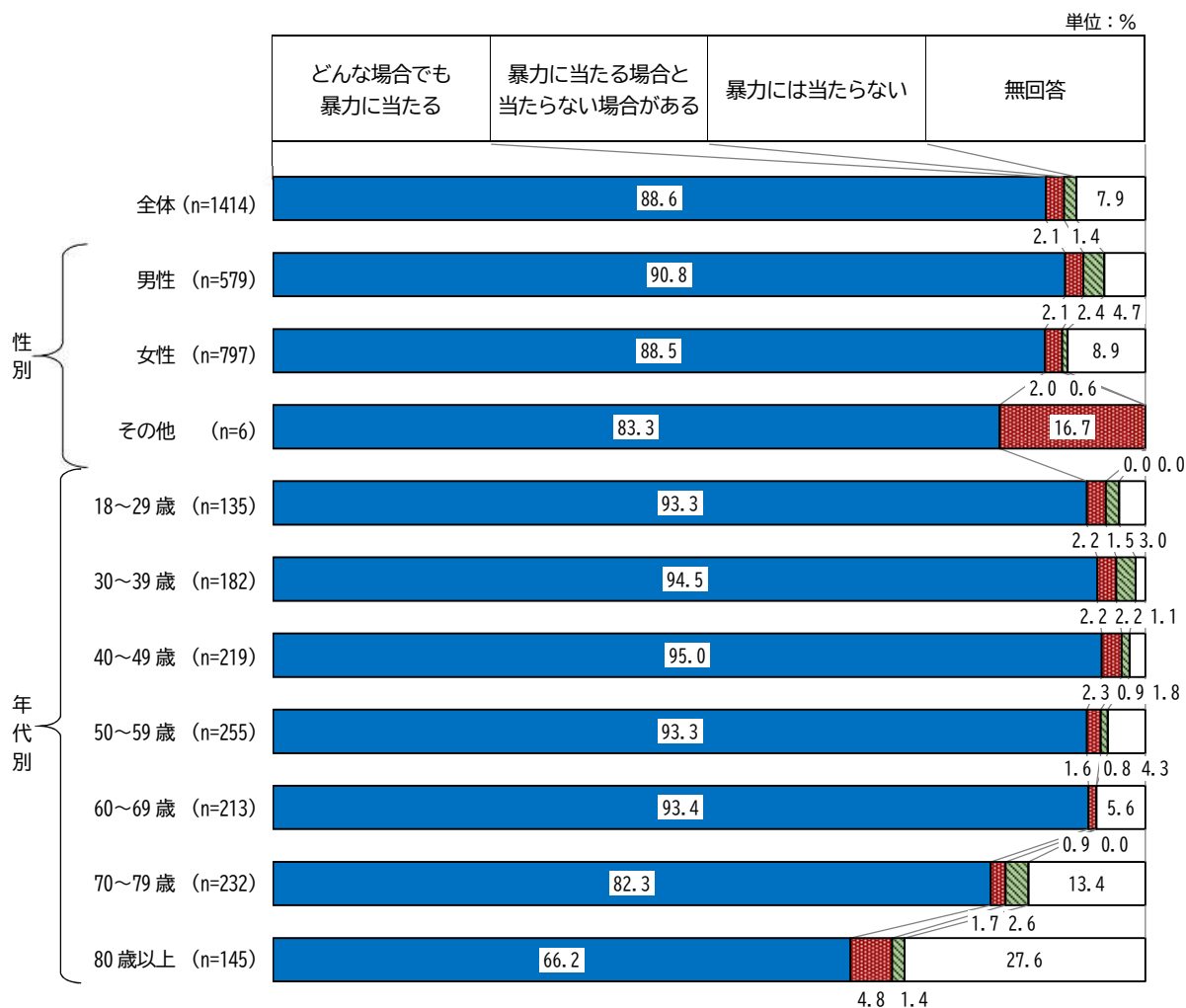
配偶者や交際相手等の間の行為【なぐるふりをして、おどす】 ライフステージ別



【刃物などを突きつけて、おどす】を性別でみると、男女による差はみられない。

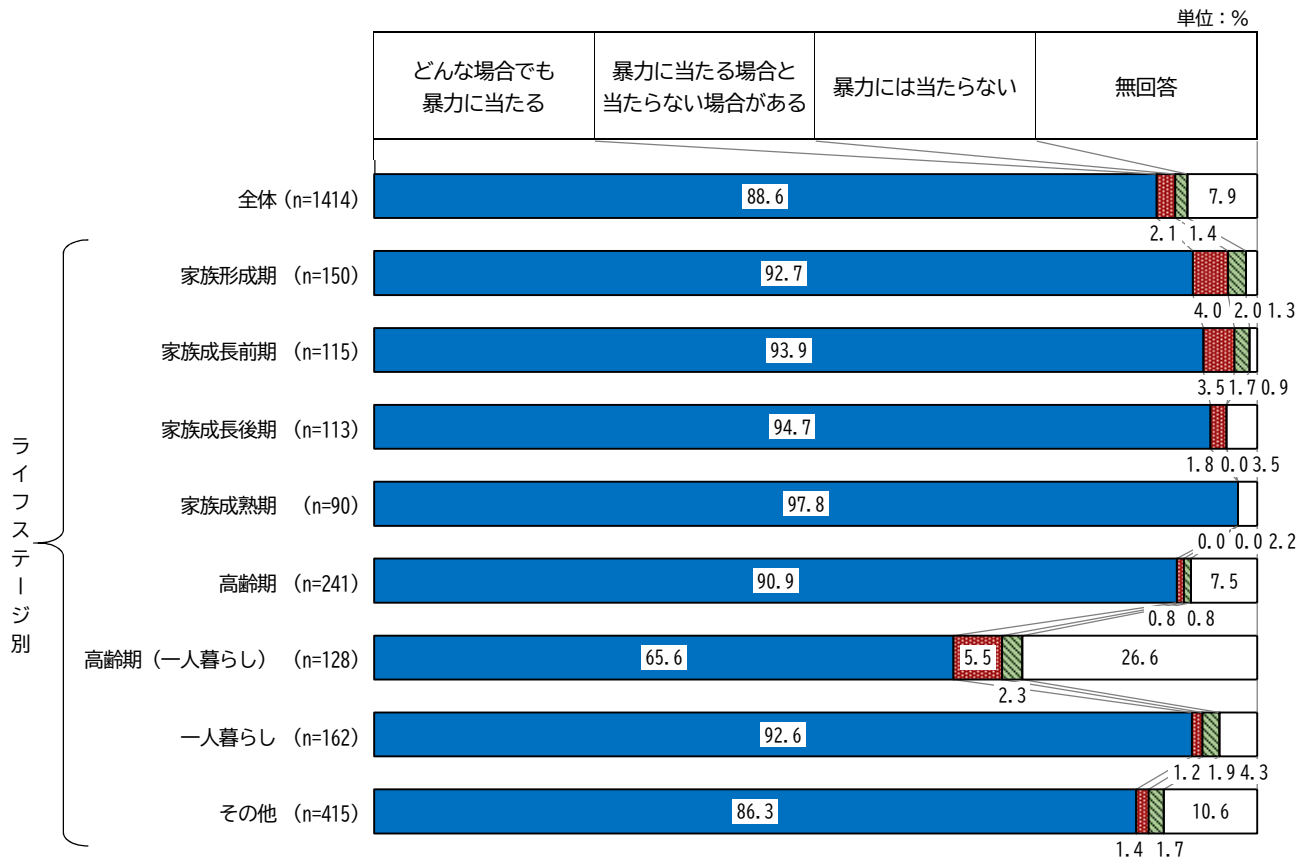
【刃物などを突きつけて、おどす】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は18～69歳で9割台と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」はすべての年代で1割未満となっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【刃物などを突きつけて、おどす】 性別／年代別



【刃物などを突きつけて、おどす】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は高齢期（一人暮らし）（65.6%）とその他（86.3%）を除くすべてのライフステージで9割台となっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」はすべてのライフステージで1割未満となっている。

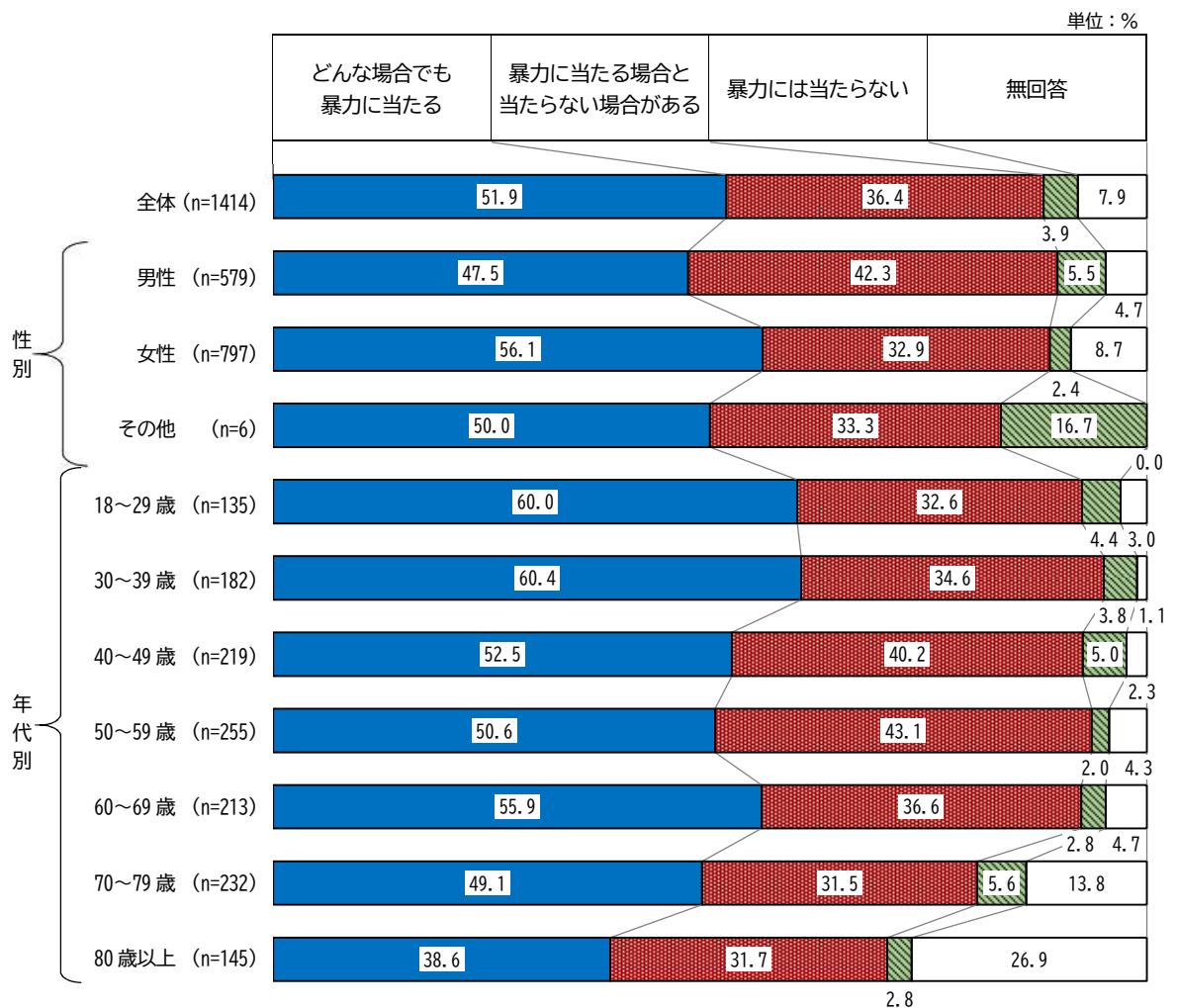
配偶者や交際相手等の間の行為【刃物などを突きつけて、おどす】 ライフステージ別



【大声でどなる】を性別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は女性（56.1%）が男性（47.5%）より 8.6 ポイント高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は男性（42.3%）が女性（32.9%）より 9.4 ポイント高くなっている。

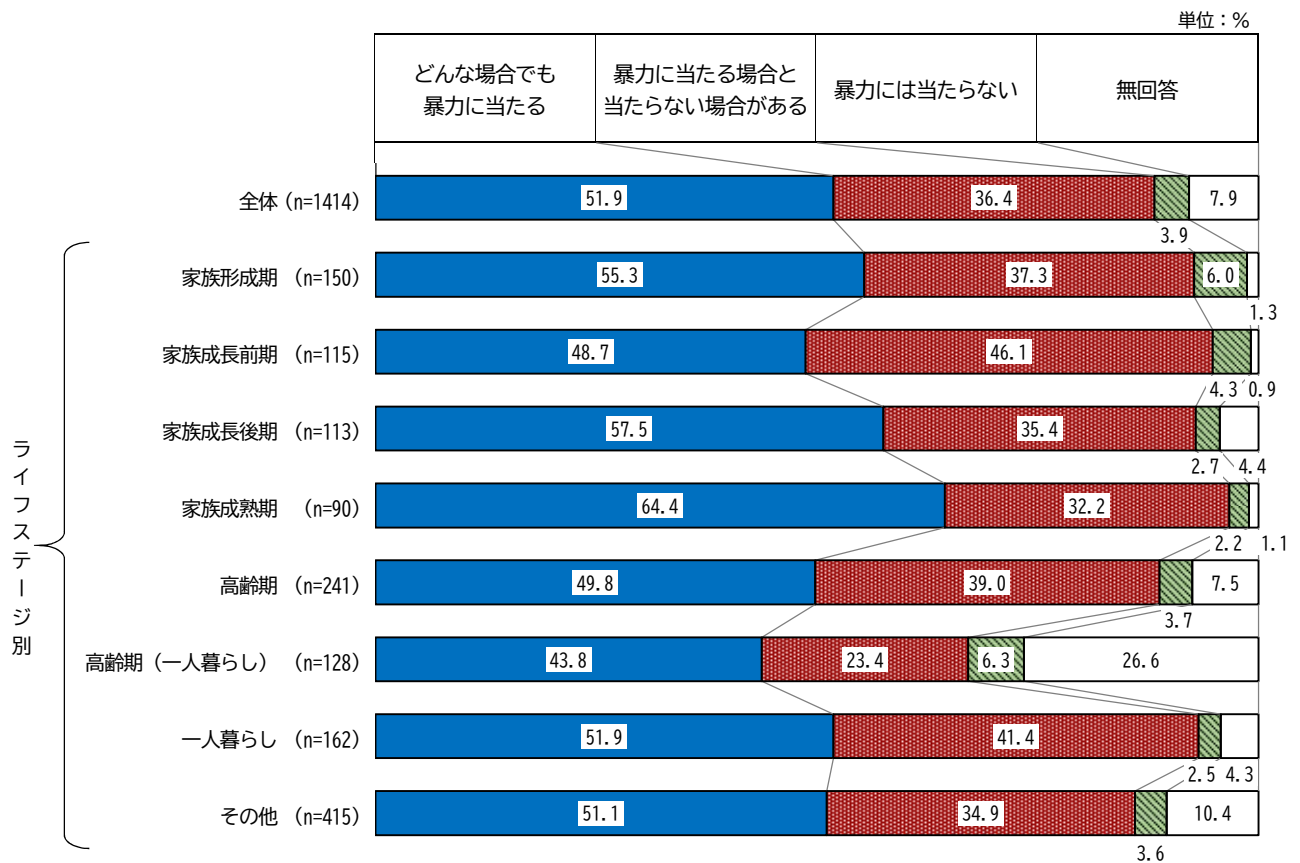
【大声でどなる】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は 18～29 歳（60.0%）と 30～39 歳（60.4%）が 6 割と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は 50～59 歳（43.1%）が 4 割半ば近く、40～49 歳（40.2%）が 4 割となっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【大声でどなる】 性別／年代別



【大声でどなる】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（64.4%）が6割半ば近くと最も高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は家族成長前期（46.1%）が4割半ばを超えて最も高くなっている。

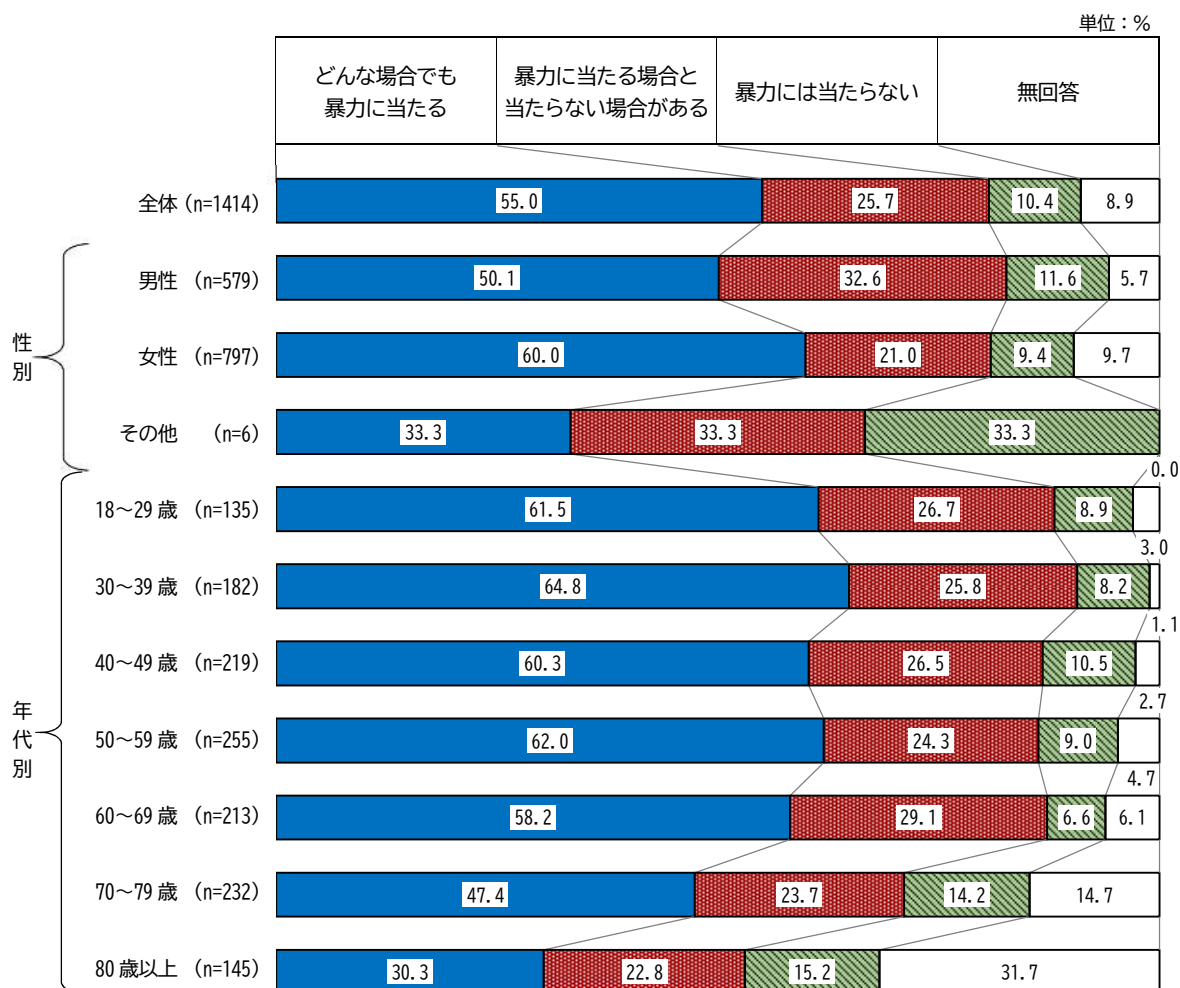
配偶者や交際相手等の間の行為【大声でどなる】 ライフステージ別



【他の異性との会話を許さない】を性別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は女性（60.0%）が男性（50.1%）より 9.9 ポイント高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は男性（32.6%）が女性（21.0%）より 11.6 ポイント高くなっている。

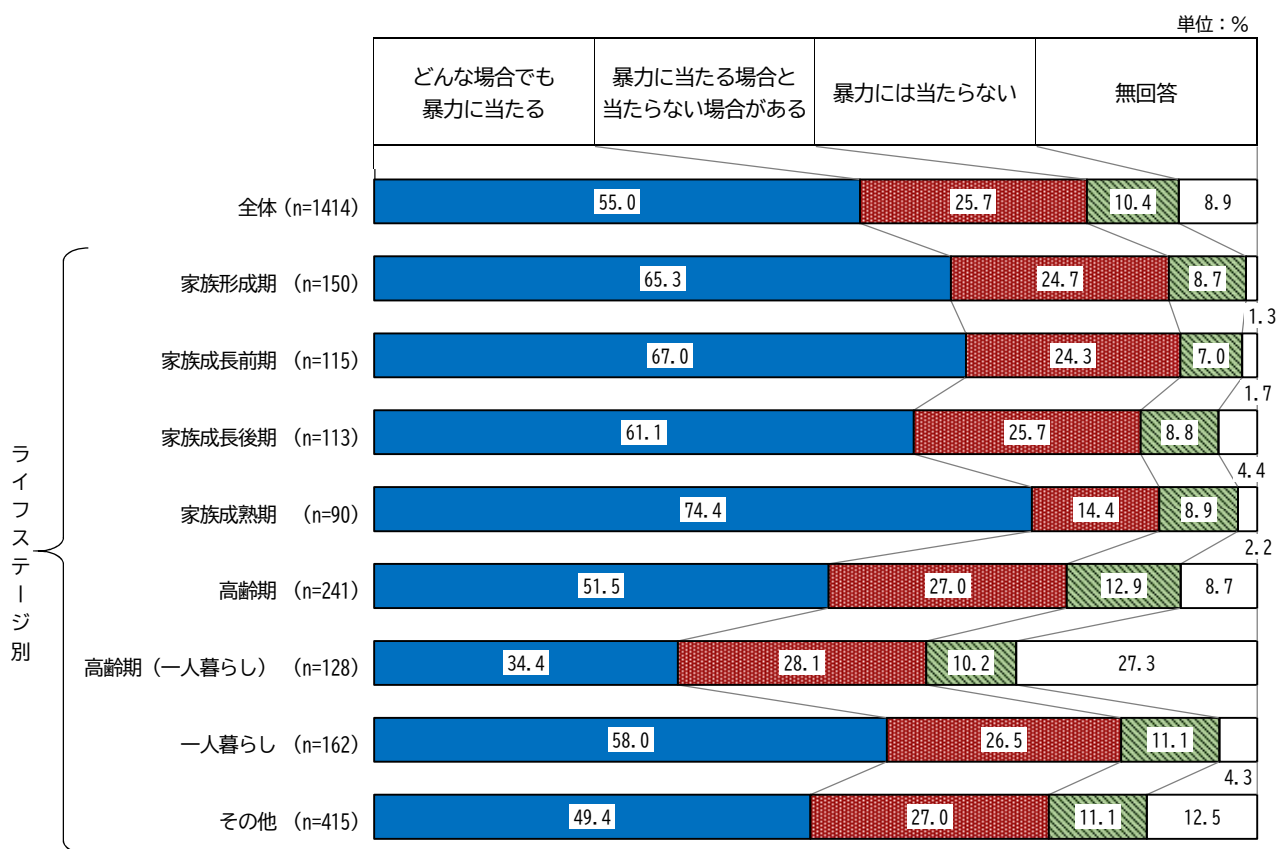
【他の異性との会話を許さない】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は 18～59 歳が 6 割台と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は 60～69 歳が 3 割弱と最も高くなっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【他の異性との会話を許さない】 性別／年代別



【他の異性との会話を許さない】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（74.4%）が7割半ば近くで最も高く、次いで家族成長前期（67.0%）が6割半ばを超え、家族形成期（65.3%）が6割半ばと高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は高齢期（一人暮らし）（28.1%）が3割近くで最も高くなっている。

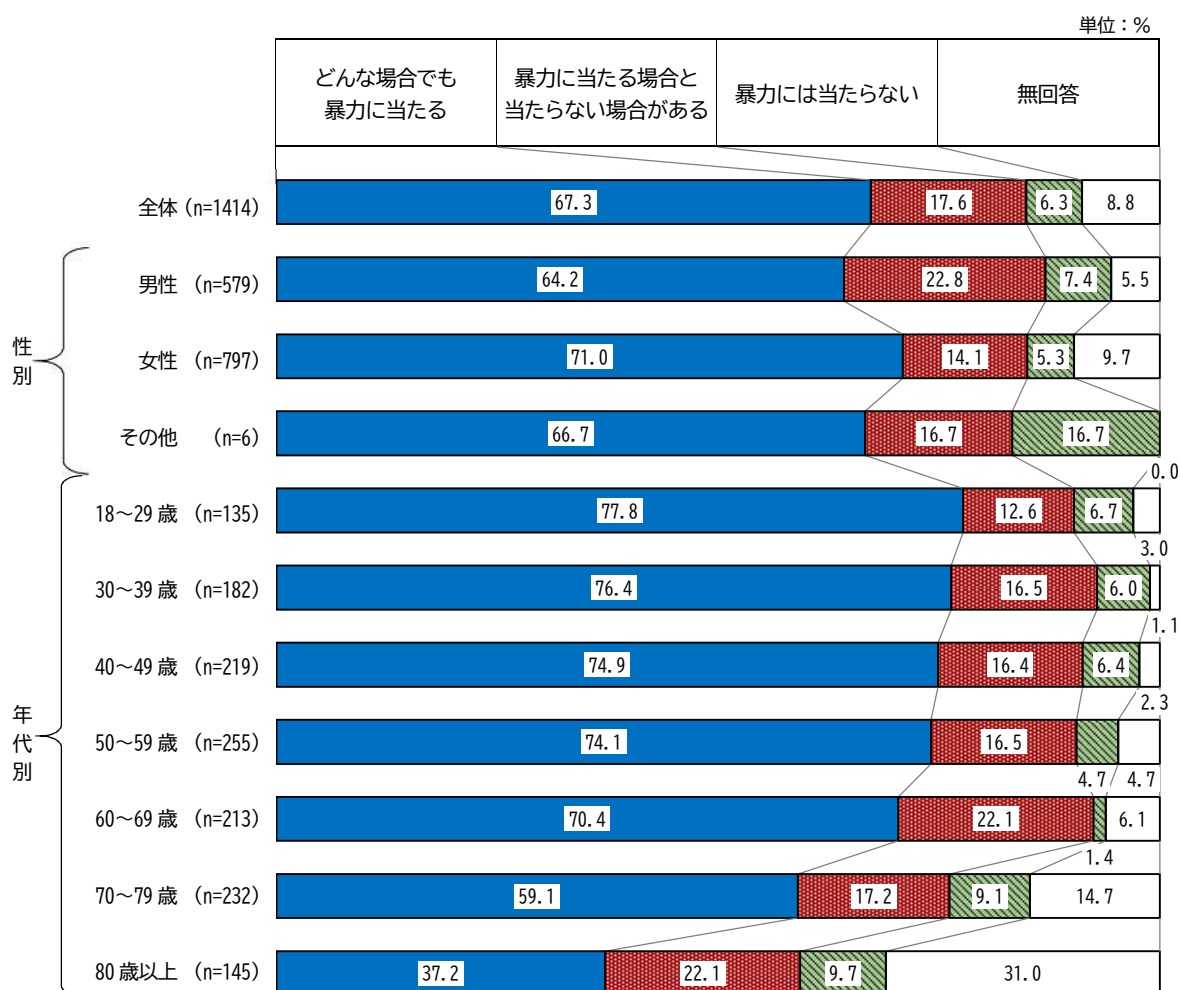
配偶者や交際相手等の間の行為【他の異性との会話を許さない】 ライフステージ別



【家族や友人との関りを持たせない】を性別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は女性（71.0%）が男性（64.2%）より 6.8 ポイント高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は男性（22.8%）が女性（14.1%）より 8.7 ポイント高くなっている。

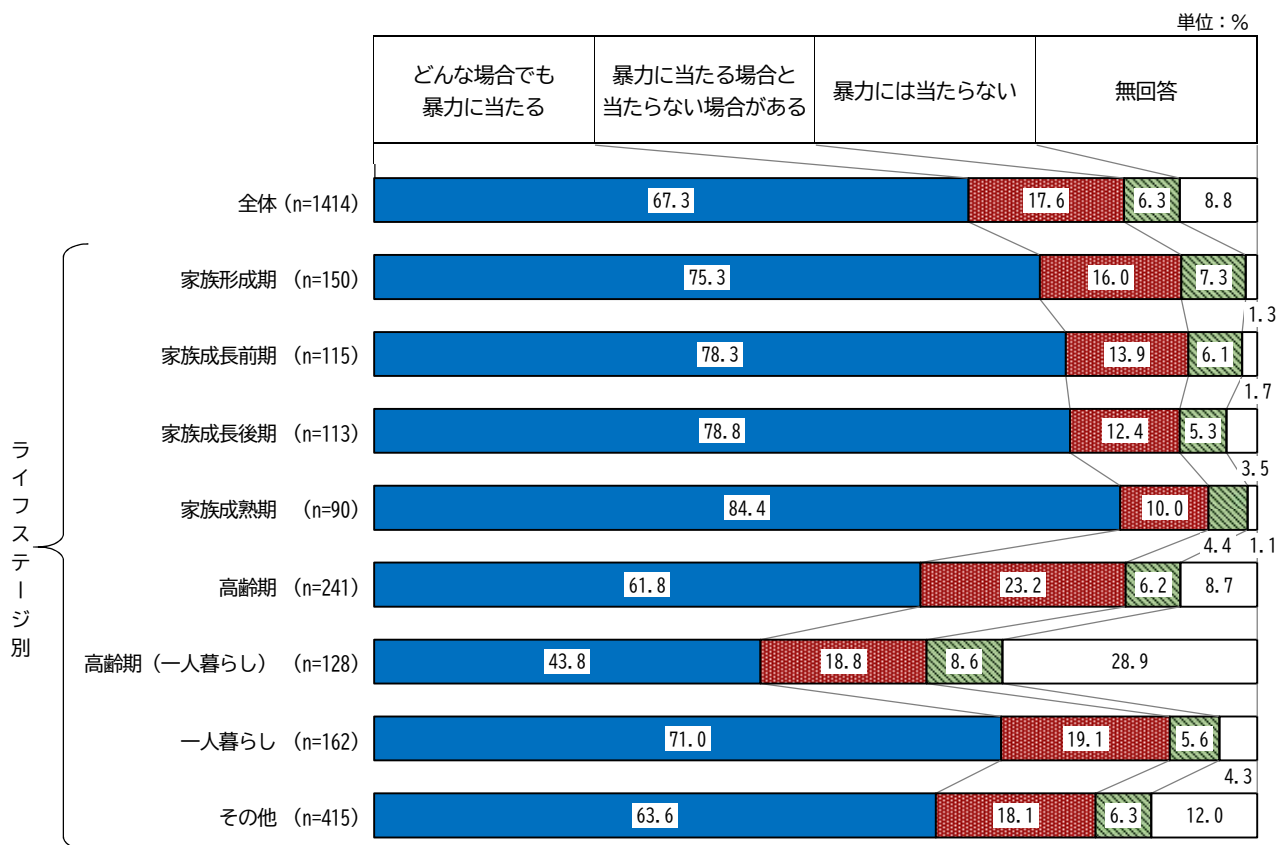
【家族や友人との関りを持たせない】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は 18～29 歳（77.8%）と 30～39 歳（76.4%）が 7 割半ばを超え、40～49 歳（74.9%）と 50～59 歳（74.1%）が 7 割半ば近くと高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は 60～69 歳（22.1%）と 80 歳以上（22.1%）が 2 割強となっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【家族や友人との関りを持たせない】 性別／年代別



【家族や友人との関りを持たせない】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（84.4%）が8割半ば近く、家族成長前期（78.3%）と家族成長後期（78.8%）が8割近くと高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は高齢期（23.2%）が2割半ば近くで最も高くなっている。

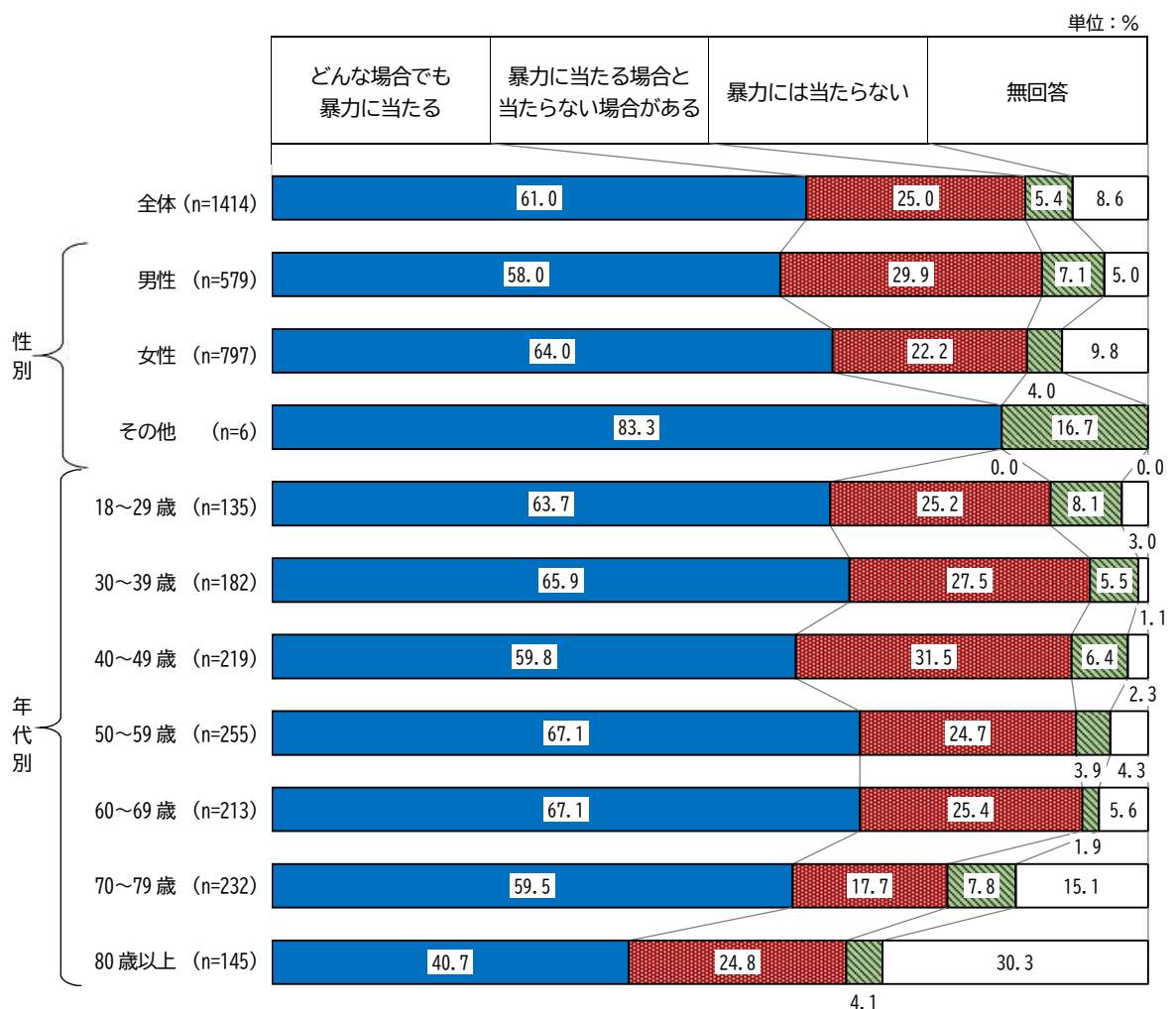
配偶者や交際相手等の間の行為【家族や友人との関りを持たせない】 ライフステージ別



【交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】を性別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は女性（64.0%）が男性（58.0%）より6.0ポイント高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は男性（29.9%）が女性（22.2%）より7.7ポイント高くなっている。

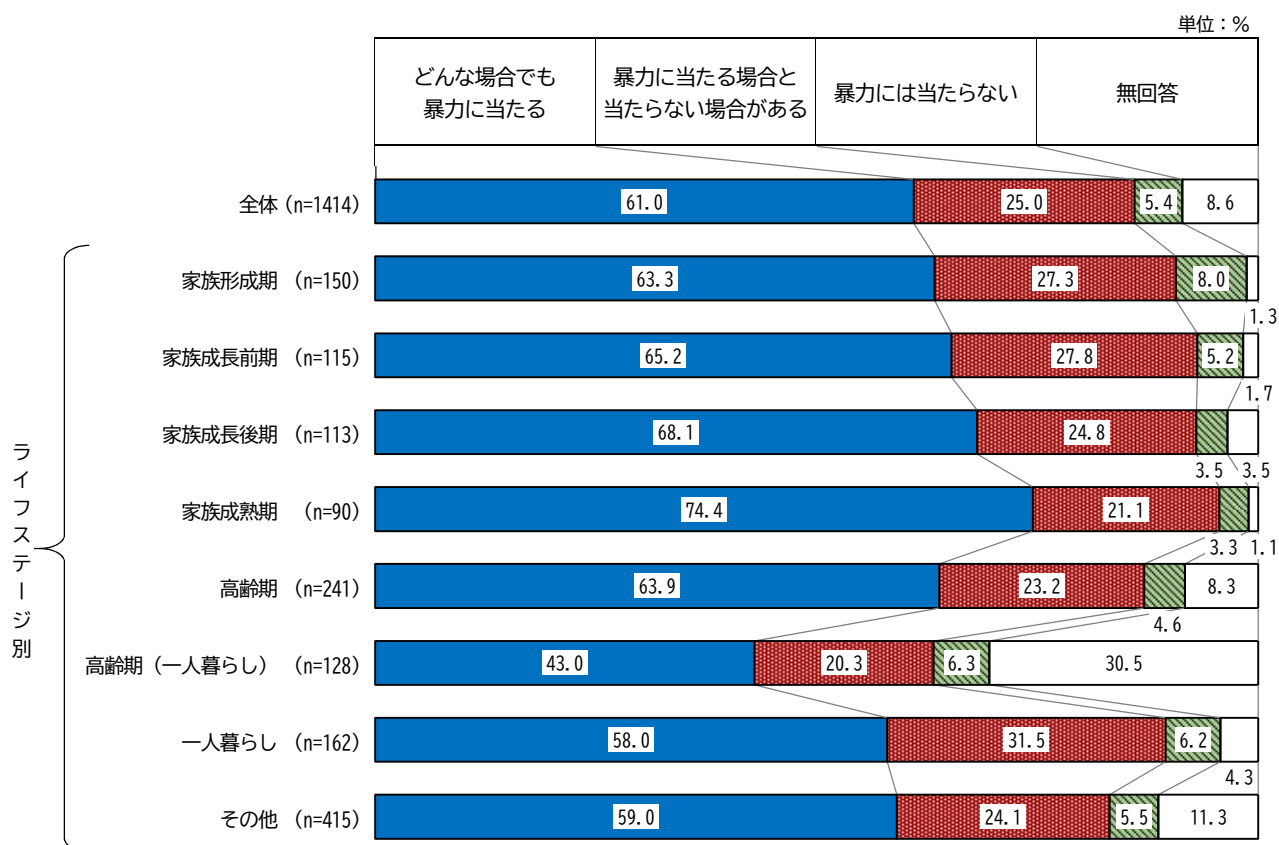
【交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は50～59歳（67.1%）と60～69歳（67.1%）が6割半ばを超え、30～39歳（65.9%）が6割半ば、18～29歳（63.7%）が6割半ば近くと高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は40～49歳（31.5%）が3割強で最も高く、次いで30～39歳（27.5%）が2割半ばを超えている。

配偶者や交際相手等の間の行為【交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】
性別／年代別



【交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（74.4%）が7割半ば近くで最も高く、次いで家族成長後期（68.1%）が7割近くとなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は一人暮らし（31.5%）が3割強で最も高くなっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】
ライフステージ別

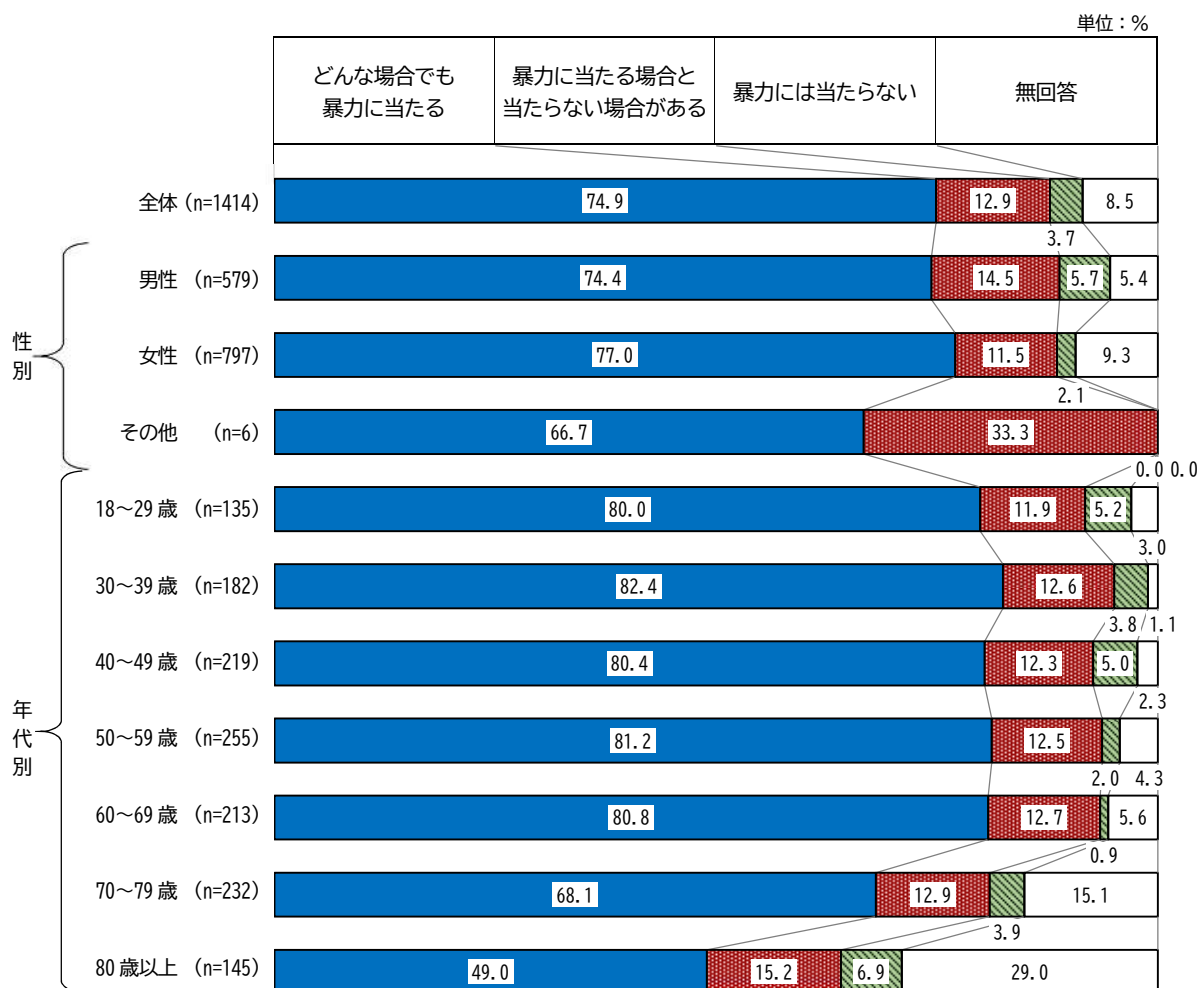


【職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する】を性別でみると、男女による大きな差はみられない。

【職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は18～69歳が8割台と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は80歳以上が1割半ばと最も高くなっている。

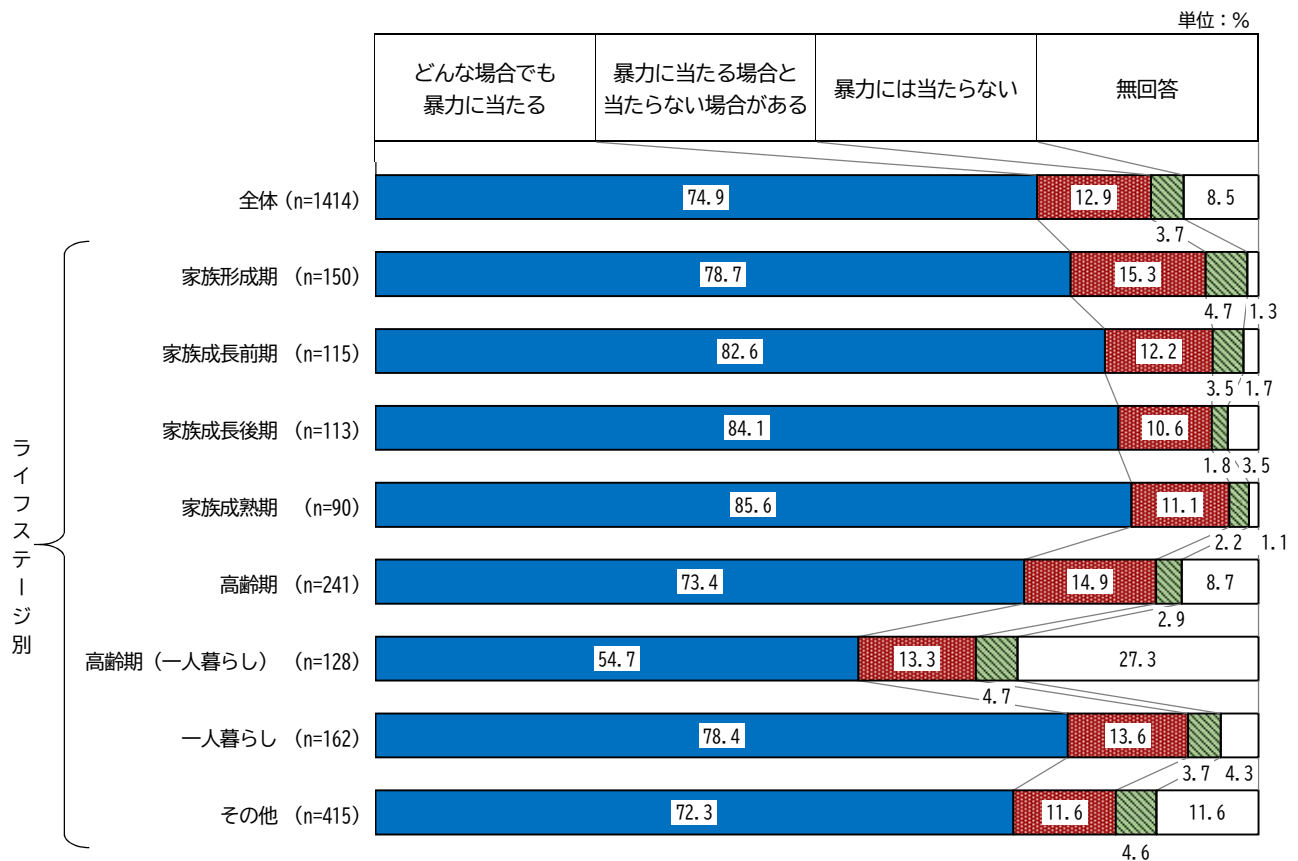
配偶者や交際相手等の間の行為【職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する】

性別／年代別



【職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（85.6%）が8割半ば、家族成長後期（84.1%）が8割半ば近く、家族成長前期（82.6%）が8割強と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は家族形成期（15.3%）が1割半ば、高齢期（14.9%）が1割半ば近くとなっている。

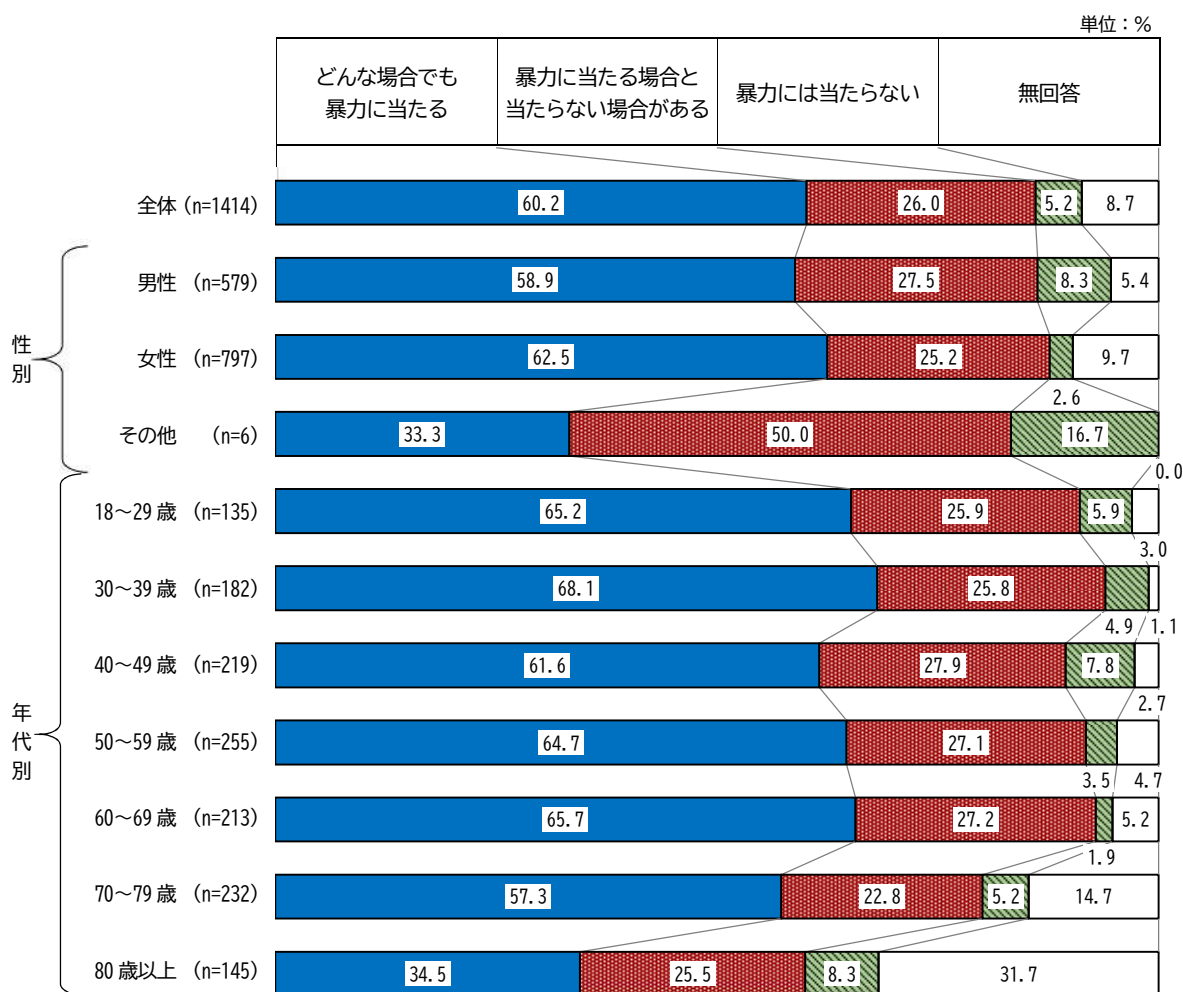
配偶者や交際相手等の間の行為【職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する】
ライフステージ別



【何を言っても長時間無視し続ける】を性別でみると、「暴力には当たらない」は男性（8.3%）が女性（2.6%）より5.7ポイント高くなっている。

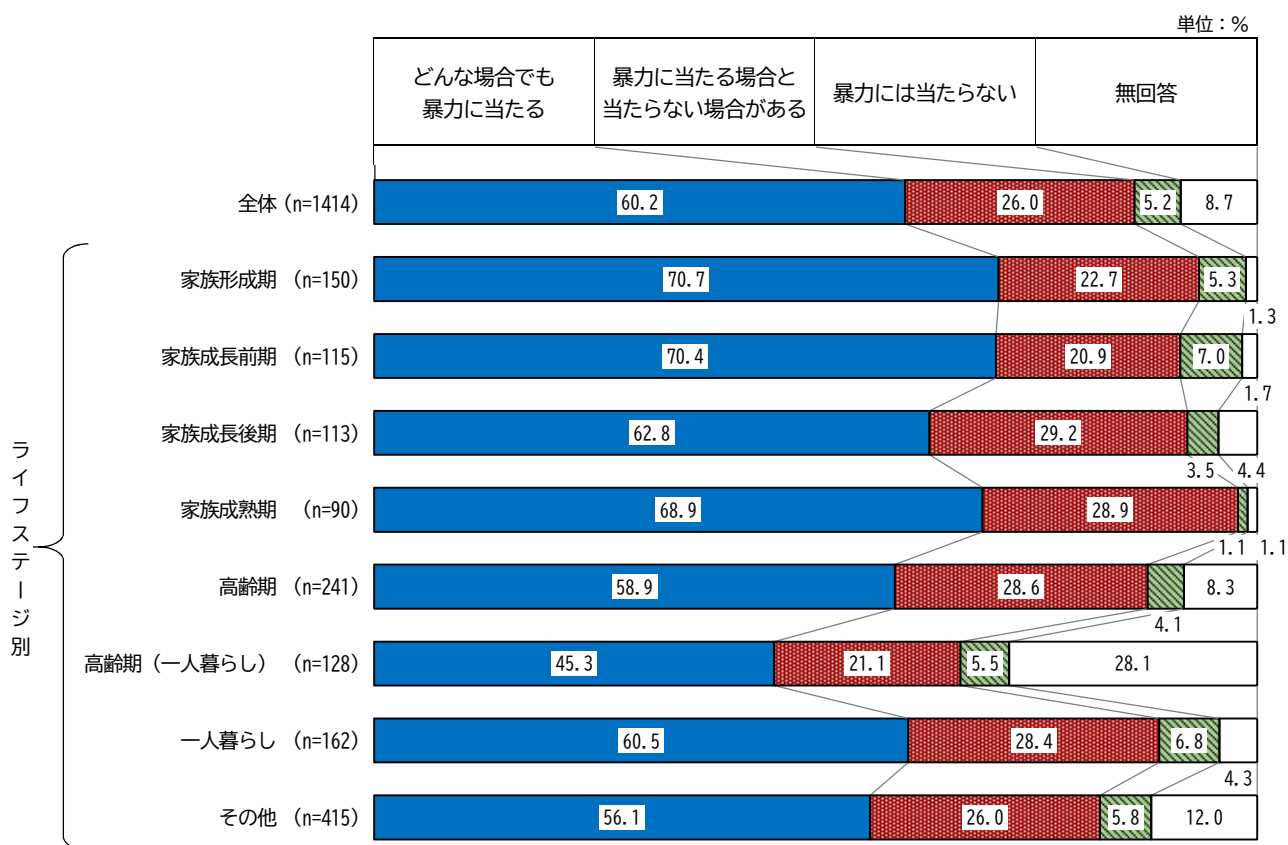
【何を言っても長時間無視し続ける】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は30～39歳が7割近くで最も高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」はすべての年代で2割台となっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【何を言っても長時間無視し続ける】 性別／年代別



【何を言っても長時間無視し続ける】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族形成期（70.7%）と家族成長前期（70.4%）が7割、家族成熟期（68.9%）が7割近くと高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は家族成長後期（29.2%）が3割弱、家族成熟期（28.9%）、高齢期（28.6%）、一人暮らし（28.4%）が3割近くと高くなっている。

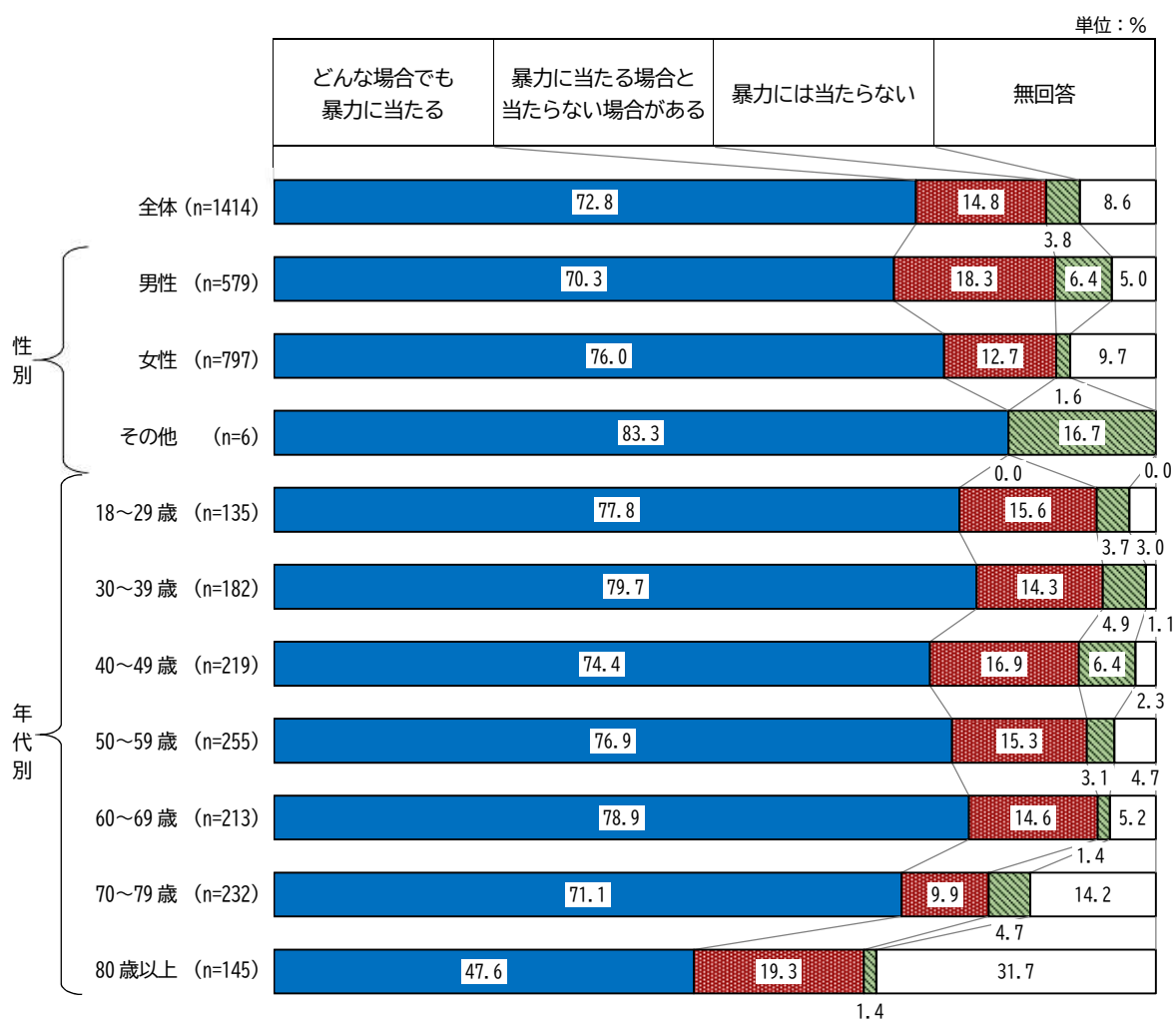
配偶者や交際相手等の間の行為【何を言っても長時間無視し続ける】 ライフステージ別



【「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う】を性別で見ると、「どんな場合でも暴力に当たる」は女性（76.0%）が男性（70.3%）より 5.7 ポイント高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は男性（18.3%）が女性（12.7%）より 5.6 ポイント高く、「暴力には当たらない」も男性（6.4%）が女性（1.6%）より 4.8 ポイント高くなっている。

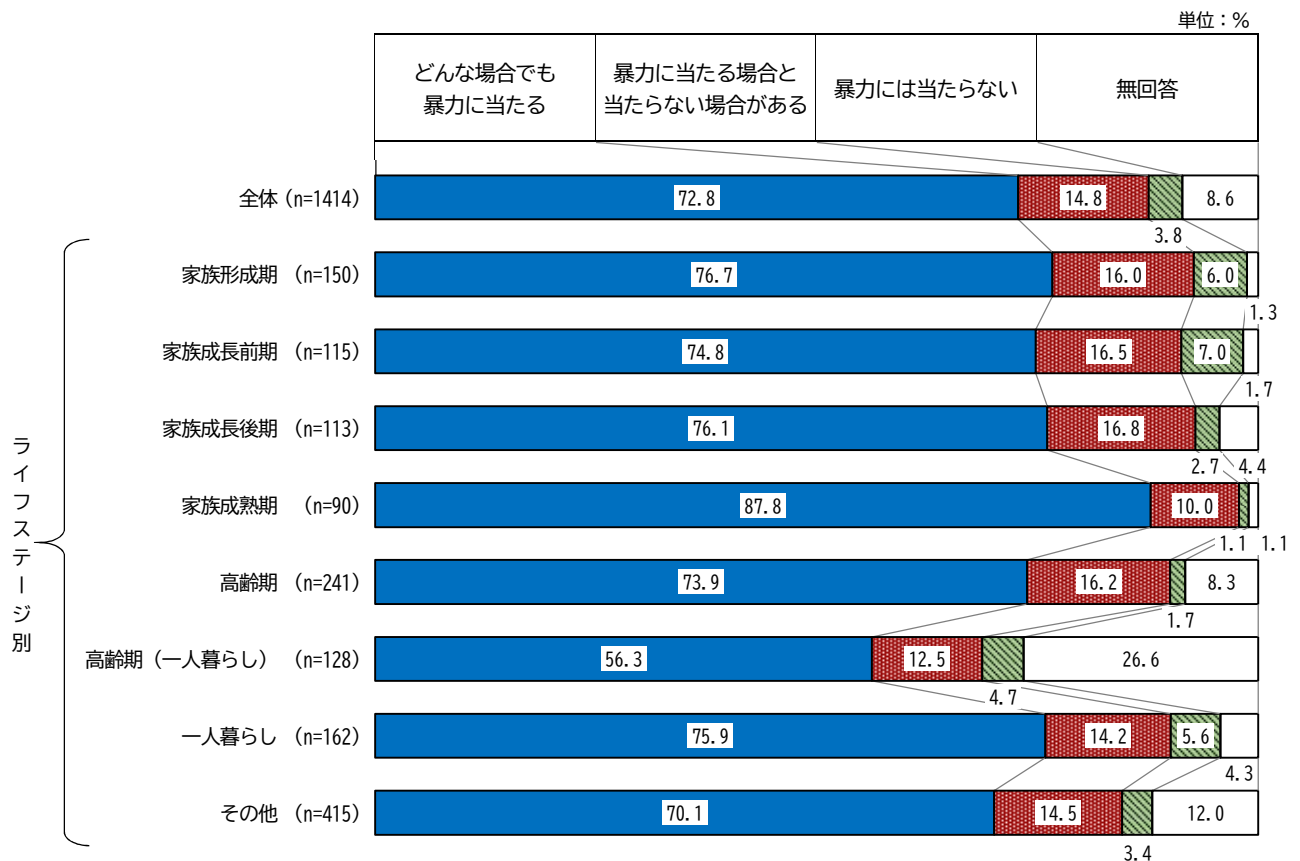
【「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う】を年代別で見ると、「どんな場合でも暴力に当たる」は 18～79 歳で 7 割台となっており、特に 30～39 歳（79.7%）が 8 割弱と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は 80 歳以上（19.3%）が 2 割弱と最も高くなっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う】
性別／年代別



【「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（87.8%）が8割半ばを超えて最も高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は家族形成期（16.0%）、家族成長前期（16.5%）、家族成長後期（16.8%）、高齢期（16.2%）が1割半ばを超えている。

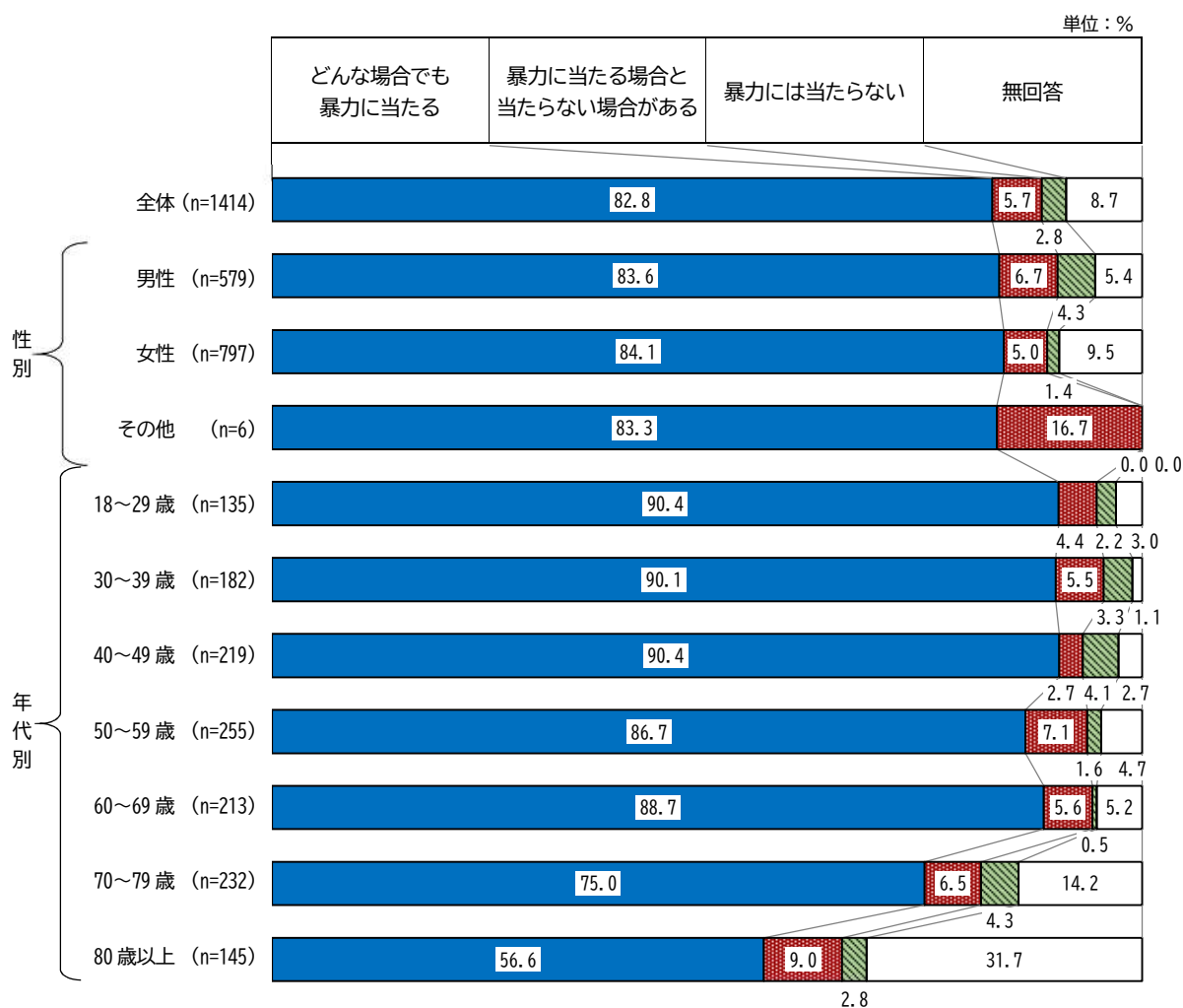
配偶者や交際相手等の間の行為【「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う】
ライフステージ別



【相手や家族を傷つけるなどと告げておどす】を性別でみると、男女による差はみられない。

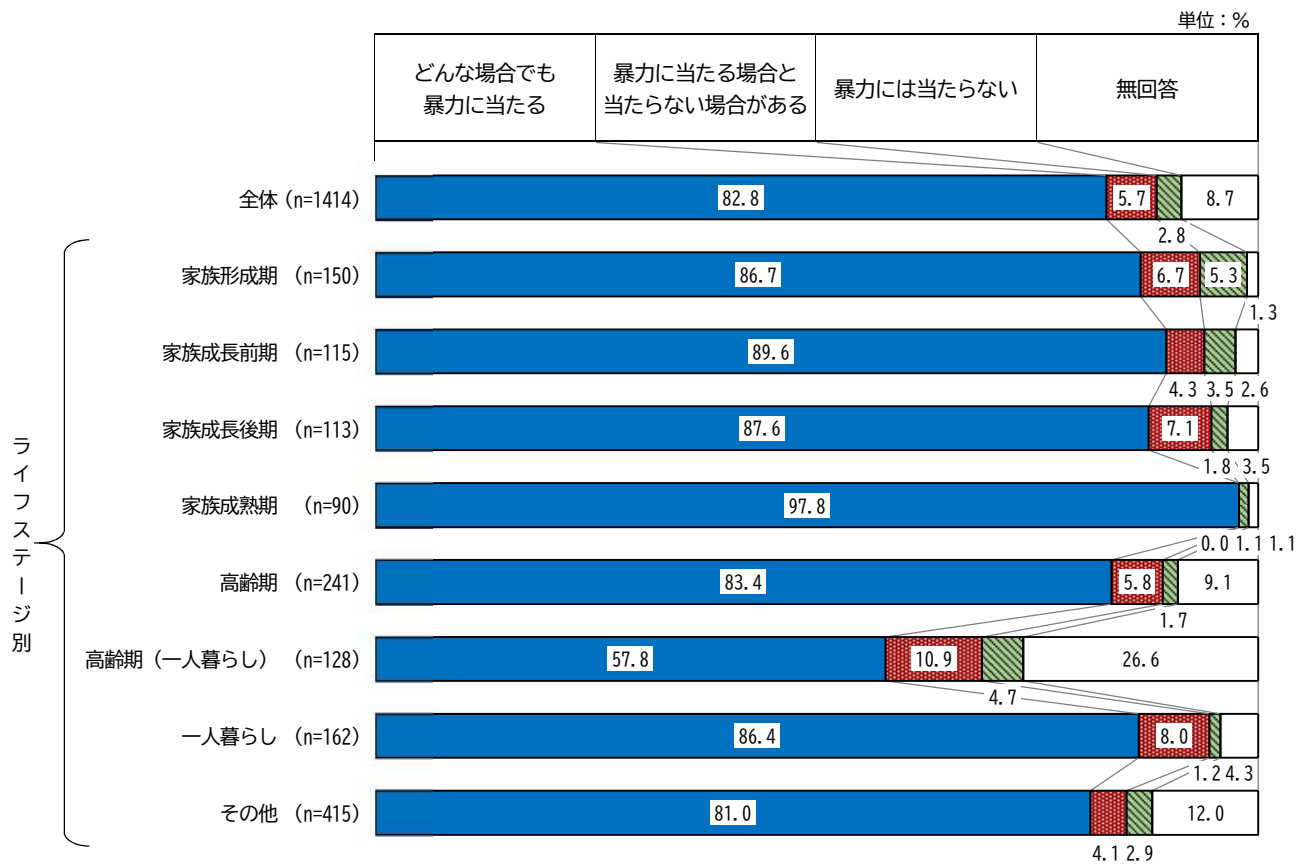
【相手や家族を傷つけるなどと告げておどす】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は18～29歳（90.4%）、30～39歳（90.1%）、40～49歳（90.4%）が9割と高くなっている。
「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」はすべての年代で1割未満となっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【相手や家族を傷つけるなどと告げておどす】
性別／年代別



【相手や家族を傷つけるなどと告げておどす】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（97.8%）が9割半ばを超えて最も高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は高齢期（一人暮らし）（10.9%）が1割となっている。

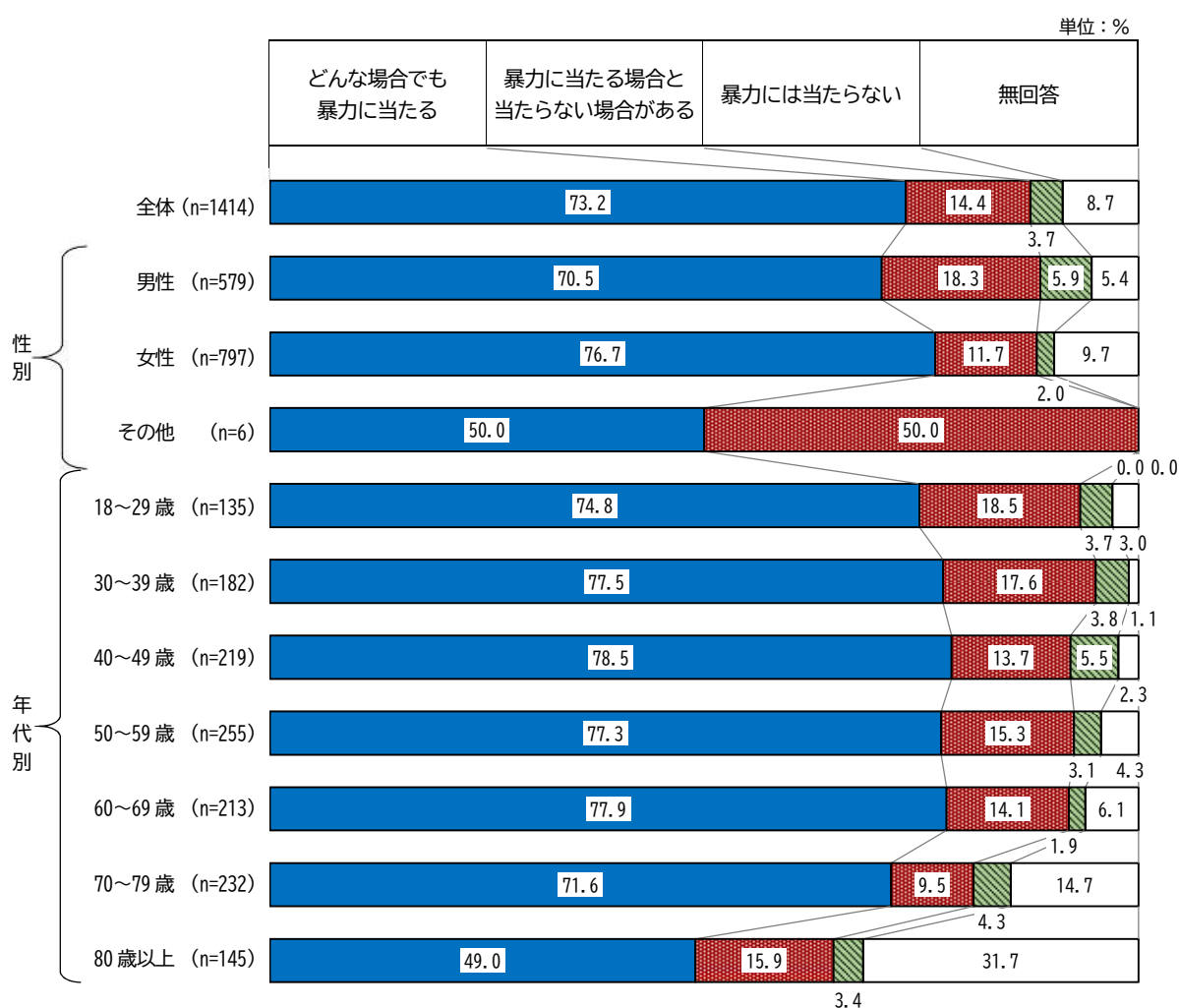
配偶者や交際相手等の間の行為【相手や家族を傷つけるなどと告げておどす】
ライフステージ別



【家計に必要な生活費を渡さない】を性別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は女性（76.7%）が男性（70.5%）より6.2ポイント高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は男性（18.3%）が女性（11.7%）より6.6ポイント高くなっている。

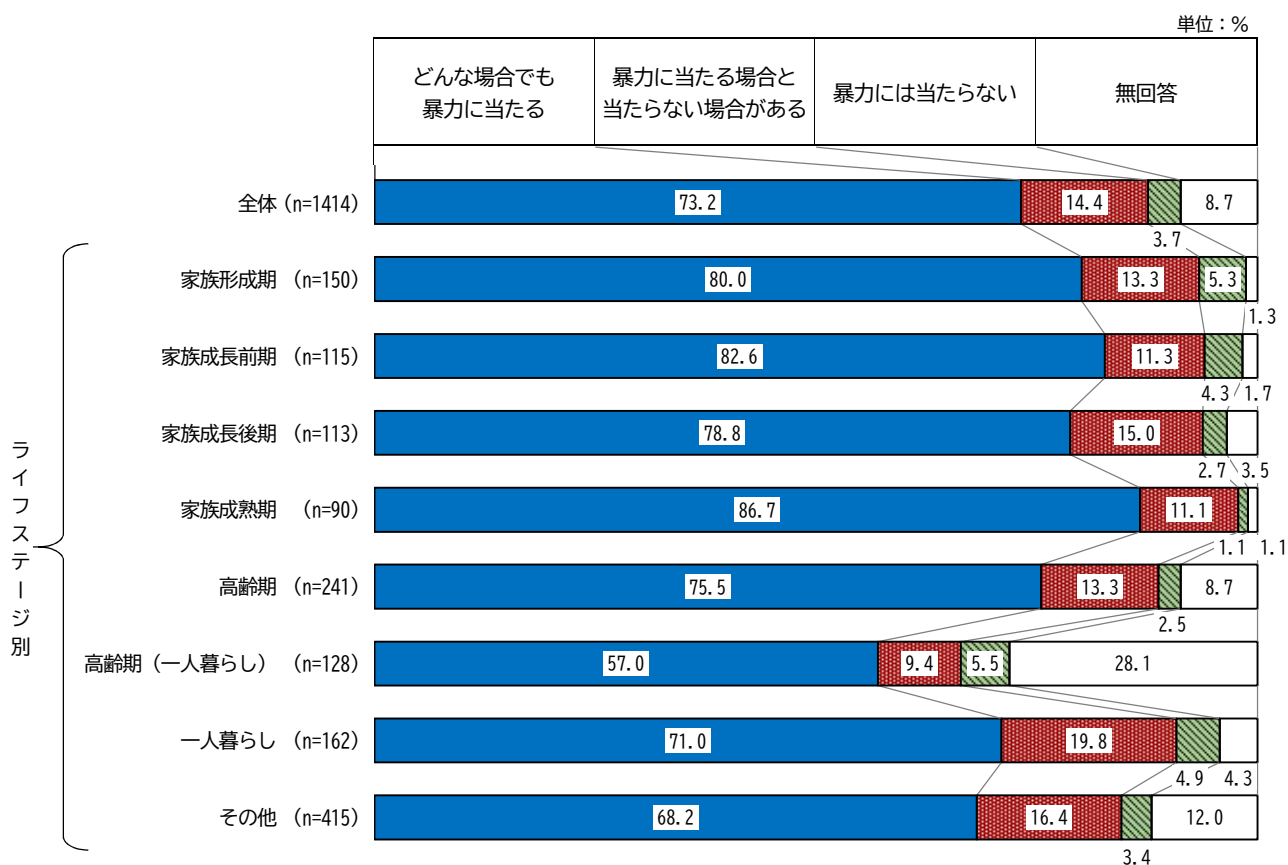
【家計に必要な生活費を渡さない】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は40～49歳（78.5%）が8割近く、30～39歳（77.5%）、50～59歳（77.3%）、60～69歳（77.9%）が7割半ばを超えている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は18～29歳（18.5%）が2割近く、30～39歳（17.6%）が1割半ばを超えている。

配偶者や交際相手等の間の行為【家計に必要な生活費を渡さない】 性別／年代別



【家計に必要な生活費を渡さない】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（86.7%）が8割半ばを超えて最も高く、家族形成期（80.0%）と家族成長前期（82.6%）も8割台と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は一人暮らし（19.8%）が2割弱で最も高くなっている。

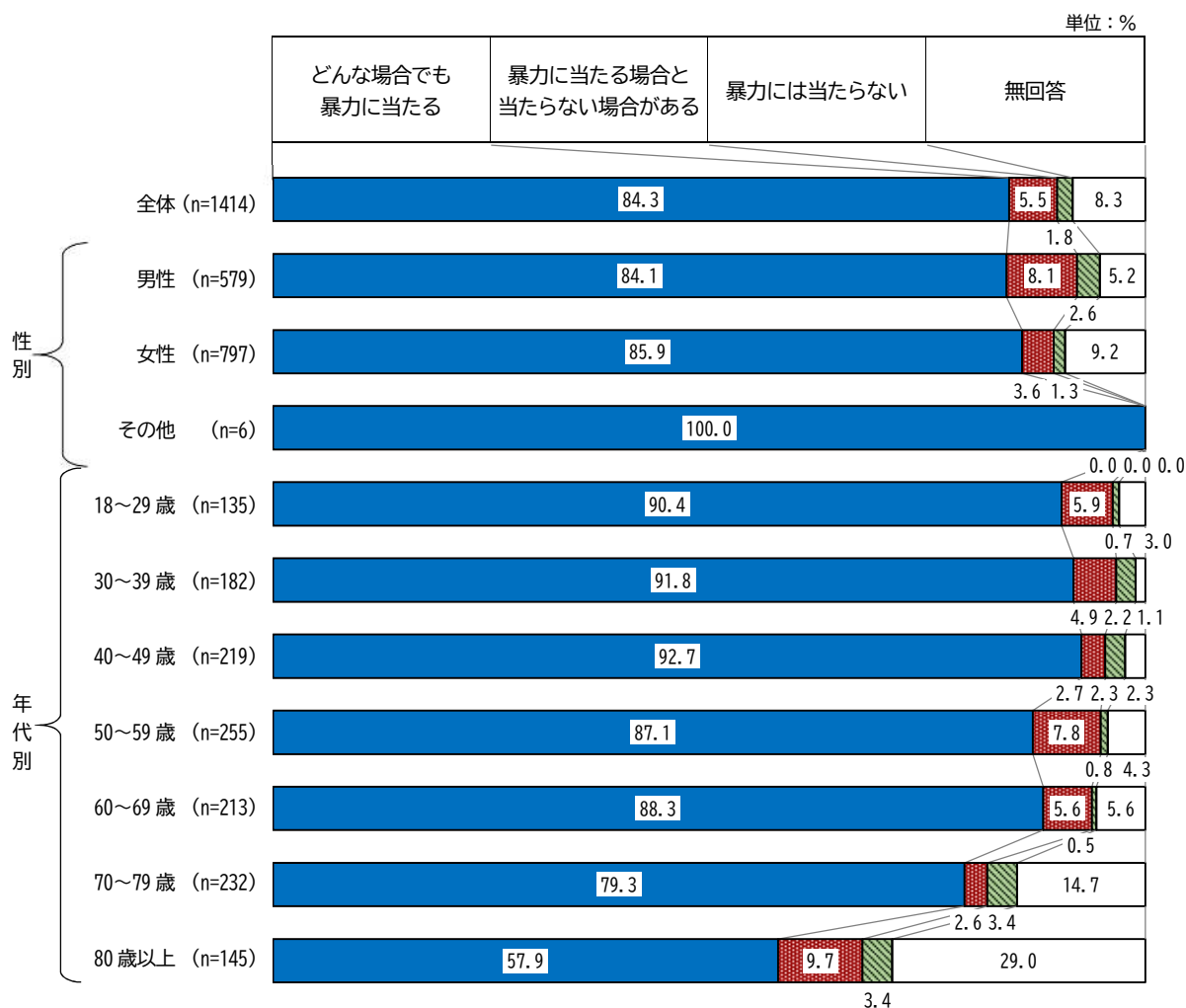
配偶者や交際相手等の間の行為【家計に必要な生活費を渡さない】 ライフステージ別



【嫌がっているのに性的な行為を強要する】を性別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は男女に差はみられないが、「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は男性（8.1%）が女性（3.6%）より 4.5 ポイント高くなっている。

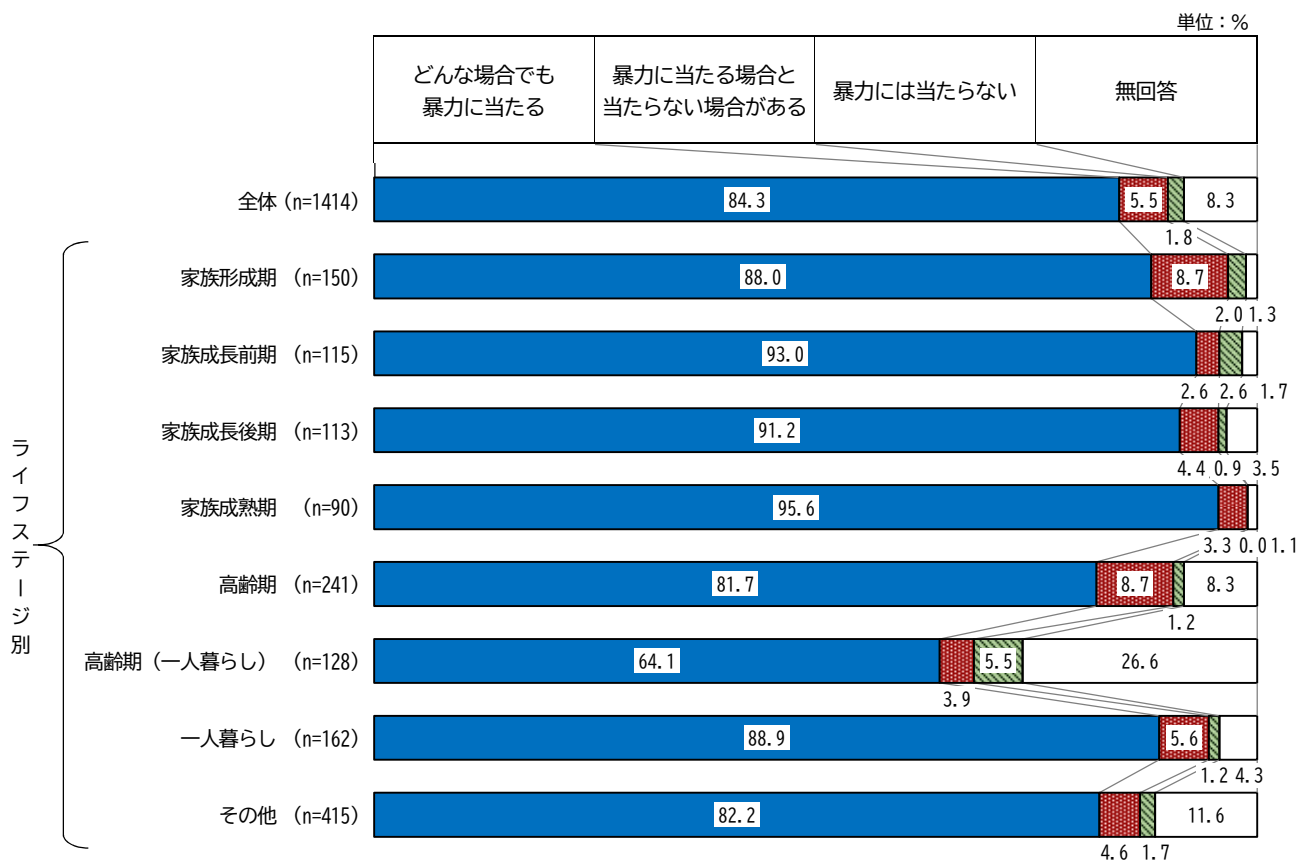
【嫌がっているのに性的な行為を強要する】を年代別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は 18～49 歳で 9 割台と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は 80 歳以上が 1 割弱となっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【嫌がっているのに性的な行為を強要する】 性別／年代別



【嫌がっているのに性的な行為を強要する】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（95.6%）が9割半ばと最も高く、家族成長前期（93.0%）と家族成長後期（91.2%）も9割台と高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」はすべてのライフステージで1割未満となっている。

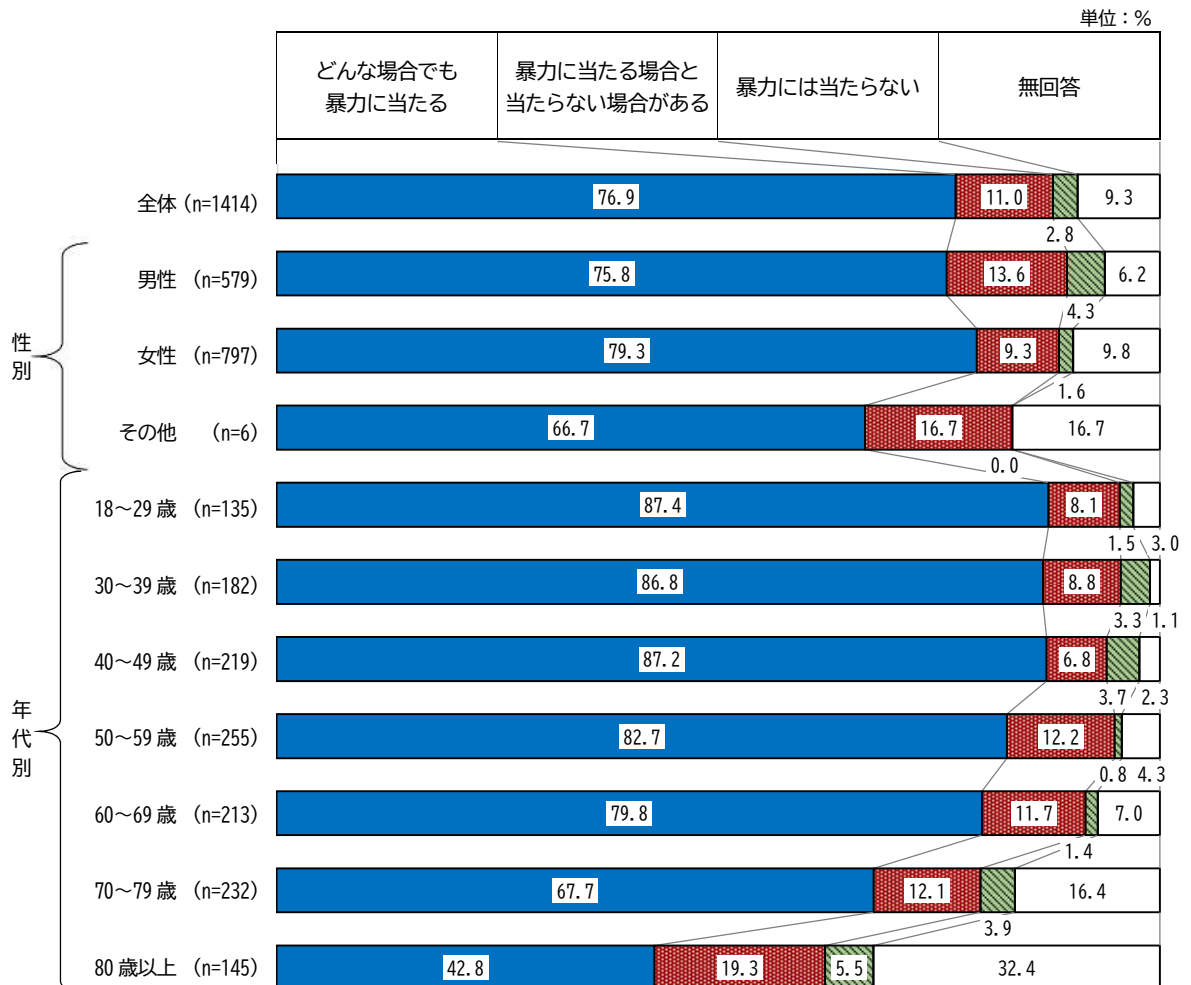
配偶者や交際相手等の間の行為【嫌がっているのに性的な行為を強要する】 ライフステージ別



【避妊に協力しない】を性別で見ると、「どんな場合でも暴力に当たる」は女性（79.3%）が男性（75.8%）より 3.5 ポイント高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は男性（13.6%）が女性（9.3%）より 4.3 ポイント高くなっている。

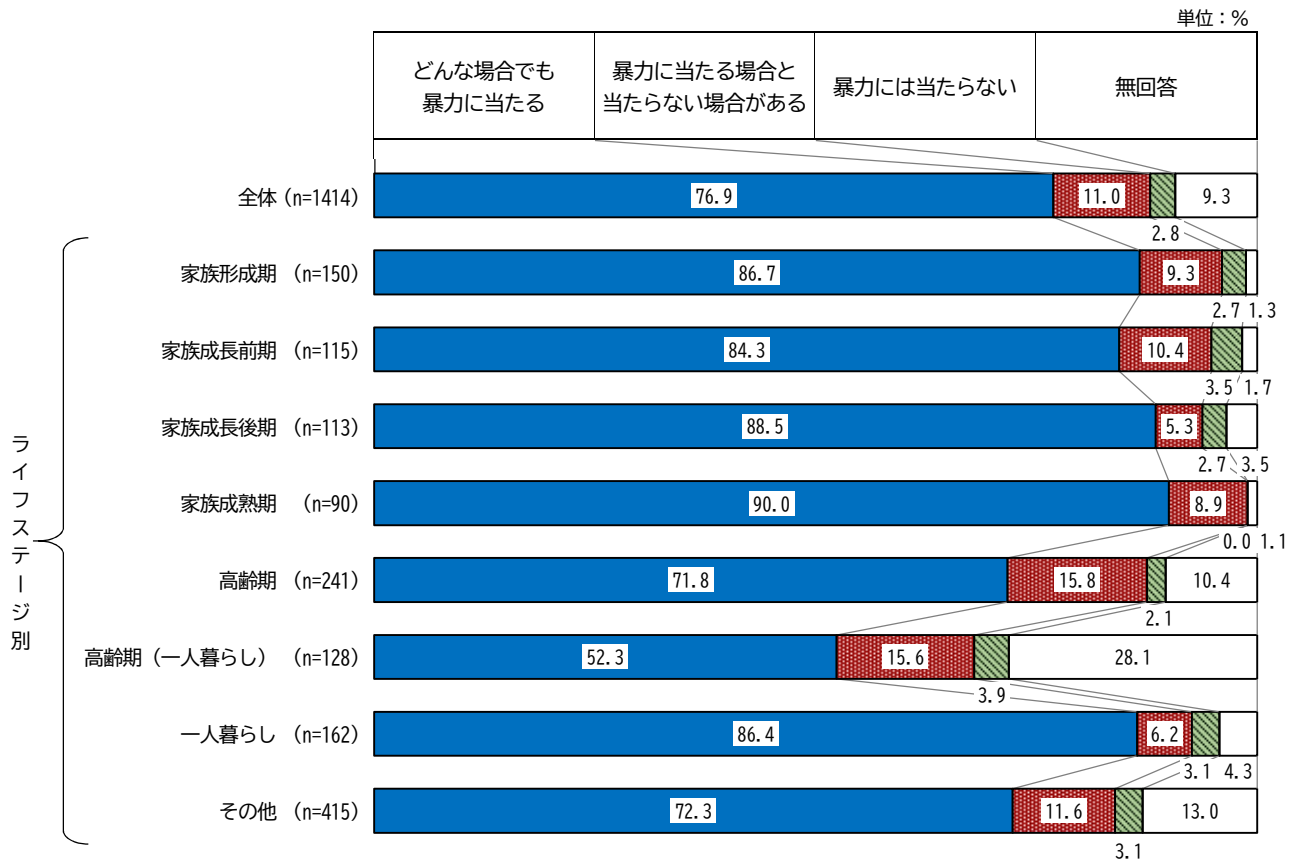
【避妊に協力しない】を年代別で見ると、「どんな場合でも暴力に当たる」は 18～49 歳が 8 割半ばを超えて高くなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は 80 歳以上が 2 割弱、50～79 歳が 1 割強、18～49 歳が 1 割未満となっている。

配偶者や交際相手等の間の行為【避妊に協力しない】 性別／年代別



【避妊に協力しない】をライフステージ別でみると、「どんな場合でも暴力に当たる」は家族成熟期（90.0%）が9割で最も高く、次いで家族成長後期（88.5%）が9割近くとなっている。「暴力に当たる場合と当たらない場合がある」は高齢期（15.8%）と高齢期（一人暮らし）（15.6%）が1割半ばとなっている。

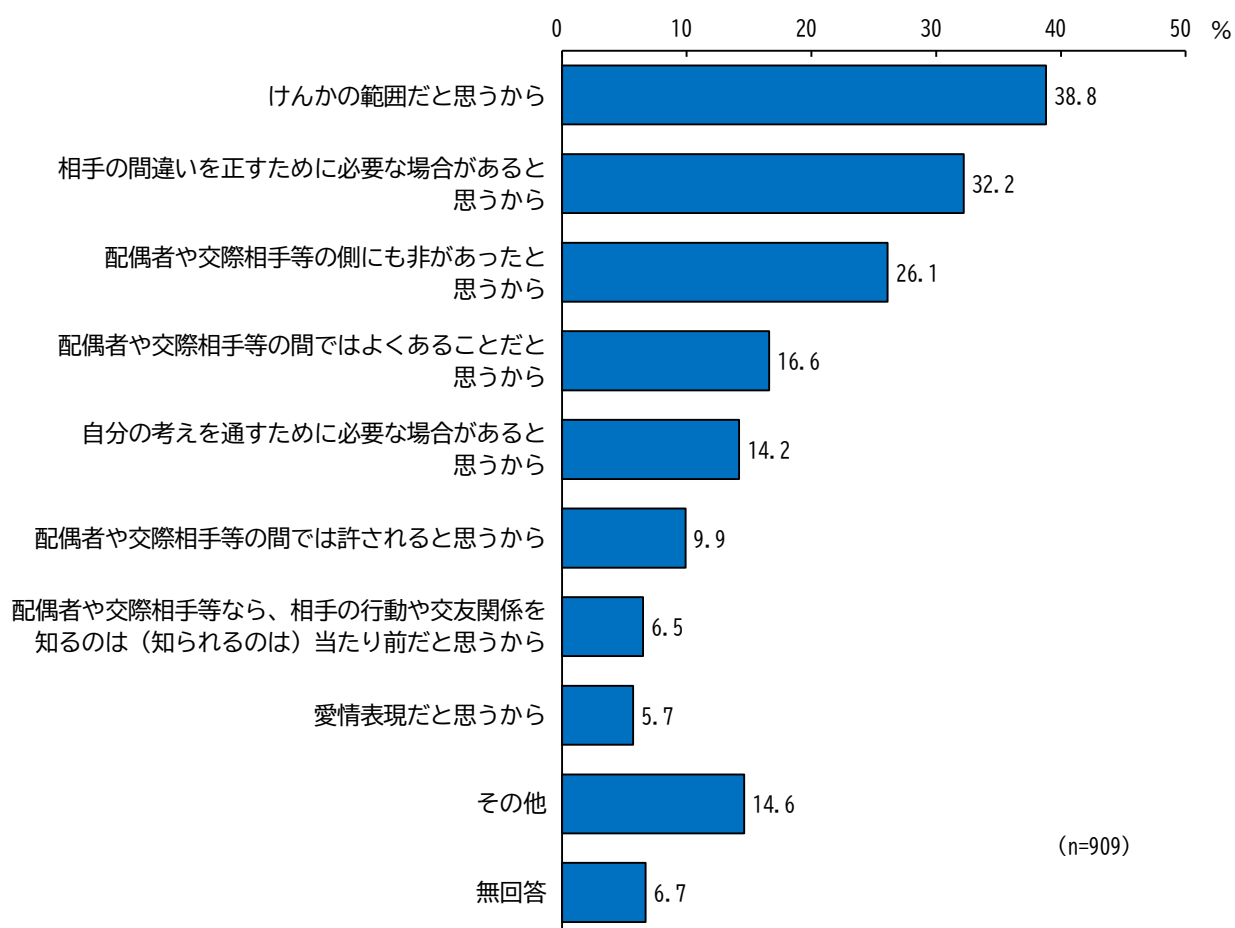
配偶者や交際相手等の間の行為【避妊に協力しない】 ライフステージ別



(4-1) 暴力に当たらないと考える理由

◇「けんかの範囲だと思うから」が4割近く

問 20-1 (問 20 の①～⑰のうち、1つでも「2」、「3」とお答えの方に伺います)
その理由をお答えください。(〇はいくつでも)



暴力に当たらないと考える理由について聞いたところ、「けんかの範囲だと思うから」(38.8%)が4割近くで最も高く、以下、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」(32.2%)、「配偶者や交際相手等の側にも非があったと思うから」(26.1%)が続いている。

性別でみると、男性は「けんかの範囲だと思うから」（34.8％）と「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」（34.1％）が3割半ば近くと高くなっている。女性は「けんかの範囲だと思うから」（42.5％）が4割強と最も高くなっている。「自分の考えを通すために必要な場合があると思うから」は女性（17.1％）が男性（11.4％）より5.7ポイント高くなっている。

年代別でみると、18～59歳では「けんかの範囲だと思うから」が最も割合が高く、60歳以上は「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」が最も高くなっている。80歳以上は「配偶者や交際相手等の側にも非があったと思うから」（33.3％）と「配偶者や交際相手等の間ではよくあることだと思うから」（33.3％）も3割半ば近くと高くなっている。

暴力に当たらないと考える理由 性別／年代別

単位：％

		けんかの範囲だと思うから	相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから	配偶者や交際相手等の側にも非があったと思うから	配偶者や交際相手等の間ではよくあることだと思うから	自分の考えを通すために必要な場合があると思うから	配偶者や交際相手等の間では許されると思うから	配偶者や交際相手等なら、相手の行動や交友関係を知るの（知られるのは）当たり前だと思うから	愛情表現だと思うから	その他	無回答
全体（n=909）		38.8	32.2	26.1	16.6	14.2	9.9	6.5	5.7	14.6	6.7
性別	男性（n=411）	34.8	34.1	28.2	17.3	11.4	10.2	7.3	8.0	13.9	7.3
	女性（n=480）	42.5	30.6	24.2	16.0	17.1	9.6	5.8	3.8	15.4	6.0
	その他（n=5）	60.0	60.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
年代別	18～29歳（n=92）	46.7	19.6	25.0	16.3	8.7	6.5	3.3	8.7	17.4	1.1
	30～39歳（n=120）	41.7	27.5	21.7	11.7	14.2	14.2	4.2	5.8	24.2	3.3
	40～49歳（n=159）	39.0	32.1	21.4	10.7	10.1	4.4	3.8	4.4	21.4	3.8
	50～59歳（n=172）	44.2	32.6	30.2	15.7	16.9	7.6	7.6	4.7	12.8	2.9
	60～69歳（n=127）	36.2	37.0	26.8	16.5	14.2	11.0	6.3	4.7	12.6	7.9
	70～79歳（n=138）	34.1	37.7	26.1	18.8	13.8	11.6	6.5	6.5	7.2	15.2
	80歳以上（n=81）	29.6	34.6	33.3	33.3	24.7	16.0	13.6	6.2	6.2	17.3

ライフステージ別でみると、「けんかの範囲だと思うから」は家族成長後期（55.6%）が5割半ばと最も高く、家族成長前期（48.8%）と家族成熟期（46.0%）も4割台と高くなっている。「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」は高齢期（42.4%）が4割強と最も高くなっている。

暴力に当たらないと考える理由 ライフステージ別

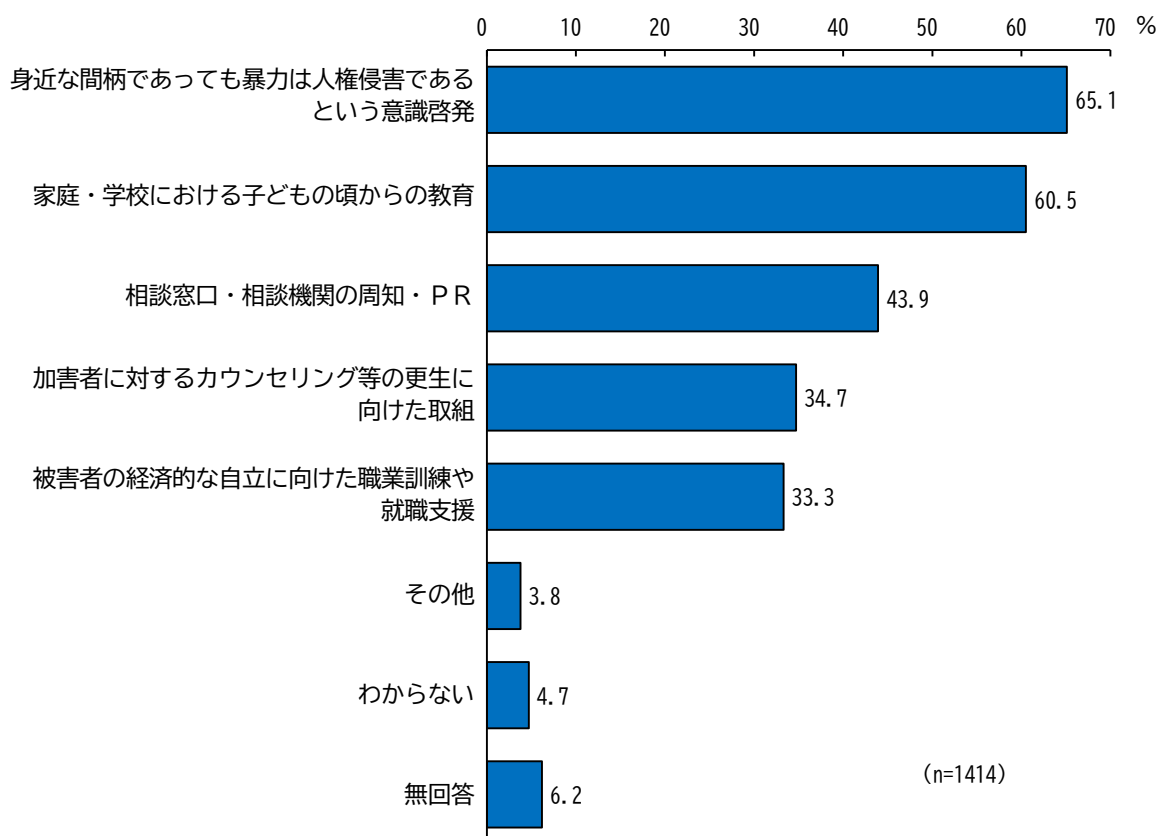
単位：%

		けんかの範囲だと思うから	相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから	配偶者や交際相手等の側にも非があったと思うから	配偶者や交際相手等の間ではよくあることだと思うから	自分の考えを通すために必要な場合があると思うから	配偶者や交際相手等の間では許されると思うから	配偶者や交際相手等なら、相手の行動や交友関係を知るの（知られるのは）当たり前だと思うから	愛情表現だと思うから	その他	無回答
	全体（n=909）	38.8	32.2	26.1	16.6	14.2	9.9	6.5	5.7	14.6	6.7
ライフステージ別	家族形成期（n=101）	37.6	24.8	15.8	9.9	9.9	10.9	5.0	8.9	28.7	5.0
	家族成長前期（n=82）	48.8	26.8	18.3	12.2	12.2	7.3	4.9	2.4	18.3	3.7
	家族成長後期（n=72）	55.6	37.5	22.2	20.8	15.3	11.1	4.2	5.6	8.3	2.8
	家族成熟期（n=50）	46.0	34.0	28.0	20.0	16.0	8.0	8.0	0.0	14.0	2.0
	高齢期（n=151）	38.4	42.4	32.5	26.5	19.2	13.9	9.3	6.6	3.3	11.9
	高齢期（一人暮らし）（n=73）	24.7	31.5	27.4	17.8	13.7	15.1	9.6	8.2	13.7	15.1
	一人暮らし（n=116）	37.9	23.3	26.7	12.1	10.3	11.2	5.2	4.3	23.3	2.6
	その他（n=264）	34.8	33.3	28.8	14.8	14.8	6.1	6.1	6.1	12.9	6.8

(5) 暴力防止や被害者支援のための取組

◇「身近な間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識啓発」が6割半ば

問 21 あなたは、配偶者や交際相手等からの暴力の防止や被害者支援のためにどのような取組を充実すべきだと思いますか。(〇はいくつでも)



暴力防止や被害者支援のための取組について聞いたところ、「身近な間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識啓発」(65.1%)が6割半ばで最も高く、以下、「家庭・学校における子どもの頃からの教育」(60.5%)、「相談窓口・相談機関の周知・PR」(43.9%)が続いている。

性別でみると、すべての取組で女性の方が男性より割合が高く、特に「加害者に対するカウンセリング等の更生に向けた取組」と「被害者の経済的な自立に向けた職業訓練や就職支援」は女性が3割台、男性が2割台で女性の方が7ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「身近な間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識啓発」は60～79歳が7割強と高く、「家庭・学校における子どもの頃からの教育」は18～29歳（68.1%）が7割近くと高くなっている。「相談窓口・相談機関の周知・PR」は30～39歳（49.5%）と50～59歳（49.4%）が5割弱と高く、「被害者の経済的な自立に向けた職業訓練や就職支援」は30～39歳（40.7%）が4割と高くなっている。

暴力防止や被害者支援のための取組 性別／年代別

単位：％

		身近な間柄 であっても 暴力は人権 侵害である という意識 啓発	家庭・学校 における子 どもの頃か らの教育	相談窓口・ 相談機関の 周知・PR	加害者に対 するカウ ンセリ ング等 の更生に 向けた取 組	被害者の経 済的な自立 に向けた職 業訓練や就 職支援	その他	わからない	無回答
全体（n=1414）		65.1	60.5	43.9	34.7	33.3	3.8	4.7	6.2
性別	男性（n=579）	63.2	58.2	41.5	29.5	29.4	3.5	5.7	4.7
	女性（n=797）	67.9	63.4	46.2	38.8	36.5	4.1	3.9	5.8
	その他（n=6）	66.7	66.7	66.7	50.0	50.0	16.7	0.0	0.0
年代別	18～29歳（n=135）	58.5	68.1	31.9	34.8	31.1	7.4	5.2	3.0
	30～39歳（n=182）	62.1	64.8	49.5	37.4	40.7	6.0	4.4	0.5
	40～49歳（n=219）	61.2	63.9	47.0	33.8	37.4	5.9	4.6	1.4
	50～59歳（n=255）	67.5	62.0	49.4	37.6	33.7	4.3	3.9	2.4
	60～69歳（n=213）	71.8	57.7	43.2	36.6	31.9	2.3	4.7	5.2
	70～79歳（n=232）	72.4	59.5	46.1	34.9	31.5	1.7	3.0	9.5
	80歳以上（n=145）	55.2	47.6	31.7	24.8	24.8	0.0	9.0	22.8

ライフステージ別でみると、「身近な間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識啓発」は家族成熟期（77.8%）と高齢期（74.7%）が7割台、「家庭・学校における子どもの頃からの教育」は家族形成期（72.0%）と家族成熟期（71.1%）が7割強と高くなっている。「相談窓口・相談機関の周知・PR」は高齢期（48.5%）と一人暮らし（48.1%）が5割近く、「加害者に対するカウンセリング等の更生に向けた取組」は家族成長前期（42.6%）と家族成熟期（40.0%）が4割台と高くなっている。

暴力防止や被害者支援のための取組 ライフステージ別

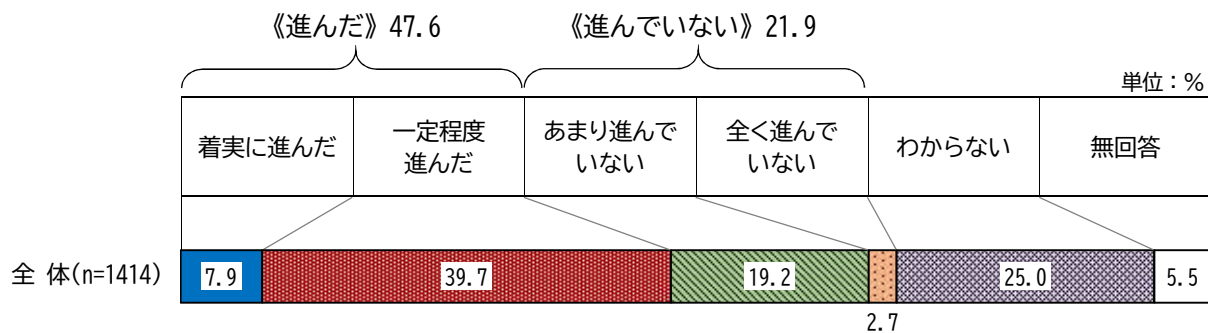
単位：％

		身近な間柄 であっても 暴力は人権 侵害である という意識 啓発	家庭・学校 における子 どもの頃か らの教育	相談窓口・ 相談機関の 周知・PR	加害者に対 するカウ ンセリング等 の更生に向 けた取組	被害者の経 済的な自立 に向けた職 業訓練や就 職支援	その他	わからない	無回答
全体（n=1414）		65.1	60.5	43.9	34.7	33.3	3.8	4.7	6.2
ライフ ス テ ー ジ 別	家族形成期（n=150）	63.3	72.0	36.7	32.0	36.0	8.0	3.3	0.7
	家族成長前期（n=115）	60.9	67.8	45.2	42.6	36.5	7.8	5.2	1.7
	家族成長後期（n=113）	64.6	64.6	38.9	35.4	29.2	2.7	2.7	3.5
	家族成熟期（n=90）	77.8	71.1	46.7	40.0	28.9	5.6	2.2	2.2
	高齢期（n=241）	74.7	58.9	48.5	37.3	37.8	1.2	5.8	5.4
	高齢期（一人暮らし）（n=128）	63.3	56.3	38.3	29.7	28.1	1.6	2.3	17.2
	一人暮らし（n=162）	61.7	58.0	48.1	34.0	37.7	3.1	4.3	2.5
	その他（n=415）	60.7	54.0	44.3	32.3	30.8	3.6	6.3	9.4

（６）性的マイノリティに対する地域社会の理解

◇《進んだ》が４割半ばを超える

問 22 この数年間で、ＬＧＢＴ等の性的マイノリティの方々に対する地域社会の理解が進んだと思いますか。（○は１つだけ）



（注） 《進んだ》＝「着実に進んだ」＋「一定程度進んだ」

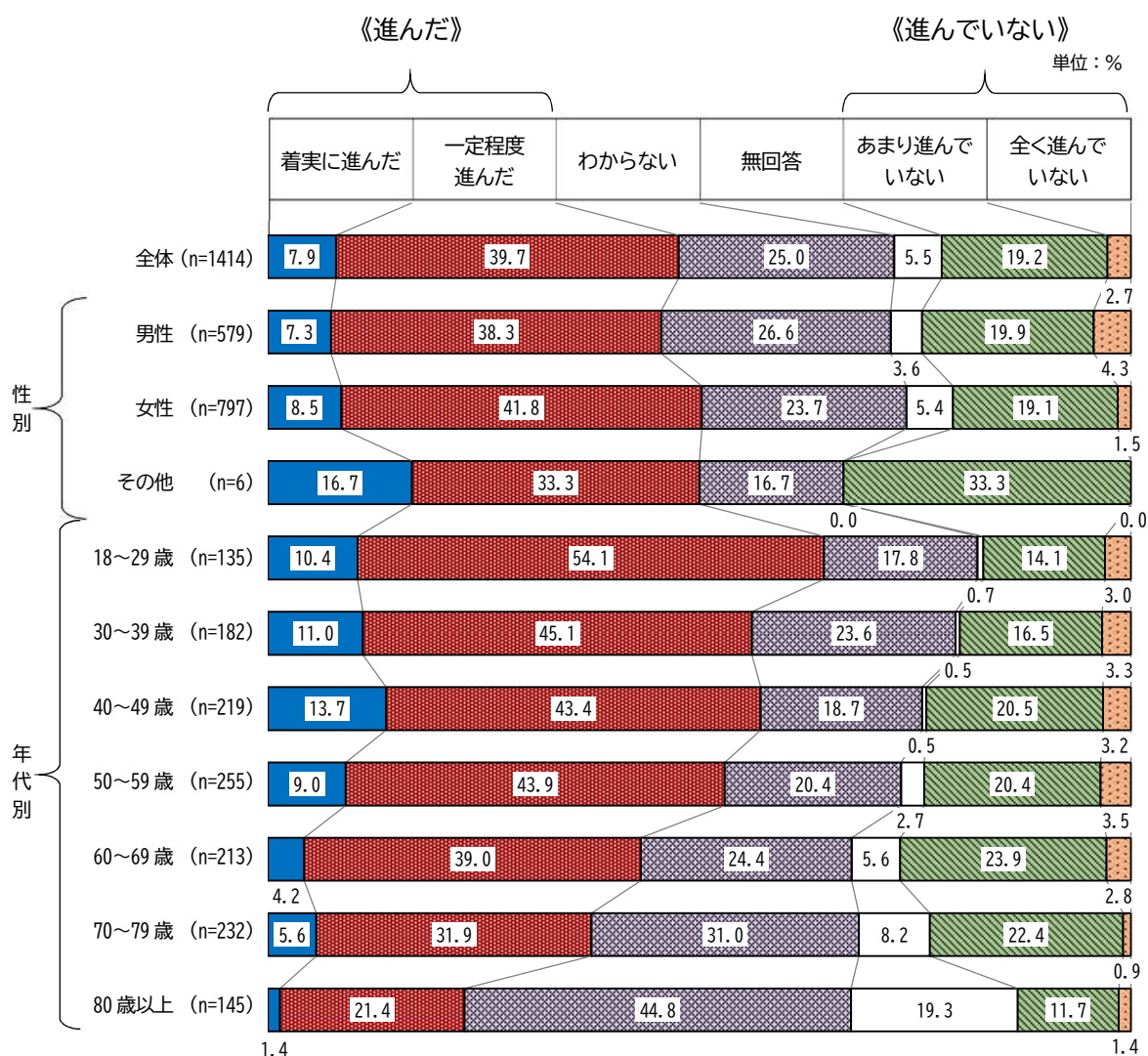
《進んでいない》＝「あまり進んでいない」＋「全く進んでいない」

性的マイノリティに対する地域社会の理解について聞いたところ、「着実に進んだ」（7.9％）と「一定程度進んだ」（39.7％）を合わせた《進んだ》（47.6％）は４割半ばを超えている。一方、「あまり進んでいない」（19.2％）と「全く進んでいない」（2.7％）を合わせた《進んでいない》（21.9％）は２割強となっている。

性別でみると、「着実に進んだ」と「一定程度進んだ」を合わせた《進んだ》は女性（50.3%）が5割で、男性（45.6%）より4.7ポイント高くなっている。一方、「あまり進んでいない」と「全く進んでいない」を合わせた《進んでいない》は男性（24.2%）が女性（20.6%）より3.6ポイント高くなっている。

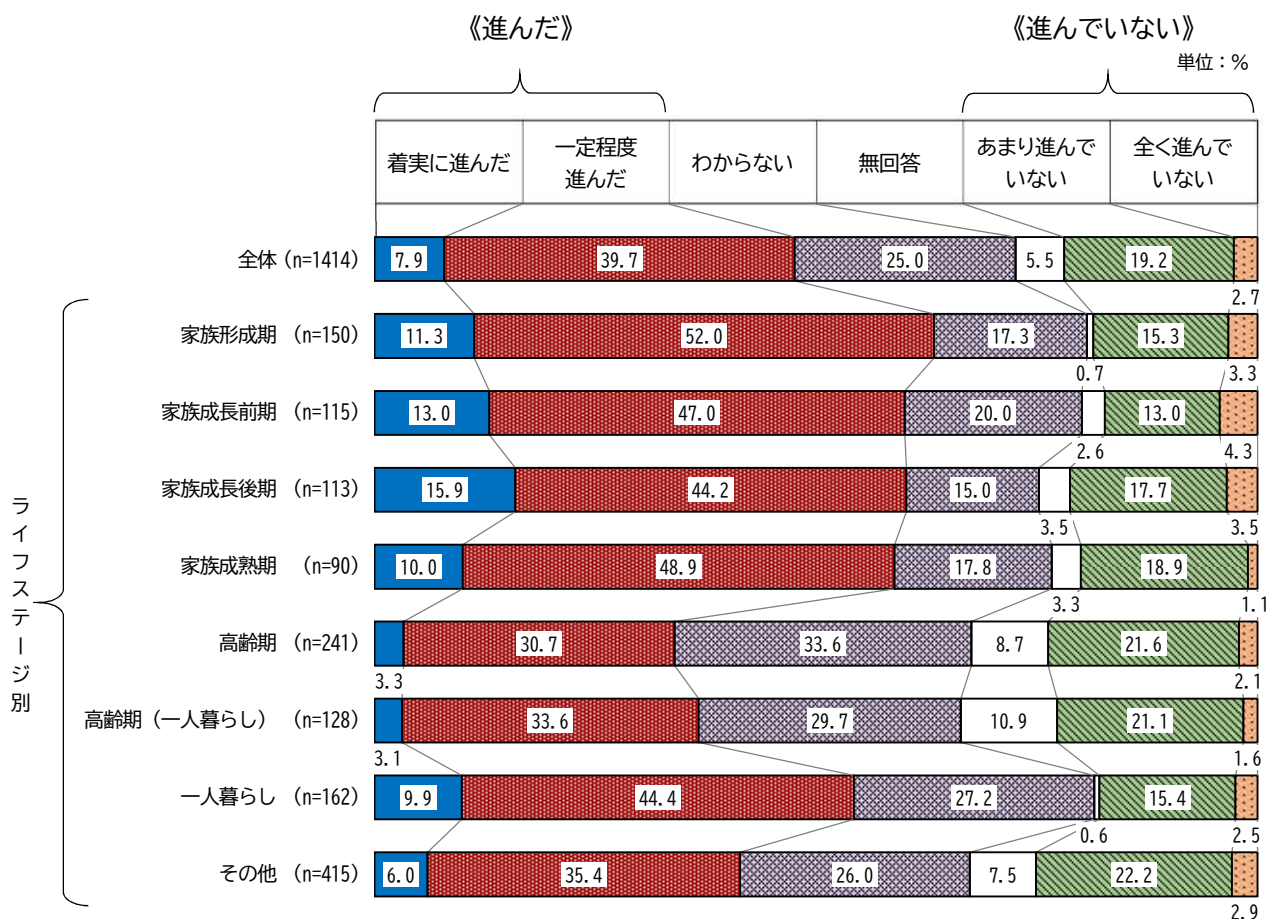
年代別でみると、「着実に進んだ」と「一定程度進んだ」を合わせた《進んだ》は年齢層が低いほど割合が概ね高くなる傾向にあり、18～29歳（64.5%）は6割半ば近く、30～59歳も5割台となっている。一方、「あまり進んでいない」と「全く進んでいない」を合わせた《進んでいない》は60～69歳（26.7%）で2割半ばを超えて最も高くなっている。

性的マイノリティに対する地域社会の理解 性別／年代別



ライフステージ別でみると、「着実に進んだ」と「一定程度進んだ」を合わせた《進んだ》は家族形成期（63.3%）が6割半ば近く、家族成長前期（60.0%）と家族成長後期（60.1%）が6割、家族成熟期（58.9%）が6割近くと高くなっている。一方、「あまり進んでいない」と「全く進んでいない」を合わせた《進んでいない》はその他（25.1%）が2割半ば、高齢期（23.7%）が2割半ば近くと高くなっている。

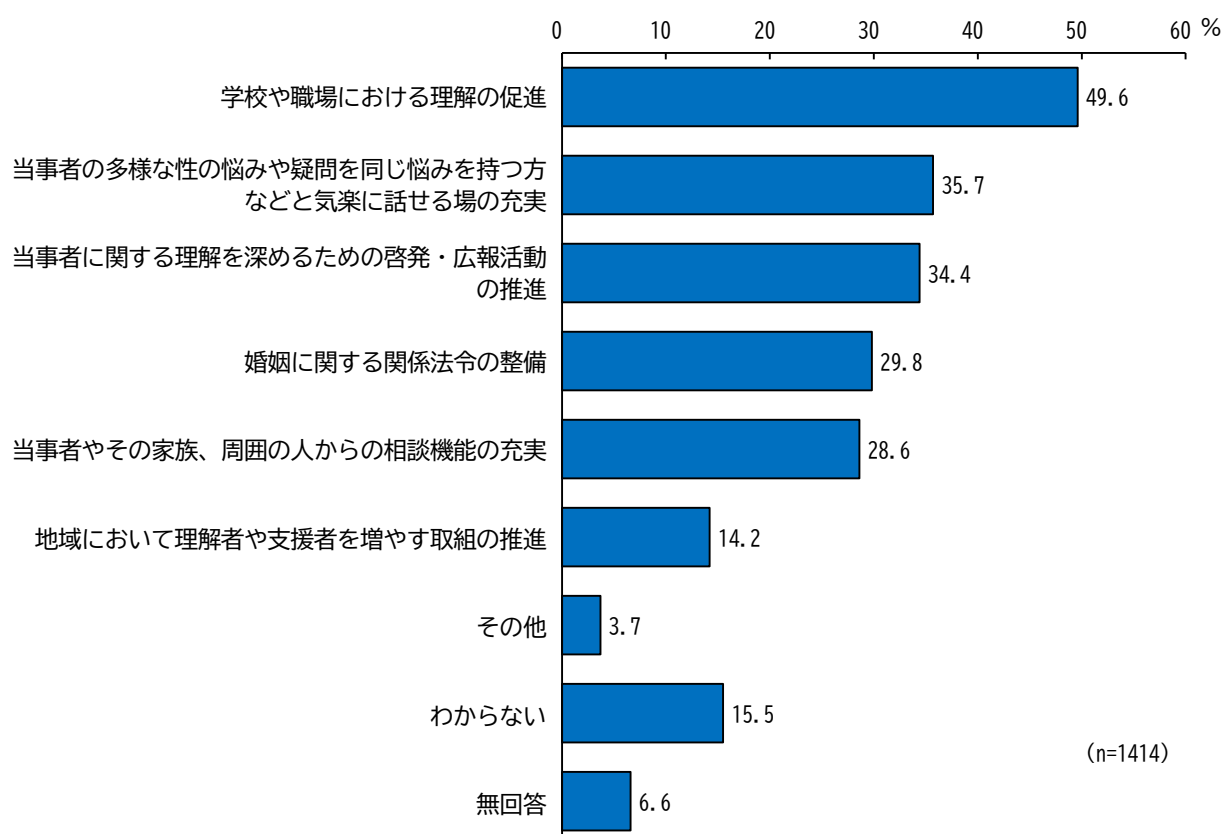
性的マイノリティに対する地域社会の理解 ライフステージ別



(7)性的マイノリティの人権を尊重するための取組

◇「学校や職場における理解の促進」が5割弱

問 23 性的マイノリティの当事者への配慮・支援に関し、人権を尊重するためにどのような取組が必要だと考えますか。(〇は4つまで)



性的マイノリティの人権を尊重するための取組について聞いたところ、「学校や職場における理解の促進」(49.6%)が5割弱で最も高く、以下、「当事者の多様な性の悩みや疑問を同じ悩みを持つ方などと気楽に話せる場の充実」(35.7%)、「当事者に関する理解を深めるための啓発・広報活動の推進」(34.4%)が続いている。

性別でみると、「婚姻に関する関係法令の整備」は女性（33.4％）が男性（26.3％）より7.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、「学校や職場における理解の促進」は50～59歳（60.8％）が6割、18～49歳が5割台と高くなっている。「当事者の多様な性の悩みや疑問を同じ悩みを持つ方などと気楽に話せる場の充実」は18～39歳が4割台、「当事者に関する理解を深めるための啓発・広報活動の推進」は60～79歳が4割台と高くなっている。「婚姻に関する関係法令の整備」は年齢層が低いほど割合が高くなっており、18～29歳（47.4％）が4割半ばを超えている。

性的マイノリティの人権を尊重するための取組 性別／年代別

単位：％

		学校や職場における理解の促進	当事者の多様な性の悩みや疑問を同じ悩みを持つ方などと気楽に話せる場の充実	当事者に関する理解を深めるための啓発・広報活動の推進	婚姻に関する関係法令の整備	当事者やその家族、周囲の人からの相談機能の充実	地域において理解者や支援者を増やす取組の推進	その他	わからない	無回答
全体（n=1414）		49.6	35.7	34.4	29.8	28.6	14.2	3.7	15.5	6.6
性別	男性（n=579）	48.0	36.3	36.4	26.3	28.0	13.3	5.0	16.2	4.8
	女性（n=797）	51.7	36.1	33.6	33.4	29.6	15.6	2.9	14.7	6.4
	その他（n=6）	50.0	33.3	33.3	50.0	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0
年代別	18～29歳（n=135）	56.3	43.0	26.7	47.4	25.9	9.6	8.1	9.6	2.2
	30～39歳（n=182）	54.9	40.1	26.9	45.6	29.1	12.1	6.6	8.8	2.2
	40～49歳（n=219）	52.1	38.8	33.3	34.2	29.7	11.9	4.6	15.1	1.8
	50～59歳（n=255）	60.8	36.5	33.3	28.6	32.5	20.4	4.3	12.2	2.7
	60～69歳（n=213）	47.9	29.6	44.1	23.9	28.6	14.6	2.3	19.2	4.7
	70～79歳（n=232）	40.1	34.5	41.4	22.0	27.6	15.5	0.9	22.0	9.5
	80歳以上（n=145）	31.7	29.7	29.7	11.0	24.8	11.7	0.7	22.1	22.8

ライフステージ別でみると、「学校や職場における理解の促進」は家族成熟期（63.3%）が6割半ば近く、家族成長前期（58.3%）と家族成長後期（58.4%）が6割近く、家族形成期（56.7%）が5割半ばを超えて高くなっている。「当事者の多様な性の悩みや疑問を同じ悩みを持つ方などと気楽に話せる場の充実」は家族形成期（43.3%）が4割半ば近く、「当事者に関する理解を深めるための啓発・広報活動の推進」は家族成熟期（43.3%）と高齢期（41.5%）が4割台、「婚姻に関する関係法令の整備」は家族形成期（48.7%）と一人暮らし（44.4%）が4割台と高くなっている。

性的マイノリティの人権を尊重するための取組 ライフステージ別

単位：%

	学校や職場における理解の促進	当事者の多様な性の悩みや疑問を同じ悩みを持つ方などと気楽に話せる場の充実	当事者に関する理解を深めるための啓発・広報活動の推進	婚姻に関する関係法令の整備	当事者やその家族、周囲の人からの相談機能の充実	地域において理解者や支援者を増やす取組の推進	その他	わからない	無回答
全体（n=1414）	49.6	35.7	34.4	29.8	28.6	14.2	3.7	15.5	6.6
ライフステージ別									
家族形成期（n=150）	56.7	43.3	20.7	48.7	27.3	9.3	8.0	10.0	2.0
家族成長前期（n=115）	58.3	37.4	33.9	24.3	33.0	12.2	2.6	16.5	2.6
家族成長後期（n=113）	58.4	34.5	33.6	32.7	28.3	15.9	5.3	8.0	4.4
家族成熟期（n=90）	63.3	37.8	43.3	36.7	23.3	17.8	4.4	8.9	3.3
高齢期（n=241）	42.7	34.9	41.5	17.8	30.3	13.3	1.7	22.8	7.5
高齢期（一人暮らし）（n=128）	39.8	32.0	37.5	27.3	25.0	14.8	0.8	18.8	14.8
一人暮らし（n=162）	48.8	37.0	34.0	44.4	25.9	13.6	6.8	16.0	0.0
その他（n=415）	46.5	33.5	32.8	24.3	30.4	15.9	2.7	15.2	10.4